

古賀西小学校屋上防水等改修工事

建 築		機 械 設 備		電 気	
図 面 番 号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
A-01	表紙・図面目録	M-01	特記仕様書 (1)	E-01	特記仕様書
A-02	特記仕様書 (1)	M-02	特記仕様書 (2)	E-02	配置図・付近見取図
A-03	特記仕様書 (2)	M-03	施工区分表	E-03	電灯コンセント設備 (改修前・改修後)
A-04	特記仕様書 (3)	M-04	管理棟 平面詳細図 機械表 凡例 (改修前・改修後)	E-04	弱電設備 (改修前・改修後)
A-05	特記仕様書 (4)				
A-06	特記仕様書 (5)				
A-07	配置図・付近見取図・仕上表				
A-08	教室棟 1 階平面図 (改修前・改修後)				
A-09	教室棟 2 階平面図 (改修前・改修後)				
A-10	教室棟 3 階平面図 (改修前・改修後)				
A-11	教室棟 R 階平面図 (改修前・改修後)				
A-12	教室棟 立面図 (外壁改修)				
A-13	教室棟 断面詳細図 (改修前・改修後)				
A-14	管理棟 1 階平面図 (改修前・改修後)				
A-15	管理棟 2 階平面図 (改修前・改修後)				
A-16	管理棟 R 階平面図 (改修前・改修後)				
A-17	管理棟 立面図 (外壁改修)				
A-18	管理棟 断面詳細図 (改修前・改修後)				
A-19	管理棟 理科室 (2) 平面詳細図・天井伏図 (改修前・改修後)				
A-20	管理棟 理科室 (2) 展開図 (改修前)・撤去家具類リスト				
A-21	管理棟 理科室 (2) 展開図 (改修後)				
A-22	家具等詳細図				
A-23	外構図				
A-24	仮設計画図				
A-25	フェンス参考図 (教室棟)				
A-26	フェンス参考図 (管理棟)				
A-27	手すり参考図				



[illegible]

[illegible]

⑤

建具改修工事

〔5章〕

①改修工法の適用

[5.1.3～5.7]

②性能及び構造

[5.2.2]

3.材料

[5.2.3]

④形状及び仕上げ

[5.2.4]

5.工法

[5.2.5]

6.障子取り外し方

式

7.性能及び構造

[5.4.2]

8.形状及び仕上げ

[5.4.4]

[表5.4.2]

9.性能及び構造

[5.5.2]

10.材料

[5.5.3]

11.形状及び仕上げ

[5.5.4]

12.性能及び構造

[5.6.2]

13.材料

[5.6.3]

14.形状及び仕上げ

[5.6.4]

15.工法

[5.6.5]

16.材料

[5.7.2]

14.形状及び仕上げ

[5.7.3]

15.工法

[5.7.4]

⑯材質、形状及び寸法

[5.8.2]

⑰取付け施工

[5.8.3]

⑱鍵

[5.8.4]

(1節 共通事項)

建具の種類	工 法	備 考
・アルミニウム製建具	○かぶせ工法 ・撤去工法	○戸車交換
・鋼製建具	・外部 ・かぶせ工法 ・撤去工法	
・内部 ・かぶせ工法 ・撤去工法		
・鋼製軽量建具	・かぶせ工法 ・撤去工法	
・ステンレス製建具	・かぶせ工法 ・撤去工法	

新規建具を設ける壁の開口方法、周囲の補修方法・範囲 ※図面図示による
防火戸の指定、「防犯建物部品」の適用 ※図面図示による
建具見本の製作 ・行う ※行わない
特殊建具の仮組 ・行う ・行わない

(2節 アルミニウム製建具)

外部に面する建具

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法 (mm)
・A種	S－4	A－3	W－4	⊗70 ・100
○B種	S－5			
・C種	S－6	A－4	W－5	※100 ・()

防音ドアセット、防音サッシ ・適用する(等級) ・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシ ・適用する(等級) ・適用しない
耐震ドアセット ・適用する(面内変形追随性等級) ・適用しない

網戸 ※合成樹脂製 (線径0.25mm以上、網目16～18mm)
・ガラス繊維入り合成樹脂製 (線径・網目)
・ステンレス製 (SUS316) (線径・網目)

表面処理 外部 ・BB-1種 ・()
内部 ・AC-1種 ・()
※シルバー色
結露水処理 ※図面図示による
水切り板、ぜん板等 ※図面図示による
※内はずし ・外はずし ・図示
学校施設については、内はずしを標準とする。

(4節 鋼製建具)

外部に面する鋼製建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6
簡易気密型ドアセット ※適用する(A-3、W-1) ・適用しない
防音ドアセット、防音サッシ ・適用する(等級) ・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシ ・適用する(等級) ・適用しない
耐震ドアセット ・適用する(面内変形追随性等級) ・適用しない

鋼板類の厚さ ※表5.4.2による ・図面図示による
(注) 片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950mm
又は有効高さが2,400mmを超える場合は表16.4.2は適用しない。

(5節 鋼製軽量建具)

簡易気密型ドアセット ※適用する(等級 A-3) ・適用しない
防音ドアセット、防音サッシ ・適用する(等級) ・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシ ・適用する(等級) ・適用しない
耐震ドアセット ・適用する(面内変形追随性等級) ・適用しない

鋼板		めっき付着量
・溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G3302)	※Z06又はF06	・()
・電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G3313)	※E24	・()
・ビニル被覆鋼板 (JIS K6744) ・SG ・SE	・Z06又はF06 ・E24	
・カラー鋼板 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板	※Z06又はF06	・()
・電気亜鉛めっき鋼板	※E24	・()

・召合せ、縦小口包み板等の材質
※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金の押出形材

鋼板類の厚さ ※表5.5.1による ・図面図示による
(注) 片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950mm
又は有効高さが2,400mmを超える場合は表16.5.1は適用しない。

(6節 ステンレス製建具)

外部に面する鋼製建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6
簡易気密型ドアセット ※適用する(A-3、W-1) ・適用しない
防音ドアセット、防音サッシ ・適用する(等級) ・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシ ・適用する(等級) ・適用しない
耐震ドアセット ・適用する(面内変形追随性等級) ・適用しない

材質 屋外 ※SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 ・()
屋内 ※SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 ・()

表面仕上げ ※H L ・()

曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ

(7節 木製建具)

含水率 ※A種 ・B種

・図面図示による。

ふすま 縁仕上げ ・図面図示による

(8節 建具用金物)

金物の種類及び見え掛り部の材質 ※図面図示する ・表5.8.1
樹脂製建具金物に使用する丁番 ※表5.8.3による

握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセント等の取付け位置
※図面図示による

・マスターキー ※製作する ・製作しない ・既存に合わせる
・鍵の本数 ※3本1組 ・()
・鍵箱 (既製品) ・用意する ・用意しない

⑯材料 [5.14.2]

⑳ガラス溝の寸法、形状等 [5.14.3]

21.ガラスブロック積み [5.14.5]

22.ガラス用フィルム

(14節 ガラス)

板ガラス 材料は「I S規格品とし、厚さ・種類等は図面図示による。
ガラス留め材 ○シーリング
・グレイジングガスケット (グレイジングチャンネル形)
・グレイジングガスケット (グレイジングビート形)
溝の大きさ ※建具製造所の仕様 ・()

ガラスブロックの表面形状、呼び寸法及び厚さ、壁用金属枠及び補強材、
金属製化粧カバーの材質、寸法、形状 ※図面図示による
化粧目地モルタル色 ・()
目地幅の寸法 ※5.14.5(2)(a)による ・()
伸縮調整目地の位置 ※5.14.5(2)(a)(b)による ・()
目地部の横力骨の納まり ※製造所の仕様による ・図面図示による

名 称	種 類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り ・外張り	飛散防止率 D1

品質JIS A 5759による

(1節 共通事項)

既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲
・ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
※ 図示の範囲
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
・ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
※ 図示の範囲
天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
・ 既存のまま
※ 図示の範囲

2.既存床の撤去及び下地補修 [6.2.2]

ビニル床シート等の撤去
※ 仕上材のみ (接着剤とも)
・ 下地モルタルとも (※ 図示による ・撤去範囲全て)
合成樹脂塗床材の除去工法
・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル
及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。
改修後の床の清掃範囲
※ 図示による

③既存壁の撤去及び下地補修 [6.3.2]

開仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
※ 改修標準仕様書4.4.9によるモルタル塗り
(塗り厚25mmを超える場合の処理 ※ 図示による)
材料のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆又は改修標準仕様書6.5.2(1)(ウ)(b)による
・ JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材

④施工一般 [6.5.2]

・製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
		※2級 ・	※A種 ・B種	
		※2級 ・	※A種 ・B種	

・ JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
見え掛り面		※上小節 ・	※A種 ・B種	
見え掛り面以外		※小節以上 ・	※A種 ・B種	

・ JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
		※1級 ・	※10%以下 ・A種 ・B種	
		※1級 ・	※10%以下 ・A種 ・B種	
		※1級 ・	※10%以下 ・A種 ・B種	

・ JAS 1083 (製材) 以外の製材

施工箇所	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理	含水率
		() 造作材の場合 (※A種 ・B種)	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・
		() 造作材の場合 (※A種 ・B種)	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・
		() 造作材の場合 (※A種 ・B種)	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・

・造作用集成材

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面	見付け材面の品質
					※1等 ・2等
					※1等 ・2等
					※1等 ・2等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面	見付け材面の品質
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率
				※15%以下 ・
				※15%以下 ・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・

・ JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法 (mm)	表面の品質	防虫処理
				・適用する ・適用しない

・ JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質	含水率	防虫処理
			※14%以下 ・	・適用する ・適用しない

・ JAS 3079に基づく直交集成板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)

・「合板の日本農林規格」による普通合板

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ (mm)	防虫処理	強度等級
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上 ・	※12 ・	・適用 ・適用しない	()

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の性能	防虫処理
			・特類 ・1類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の性能	防虫処理の適用
			・1類 ・2類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ (mm)	接着の性能	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用
		・1類 ・2類			・適用する ・適用しない

・パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)
		※13タイプ ・	※P又はM ・		・15 ・

・構造用パネル

施工箇所		品名	寸法 (mm)

・MDF

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

造作材の化粧面の釘打ち
※ 隠し釘打ち
・ 釘頭埋め木
・ つぶし頭釘打ち
・ 釘頭現し

諸金物
※ かすがい、座金、箱金物、短冊金物
(改修標準仕様書表6.5.3～5に示す程度の市販品 表8.20.1のF種程度)
・ (形状： 寸法： 材質：)
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆
・

⑤接合具等 [6.5.3]

⑥接着剤 [6.5.3、4]

神崎信二

一級建築士 第323073号

福岡県知事登録第1-30027号

株式会社 海 渡 設 計

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

特記仕様書 (3)

A3 縮尺 — No A-0 4

A1 縮尺 — 日付 2024年12月

⑥内装改修工事〔6章〕(続き)1

7. 防腐・防蟻処理
[6. 5. 5]

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理
適用部材保存処理性能区分
・K2・K3・K4
・K2・K3・K4
・K2・K3・K4
・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理
適用部材処理の方法薬剤の種類
※改修標準仕様書6. 5. 5 (1) (b) ②による※JIS K 1571に適合又は同等品
・
・
・
・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
適用部位()
・合板等の加圧注入処理等の適用
適用部位()
・間仕切軸組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
※杉又は松
・床組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
※杉又は松
・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉
・
・縁甲板及び上がりがまちに用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
※ひのき

⑧内部間仕切軸組及び床組み
[6. 5. 6]

9. 窓、出入口その他
[6. 5. 7]

10. 床板張り
[6. 5. 8]

⑪壁及び天井下地
[6. 5. 9]

⑫軽量鉄骨天井下地
[6. 6. 2]

[6. 6. 3]

[6. 6. 4]

⑬軽量鉄骨壁下地
[6. 7. 3]

[6. 7. 1]

[6. 7. 4]

14. ビニル床シート
[6. 8. 2、3]

15. ビニル床タイル
[6. 8. 4]

・特殊機能床材
シート・タイルの種類種類性能厚さ、寸法、形状(mm)
・帯電防止床シート厚さ:
・帯電防止床タイル寸法: 厚さ:
・視覚障害者用の床タイルー形状:
・耐動荷重性床シート厚さ:
・防滑性床シート厚さ:
・防滑性床タイル寸法: 厚さ:
○ビニル幅木材質の種類
・軟質・硬質
高さ(mm)
※60・75・100
厚さ(mm)
※1. 5以上
・ゴム床タイル種類・単層品・積層品
色柄()
厚さ(mm)・3. 0・4. 5・6. 0・9. 0
寸法(mm)() × ()
・織じゅうたん
織り方パイル形状帯電性
・ウィルトンカーペット・カットパイル・適用する
・ダブルフェースカーペット・ループパイル・適用しない
・アキスミンスターカーペット・カット/ループパイル
色柄(※模様のない無地・)
パイル糸の繊維種等
※無地の織りじゅうたんの種別(・A種・B種・C種)
・
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法・つづり縫い
下敷き材
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種1号 呼び厚さ 8mm
・タフテッドカーペット
パイルの形状パイルの長さ(mm)工法帯電性備考
・カットパイル・5~7・・全面接着工法・適用する
・ループパイル・4~6・・グリッパ工法・適用しない
・カット、ループ併用・
下敷き材(グリッパ工法の場合)
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種1号 呼び厚さ 8mm
・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・タイルカーペット
パイルの形状種類施工箇所寸法(mm)総厚さ(mm)備考
※ループパイル・第一種・※500×500※6. 5
・第二種・・
・カットパイル・第一種・※500×500※6. 5
・第二種・・
・カット・ループ併用・第一種・※500×500※6. 5
・第二種・・
タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
タイルカーペットの敷き方
平場※市松敷き・模様流し・()
階段部分※模様流し・市松敷き・()
見切り、押え金物
材質()
種類()
形状等※図示による
種類施工箇所工法仕上げの種類
・厚膜型薄塗材
弾性ウレタン樹脂系塗床材
厚膜型薄塗材
エポキシ樹脂系塗床材
・薄膜型塗床材
塗床材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

⑬フローリング張り
[6. 11. 2~5]

⑭フロア
[6. 11. 6]

⑯耐火間仕切り

⑰天井見切縁(廻り縁)

⑱点検口

⑳黒板及びホワイトボード

㉑木製建具

㉒カーテンボックス

㉓カーテンレール


㉔造作家具類

㉕流し

フローリングのホルムアルデヒド放散量等
※改修標準仕様書6. 11. 2 (2) による
単層フローリング
種類工法樹種厚さ、幅、長さ
・フローリングボード1等
・釘留め工法(根太張り)・
・釘留め工法(直張り)・
・接着工法・
・フローリングボード1等
・接着工法・
複合フローリング
種類工法樹種厚さ、幅、長さ
○複合フローリングボード1等
・釘留め工法(根太張り)・※改修標準仕様書6. 11. 2 による
・
・釘留め工法(直張り)・※改修標準仕様書6. 11. 4 による
・
・接着工法・※改修標準仕様書6. 11. 6 による
・
接着工法の場合の不陸緩和材
※合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ
・ウレタン樹脂ワニス塗り
二重床仕様: (○乾式二重床・湿式二重床)
床仕上げ高さ=既設FL+80mm
(70+10) 12mm、合板下貼12mmを貼った場合のフローリング上端までの高さ)
床の遮音性能: 軽量衝撃音LL-40、重量衝撃音 LH-50 程度
耐火構造とする
遮音性能を考慮し、壁内にグラスウール(24kg/m³ 50mm厚)を充填する
(遮音性能 TLD-50程度とする)
上貼面材: 強化石膏ボード12. 5mm等の二重張り
下地: 軽量鉄骨壁下地(スタッド65型 ランナー75型)
材種※アルミニウム押出型材 ○塩化ビニル製
施工箇所材種寸法
天井※アルミニウム・() ○φ50×450・600×600
床・アルミニウム・ステンレス・450×450・600×600
※福岡県黒板工事特記仕様書の項目を適用する・図示による
芯材: フラッシュ戸 面材: オレフィン系シート貼り
引き戸は下部にレールを用いることとする
材種・アルミ製 ○木製(EP-G塗装)
形状溝幅90×深さ150
材質※ステンレス製・アルミニウム製・鋼製
形状※C型またはD型・角型
合板類ホルムアルデヒド放出量※F☆☆☆☆
MDF、パーティクルボードホルムアルデヒド放出量※F☆☆☆☆
※シンク(ステンレス製)

㉚せっこうボード、その他のボード及び合板張り
[6. 13. 2]

せっこうボード、その他ボード
規格名称種類厚さ(mm)等
木質系セメント板
・硬質毛毛セメント板・15・20・25
・中質毛毛セメント板・15・20・25
・普通毛毛セメント板・15・20・25
・硬質木片セメント板・12・15・18・21
・普通木片セメント板・30
繊維強化セメント板
○けい酸カルシウム板タイプ2(無石綿) ⑥・8
火山性ガラス質複層板
・火山性ガラス質複層板・
(VSボード)
繊維板
・ミディアムデンシティファイバーボード(MDF)
・ハードボード(スタンダードボード)
・素地ハードボード(・無研磨板・研磨板)
・内装用化粧ハードボード(・無研磨板・研磨板)
・2. 5・3. 5・5・7
・ハードボード(テンバードボード)
・素地ハードボード(・無研磨板・研磨板)
・内装用化粧ハードボード(・無研磨板・研磨板)
・2. 5・3. 5・5・7
・インシュレーションボードA級
(・天井仕上げ・内装仕上げ・)
・9・12・15・18
パーティクルボード
・単板張りパーティクルボード
・無研磨板・研磨板
・10・12・15・18
・化粧パーティクルボード
・単板オーバーレイ
・プラスチックオーバーレイ塗装
・10・12
吸音材料
・ロックウール化粧吸音板
・フラットタイプ(・9(不燃)・12(不燃)・)
・凹凸タイプ(・9(不燃)・12(不燃)・)
・ロックウール吸音ボード1号・25
・グラスウール吸音ボード32K・25(ガラスクロス包)
せっこうボード製品
・せっこうボード
・12. 5(不燃)・15(不燃)
・不燃積層せっこうボード
・化粧無(下地張り用)
・化粧有(トラバーチン模様)
・9. 5(不燃)
・シージングせっこうボード
・12. 5(不燃)
○強化せっこうボード○12. 5(不燃)・15(不燃)
・せっこうラスボード
・9. 5
・化粧せっこうボード(木目)
模様(・柾目・板目)
専用下地材有り
○化粧せっこうボード(トラバーチン)
・9. 5(準不燃)
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
表面への化粧張り等の加工
※図示による
合板
種類規格防虫処理
○普通合板
表板の樹種名
板面の品質
厚さ※図示による・(mm)
・天然木化粧合板
化粧板の樹種名
厚さ※図示による・(mm)
・天然木化粧合板
化粧加工の方法
・オーバーレイ・プリント
・塗装
表面性能()
厚さ※図示による・(mm)
・特殊加工化粧合板

 株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

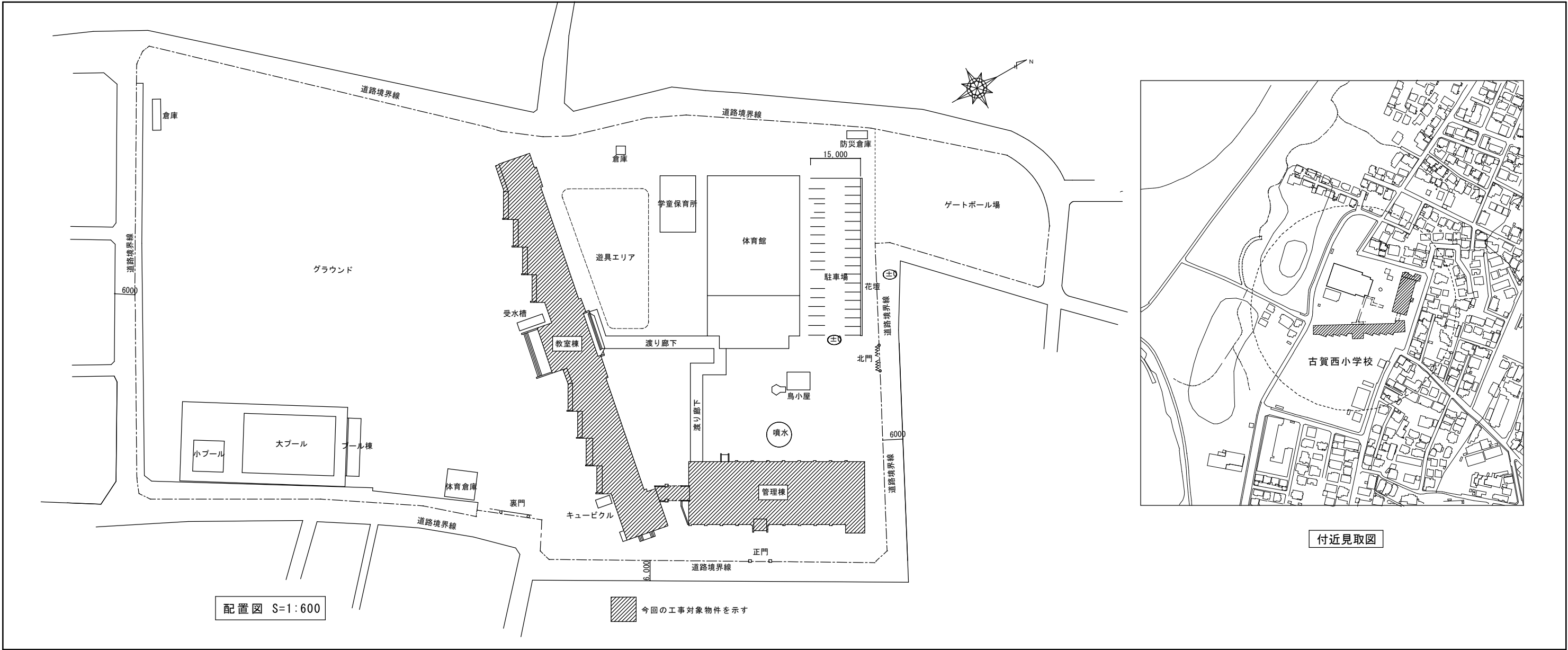
特記仕様書 (4)

A3 縮尺
—

No
A-0 5

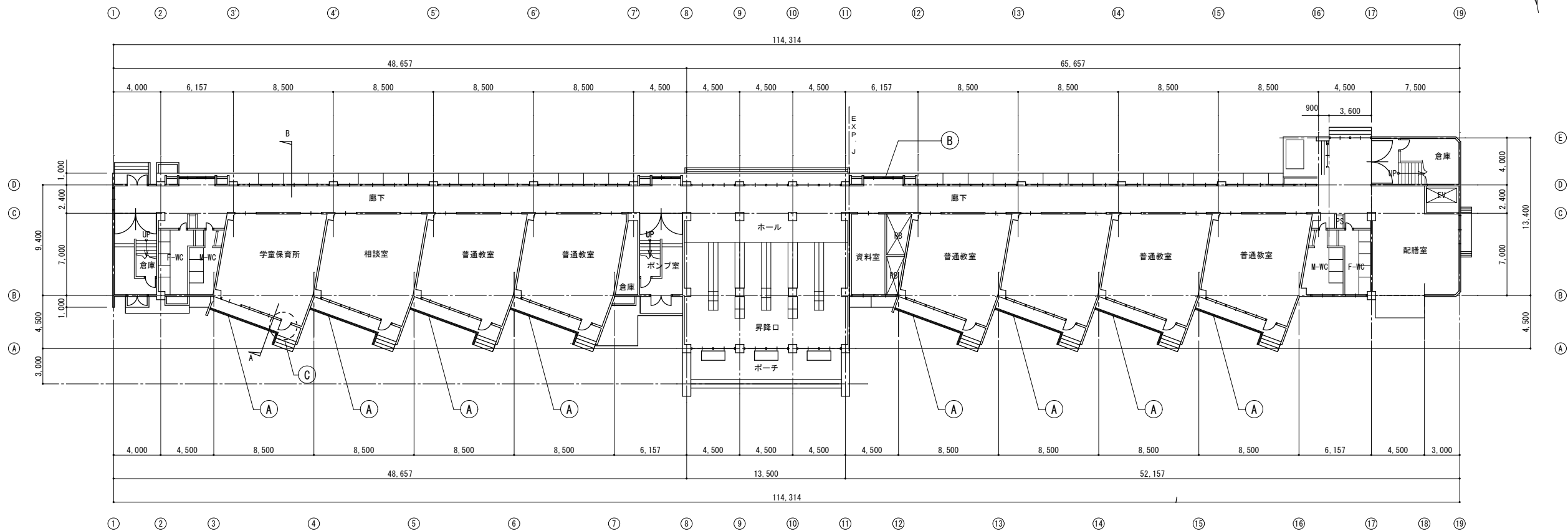
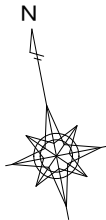
A1 縮尺
—

日付
2024年12月



□ 外部仕上表													
棟名	区分		改修前		改修後		棟名	区分		改修前		改修後	
教室棟	巾木		R C下地 M剛毛引き仕上げ 樹脂M塗り		既設のまま		管理棟	巾木		R C下地 M剛毛引き仕上		既設のまま	
	外壁		R C下地 M剛毛引き仕上げ タイル吹付		爆裂・露防部： 防錆処理 + ポリマーセメントM充填工法 + 防水型複層塗材E 0.2mm未満ひびわれ：シール工法（加とうエポキシ樹脂） 塗装脆弱・剥落部： 防水型複層塗材E			外壁		R C下地 M剛毛引き仕上 タイル吹付		爆裂・露防部： 防錆処理 + ポリマーセメントM充填工法 + 防水型複層塗材E	
	笠木		アルミ笠木（一時撤去）		既設再設置			笠木		アルミ笠木（一時撤去）		既設再設置（一部 新規アルミ笠木）	
	屋根		（最上層）塩ビ系シート防水t=2.0絶縁工法（撤去）（中間層）ウレタン塗膜防水（推定）（撤去） （最下層）シンダーR C下地 合成ゴム系塗膜防水 保護M40mm金鍍仕上（残置）		最上層・中間層の防水層撤去後、既設保護M（最下層）の上より ウレタン塗膜防水層 絶縁工法（X1工法）を新設			屋根		（上層）塩ビ系シート防水t=2.0絶縁工法（撤去） （下層）シンダーR C下地 合成ゴム系塗膜防水 保護M40mm（残置）		上層の防水層を撤去後、既設保護M（下層）の上より ウレタン塗膜防水 絶縁工法（X1工法）を新設	
	軒裏		R C下地 M剛毛引き仕上げ リシン吹付		爆裂・露防部： 防錆処理 + ポリマーセメントM充填工法 + 外装用薄塗材E 塗装脆弱・剥落部：脆弱部を除去の上、外装用薄塗材E			軒裏		R C下地 M剛毛引き仕上 リシン吹付		既設のまま	
	ベランダ床		塗膜防水保護M金コテ仕上		既設のまま			ポーチ床		R Cの上M下地 磁器質タイル 100角張り		既設のまま	
	ポーチ床		R Cの上M下地磁器質タイル 100角張り（昇降口：一部RCの上M下地磁器質タイル 100角張り）		既設のまま			樋・ドレン		縦樋：硬質塩化ビニル管100φ 掴み金物SUS304 @1200 ドレン：型ルーフトレン（塩ビ製） 横型ルーフトレンカバー（塩ビ製）		樋：既設のまま ドレンカバー：既設ドレンカバー撤去の上、改修用ドレンカバー新設	
	樋・ドレン		縦樋：カラーV P 100φ 掴み金物SUS304 @1200 ドレン：縦型ルーフトレン（塩ビ製） 縦型ルーフトレンカバー（塩ビ製）		縦樋：既設のまま ドレンカバー：既設ドレンカバー撤去の上、改修用ドレンカバー新設			その他		柵フェンス：スチールフェンス OP塗 手すり：スチール製手すり OP塗		柵フェンス：既設撤去の上、スチールフェンス（溶融亜鉛メッキ仕上げ）新設 手すり：既設撤去の上、アルミ製手すり新設	
	その他		柵フェンス：スチールフェンス OP塗 手すり：スチール製手すり OP塗		柵フェンス：既設撤去の上、アルミ製手すり新設								

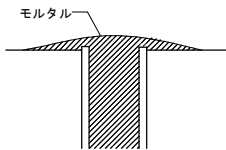
□ 内部仕上表																					
棟名	階数	室 名		床		幅 木		壁		新設 耐火間仕切壁（耐火構造）		天 井		天井高	天井廻縁	カーテンボックス	カーテンブラインド	室名札	備 考		
				下 地	仕 上	材 名	高さ	下 地	仕 上	下 地	仕 上	下 地	仕 上								
管理棟	2	既設 改修後	理科室(2)	W床組 ベ-2707- t=16.5	塩ビシート t=2.0貼り	木製巾木：V P 塗装 ソフト巾木	100 60	RC 一部：RCの上W	M金コテ仕上E P-G 塗装 シナベニヤ t=6張 目透かし貼り	—	—	木製または軽量鉄骨下地	有孔ケイカル板 t=6（一部無孔）	3,115mm	塩ビ	○	○	○	流し（人造石研出仕上） 解体撤去		
				既設床残しの上、 鋼製束によるOAフロア設置	複合フローリング貼り（t12） （新規FL=既設FL+80mm）	既設巾木撤去 ソフト巾木新設	60	RC 一部：RCの上W	M金コテ仕上E P-G 塗装 シナベニヤ t=6張 目透かし貼り	軽量鉄骨下地 壁間グラスウール充填	強化石膏ボード t=12.5mm 二重張り 不燃クロス仕上げ ※建築基準法114条2項の防火上主要な間仕切壁とする	既設撤去の上 新設 軽量鉄骨	化粧石膏ボード t=9.5mm	3,035mm	既設撤去 塩ビ新設	既設撤去 W新設	—	—			
管理棟	2	既設 改修後	理科室(1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	流し（人造石研出仕上） 撤去の上、ステン レス製流しの設置 （配管接続共）		
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
管理棟	2	既設 改修後	図工室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	有孔ケイカル板 t=6mm（推定）	—	—	—	—	—			
				—	—	—	—	—	—	—	—	雨漏り部のみ既設仕上げ撤去の上、新規有孔ケイカル板に交換	—	—	—	—	—				
凡例		RC	コンクリート			W	木製		OP	耐候性塗料塗		EP-G	つや有り合成樹脂エマルションペイント塗								
		M	モルタル					EP	合成樹脂エマルションペイント塗		VP	塩化ビニル樹脂塗料									
<div></div> <div>株式会社 海 渡 設 計</div> <div>神崎信二 一級建築士 第323073号 福岡県知事登録第1-30027号</div>										工事名称 古賀西小学校屋上防水等改修工事				図面名称 配置図・付近見取図・仕上表				A3 縮尺 1/1200		No A-07	
																		A1 縮尺 1/600		日付 2024年12月	



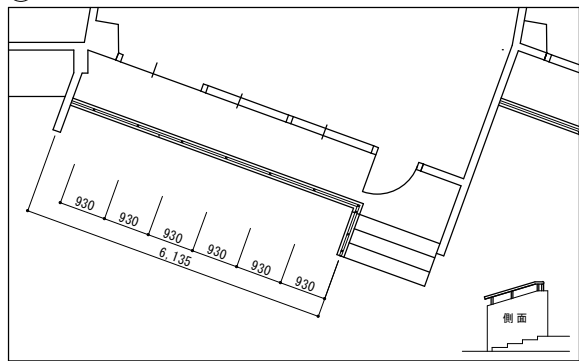
1階平面図 S=1:200

Ⓐ 手すり撤去部分 補修イメージ (2F, 3Fとも共通)

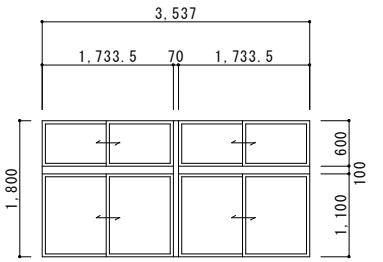
- ・手すりは極力笠木上に残さないようカットする
- ・スチールパイプ切断面を錆止めの上、パイプ内をモルタルで埋める
- ・笠木天端にスチールパイプの切断面が露出しないようモルタルで均す
- ・補修後、笠木天端は防水形複層塗材Eにて塗装する



Ⓐ 手摺部分



Ⓑ 廊下 アルミ製引き違い窓



※実測の上決定すること

凡例	Ⓐ	改修前	スチール製手摺 撤去 (手すりφ43、支柱φ36@930 笠木天端H=185) ・極力笠木上に残らないようカットする
		改修後	アルミ製手摺 新設 ・コ型ブラケット固定 (手すり参考図参照) (手すり 60×45かまぼこ型、支柱50×50@1200以内、笠木天端 H=185) ・撤去した手すりの切断面は、錆止め塗装の上、樹脂モルタル等でカバーする。 ・撤去部分補修後、手すり新設前に笠木を防水形複層塗材Eにて塗装する。
	Ⓑ	改修後	廊下 アルミ製引き違い窓 (雨漏りあり) (W3537×H1800 2段2通引き違い窓)
		改修後	廊下 アルミ製引き違い窓 カバー工法にて改修 ・窓ガラスは強化ガラスとする
	Ⓒ	改修前	ベランダ上 庇 (取り外し可能) (一時撤去)
		改修後	ベランダ上 庇 (木製) 復旧



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

教室棟 1階平面図 (改修前・改修後)

A3 縮尺
1/400

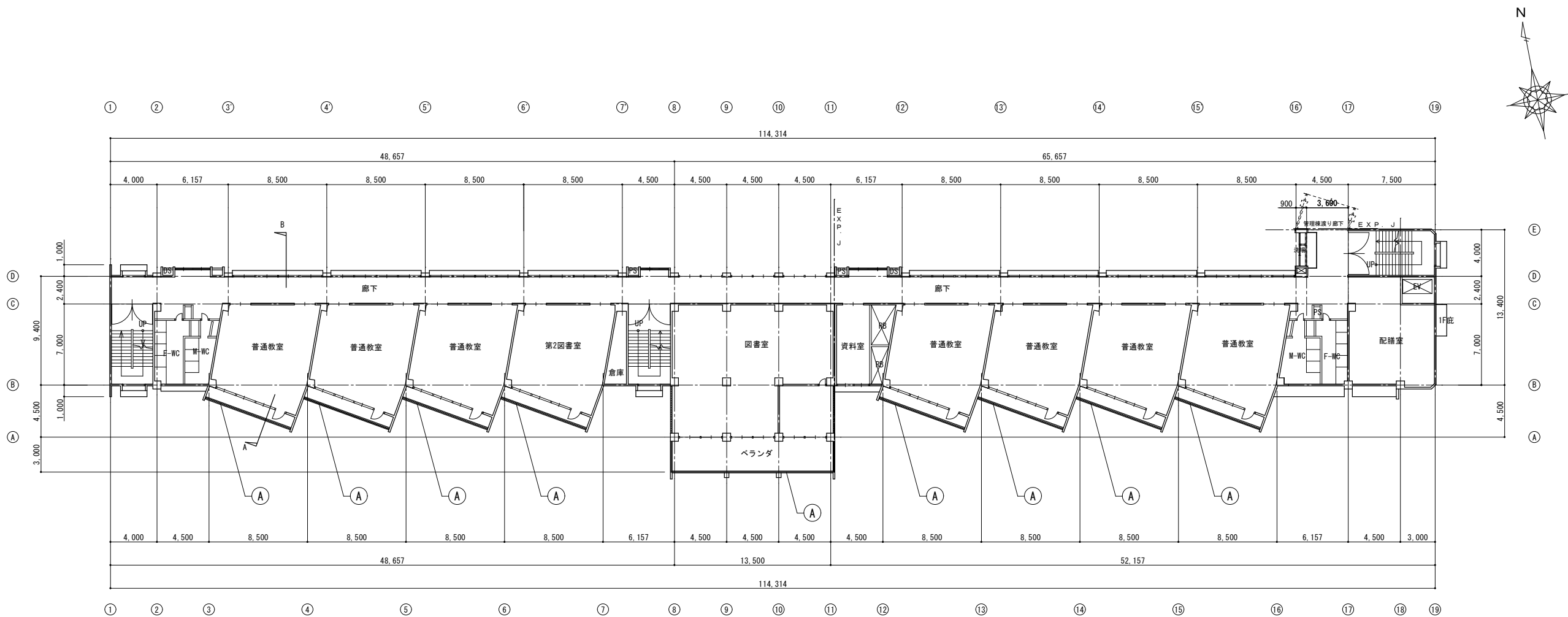
No

A-08

A1 縮尺
1/200

日付

2024年12月



2階平面図 S=1:200

凡例	A	改修前	スチール製手摺 撤去 (手すりφ43、支柱φ36@930 笠木天端H=185) ・極力笠木上に残らないようカットする
		改修後	アルミ製手摺 新設 ・コ型ブラケット固定 (手すり参考図参照) (手すり 60×45かまぼこ型、支柱50×50@1200以内、笠木天端 H=185) ・撤去した手すりの切断面は、錆止め塗装の上、樹脂モルタル等でカバーする。 ・撤去部分補修後、手すり新設前に笠木を防水形複層塗材Eにて塗装する。



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

教室棟 2階平面図 (改修前・改修後)

A3 縮尺
1/400

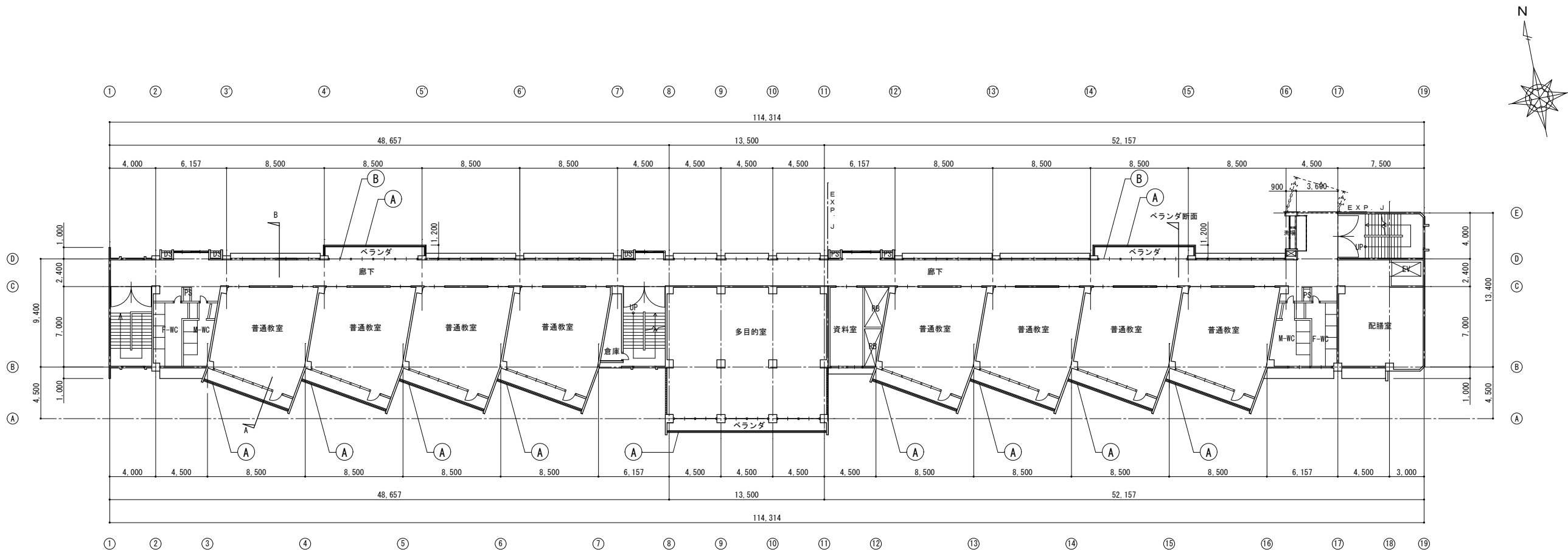
No

A-09

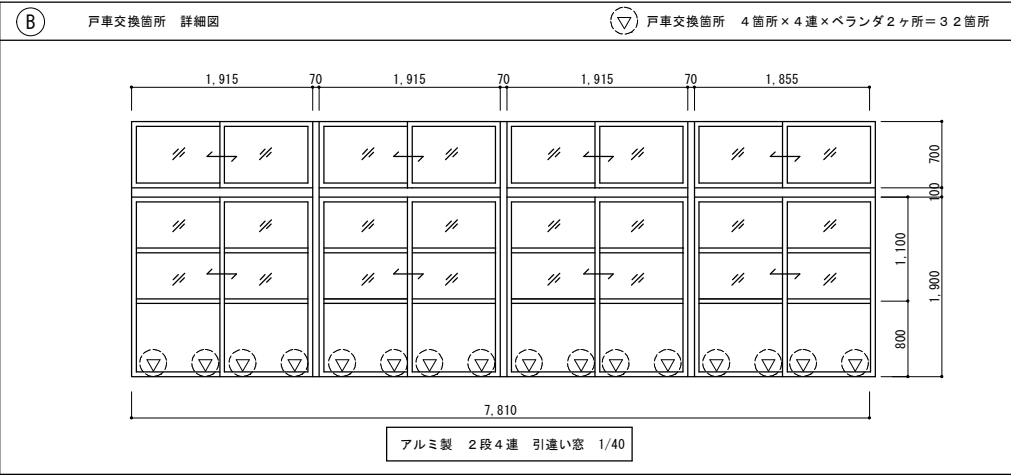
A1 縮尺
1/200

日付

2024年12月



3階平面図 S=1:200



凡例	A	改修前	スチール製手摺 撤去 (手すりφ43、支柱φ36@930 笠木天端H=185) ・極力笠木上に残らないようにカットする
		改修後	アルミ製手摺笠木 新設 (手すり 60×45かまぼこ型、支柱50×50@1200以内、笠木天端 H=185) ・撤去した手すりの切断面は、錆止め塗装の上、樹脂モルタル等でカバーする。 ・撤去部分補修後、手すり新設前に笠木を防水形複層塗材Eにて塗装する
	B	改修前	戸車 撤去 (32箇所) (詳細図参照)
		改修後	戸車 交換 (32箇所) (詳細図参照)



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

教室棟 3階平面図 (改修前・改修後)

A3 縮尺

1/400

No

A-10

A1 縮尺

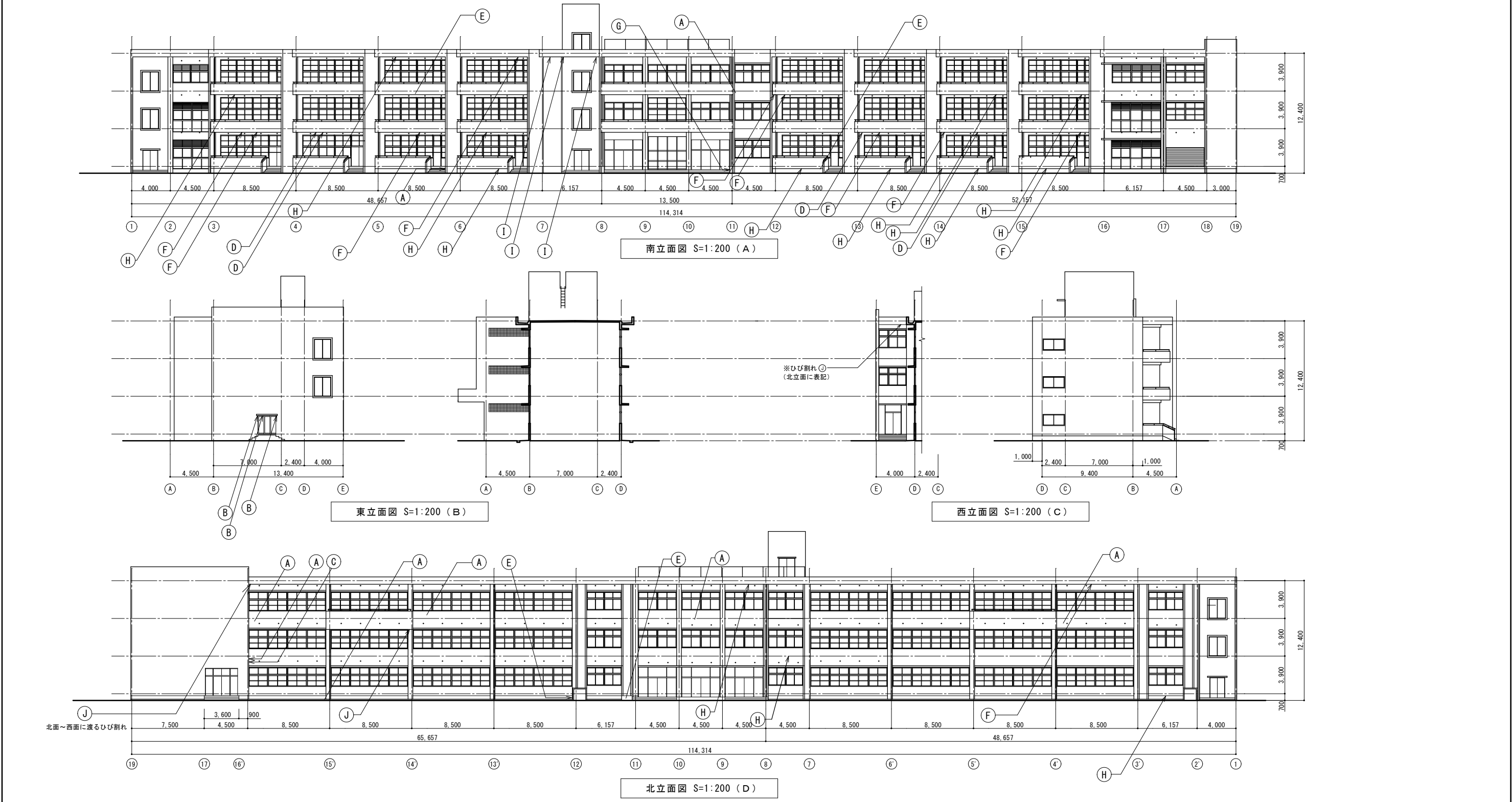
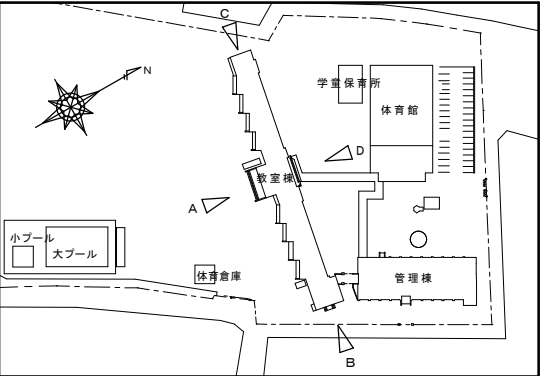
1/200

日付

2024年12月

凡例	符号	部位	既存下地 既存仕上	現況	種別	改修	補修数量
	(A)	外壁	R C下地 M刷毛引仕上 タイル吹付	爆裂・露筋	一般部 100mm×100mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（一般部）+ 防水型複層塗材 E	1 2箇所
	(B)	軒天	R C下地 M刷毛引仕上 リシン吹付	爆裂・露筋	指定部 100mm×100mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（指定部）+ 外装薄塗材 E	5箇所
	(C)	外壁	R C下地 M刷毛引仕上 タイル吹付	爆裂・露筋	一般部 100mm×300mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（一般部）+ 防水型複層塗材 E	2箇所
	(D)	軒天	R C下地 M刷毛引仕上 リシン吹付	爆裂・露筋	指定部 100mm×300mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（指定部）+ 外装薄塗材 E	6箇所
	(E)	外壁	R C下地 M刷毛引仕上 タイル吹付	爆裂・露筋	一般部 100mm×800mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（一般部）+ 防水型複層塗材 E	6箇所
	(F)	軒天	R C下地 M刷毛引仕上 リシン吹付	爆裂・露筋	指定部 100mm×800mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（指定部）+ 外装薄塗材 E	1 5箇所
	(G)	外壁	R C下地 M刷毛引仕上 タイル吹付	爆裂・露筋	一般部 800mm以上	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（一般部）+ 防水型複層塗材 E	1. 5m
	(H)	軒天	R C下地 M刷毛引仕上 リシン吹付	爆裂・露筋	指定部 800mm以上	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（指定部）+ 外装薄塗材 E	3 8. 4m
	(I)	軒天	R C下地 M刷毛引仕上 リシン吹付	塗膜脆弱・剥落部		外装薄塗材 E	計 9. 3㎡
	(J)	軒天	R C下地 M刷毛引仕上 リシン吹付	ひびわれ	0. 2mm未満	シール工法 可とうエポキシ樹脂	計 1 7. 6㎡

- ・安全性に問題のある箇所の改修とする
- ・施工の数量等は、現地調査の上、監督官と協議し決定する
- ・主に高所作業車による改修とする
- ・改修部の塗装は、小さな箇所はタッチアップ程度とするが
大きな補修箇所や目立つ箇所は、同一面全面塗装とする等、
監督官と協議し決定する



凡例 (改修前)	①	防水層 平場 (最上層)塩ビシート防水(絶縁工法)(撤去) (中間層)ウレタン塗膜防水(撤去) (最下層)合成ゴム系塗膜防水+保護モルタルt=40(残置)	⑤	スチール製フェンス H=1200 (撤去)
	②	防水層 立上り部等 最上層:塩ビシート防水(密着工法)(撤去)	⑥	フェンス基礎 (残置)
	③	防水層端部 防水押えシーリング(アスベストなし)(撤去)	⑦	外壁 一般部 モルタル塗の上 吹付タイル
	④	アルミ笠木 (一時撤去)	⑧	外壁:指定部 モルタル塗の上 リシン吹付
			⑨	窓ガラス

凡例 (改修後)	①	防水層 平場 ウレタン塗膜防水 絶縁工法(X2工法)新設 ・既設は最上層、中間層を撤去し、最下層の 保護モルタルの上から新規施工 (改修後下層)合成ゴム系塗膜防水+保護モルタルt=40	⑤	スチール製フェンス H=1200 新設 ・支柱は先行設置し、防水施工
	②	防水層 立上り部等 ウレタン塗膜防水 密着工法(X1工法)新設	⑥	フェンス基礎 ・既設フェンス撤去後、コア抜きして使用
	③		⑦	外壁 一般部 ・露筋・傷損箇所:防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填+防水型複層塗材E ・0.2mm以下 ひびわれ箇所:シール工法 可とうエポキシ樹脂+防水型複層塗材E
	④	アルミ製笠木 既設再設置	⑧	外壁:指定部 ・露筋・傷損箇所:防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填+外装薄塗材E ・0.2mm以下 ひびわれ箇所:シール工法 可とうエポキシ樹脂+外装薄塗材E
			⑨	窓ガラス:外壁改修部 清掃

図面名称

教室棟 断面詳細図 (改修前・改修後)

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

縮尺

A3 縮尺 1/80

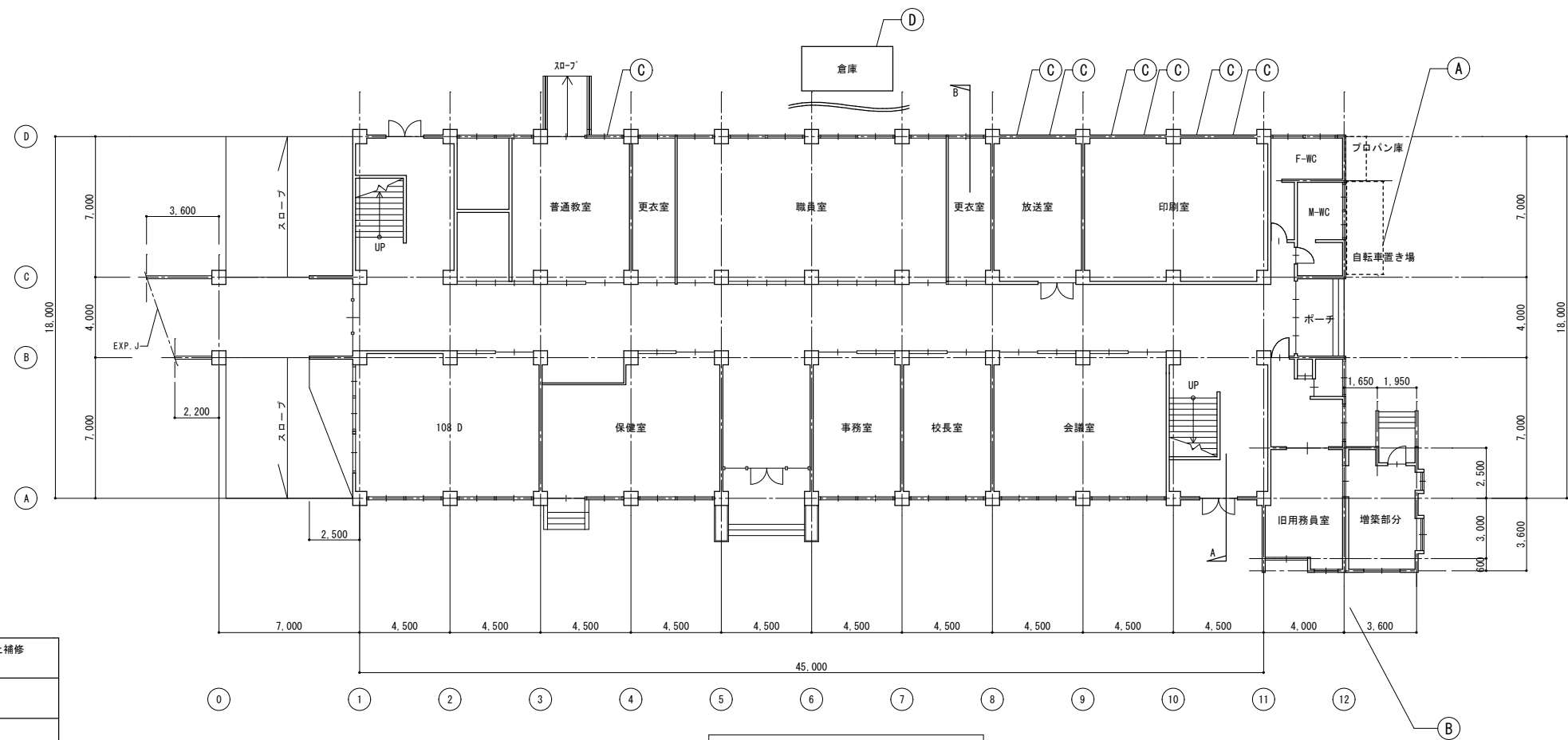
A1 縮尺 1/40

No

A-13

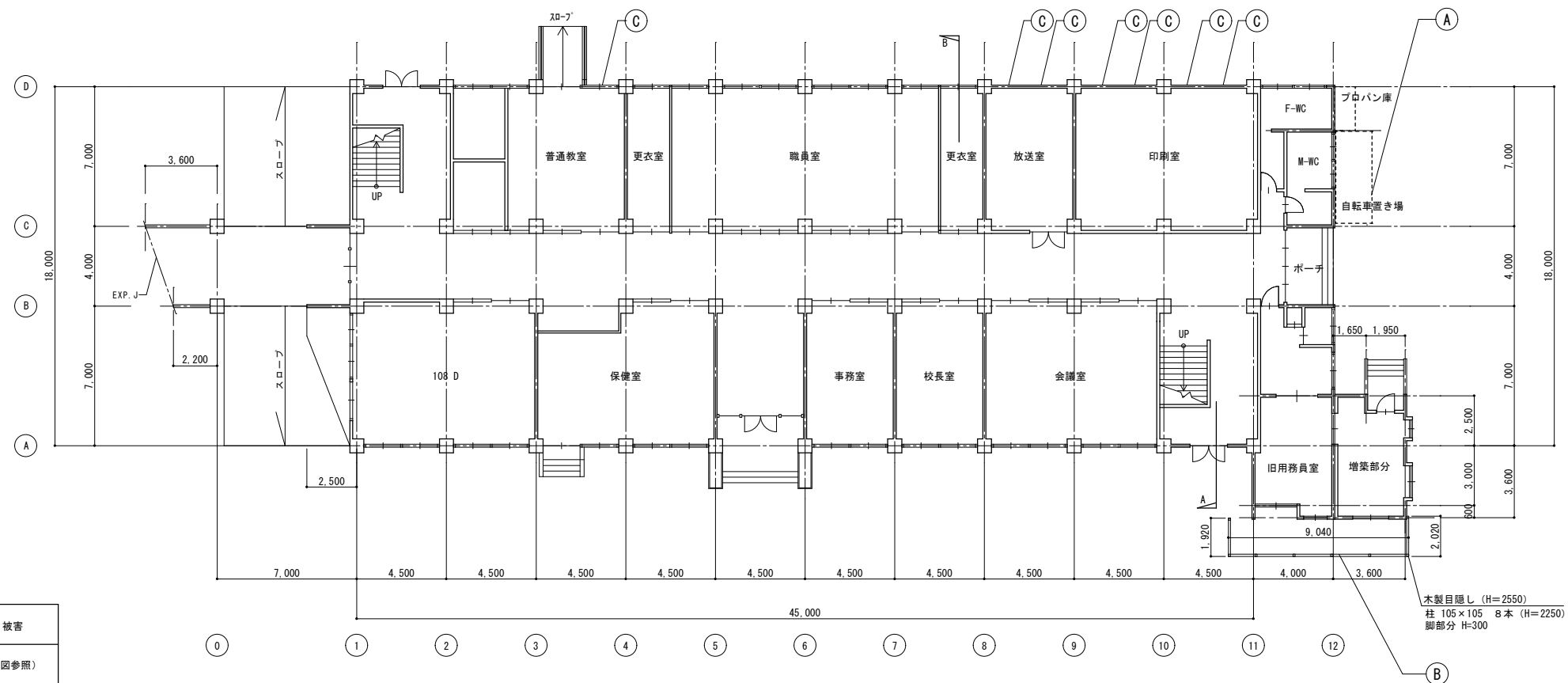
日付

2024年12月



凡 例 改 修 後	(A)	自転車置場 木製支柱腐食部分をカットの上補修 (※外構図参考)
	(B)	木製目隠し 撤去 (外構図参照)
	(C)	床下換気口 金網交換 (7箇所) (W1100×H400程度)
	(D)	物置設置 (10㎡未満) (W4530×D2210×H2330程度) (設置位置、詳細は施工時の現場打合せによる)

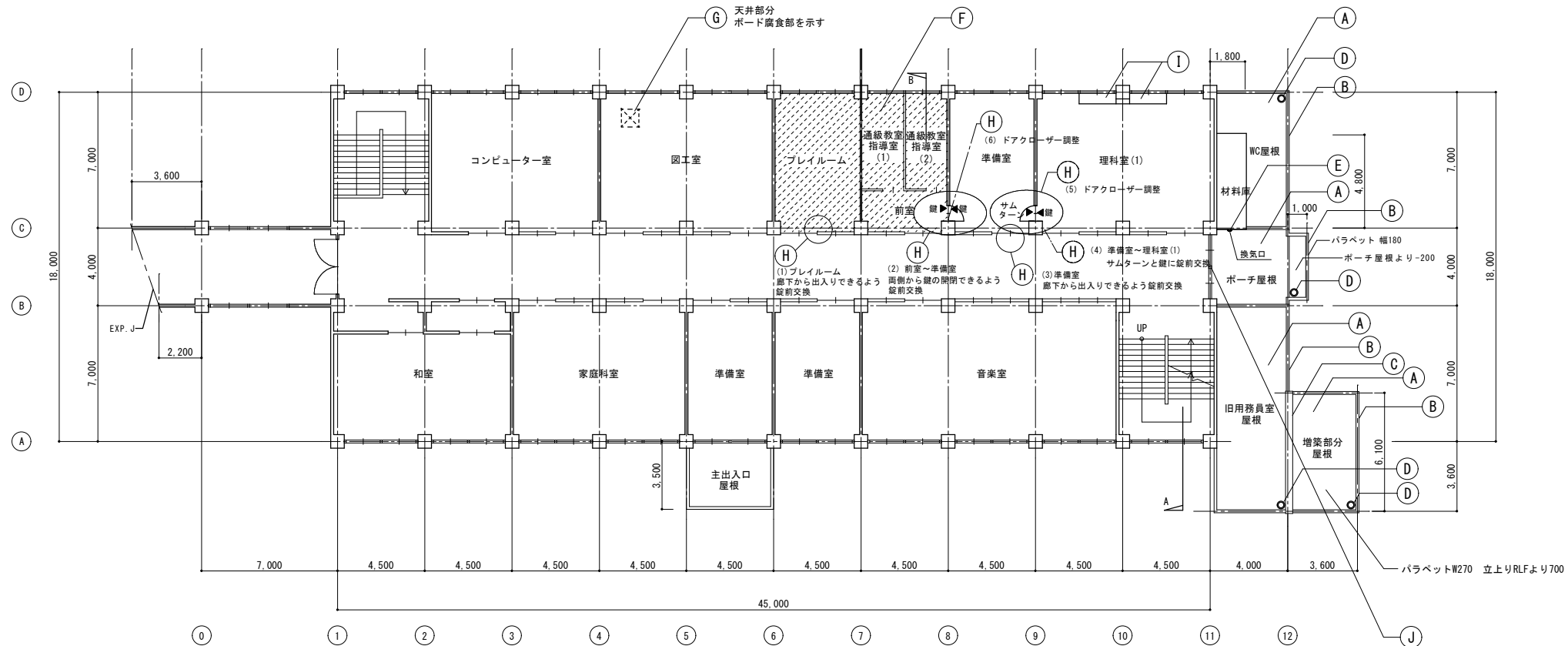
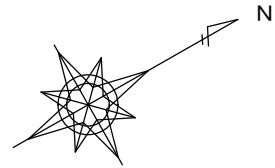
1 階平面図(改修後) S=1:150



凡 例 (改修期)	(A)	自転車置場 木製支柱脚部 腐食・シロアリ被害
	(B)	木製目隠し 木製支柱 接地部分腐食(外構図参照)
	(C)	床下換気口 金網の劣化・腐食・脱落等(7箇所) (W1100×H400程度)

1 階平面図(改修前) S=1:150

改修後

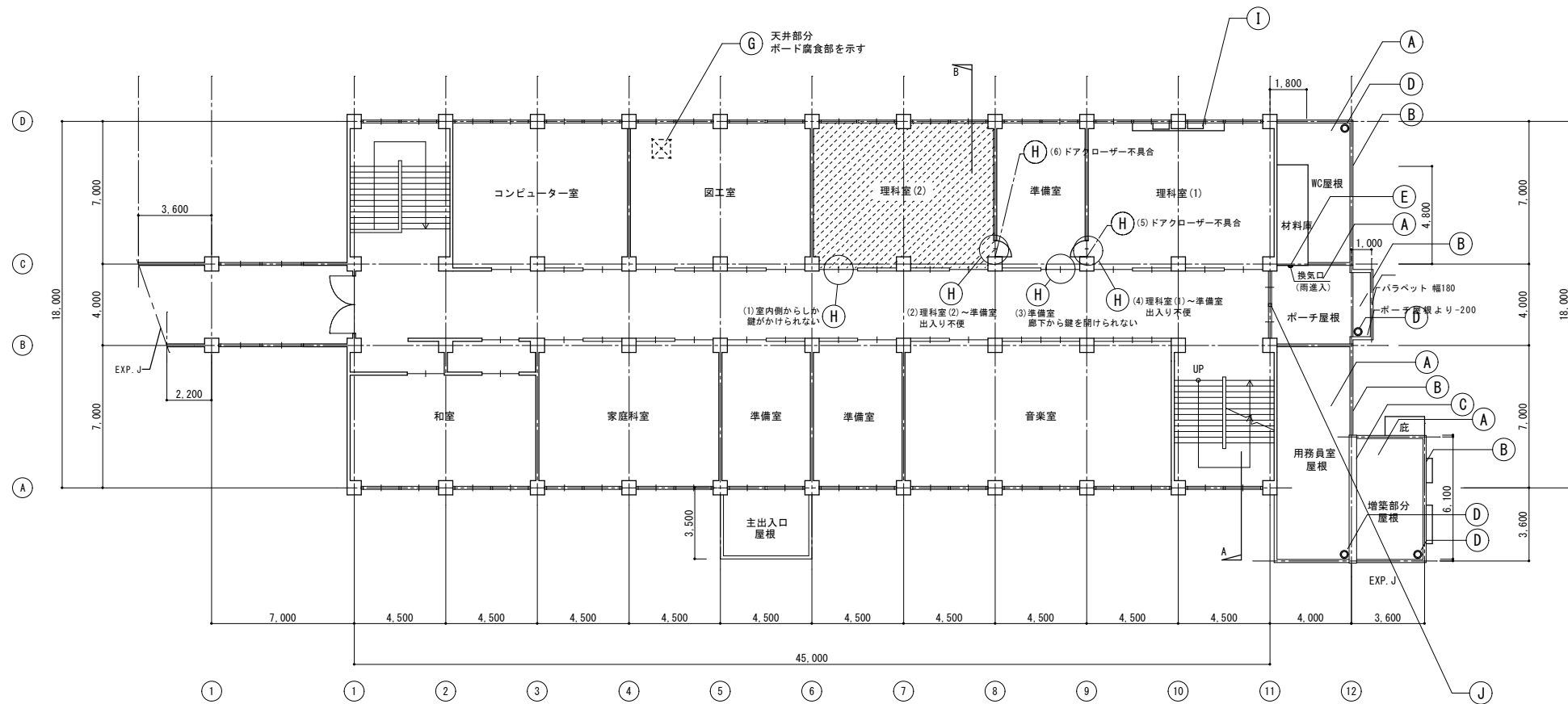
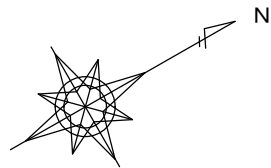


2階平面図 (改修後) S=1:150

凡例 (改修後)

A	ウレタン塗膜防水層 絶工法 (X1工法) 新設 (立ち上がり部・溝等: 密着工法 (X2工法)) ・既設防水層は上層を撤去し、下層の保護モルタルの上より施工 ・ケレン・清掃、必要箇所の下地補修、水勾配調整を行う
B	アルミ製笠木 防水施工後、既設再設置
C	エキスパンションジョイント 防水施工後、既設再設置
D	改修用二重ドレン 新規設置 (計4箇所)
E	換気口部分 ウエザーカバー設置
F	ブレイルーム、通級教室指導室 新設 (※理科室(2)平面詳細図等参照)
G	図工室 雨漏り部分 天井ボード貼り換え
H	建具 錠前交換(4箇所)・ドアクローザー調整(2箇所) (※詳細は現場打合せによる)
I	理科室(1) ステンレス製流し設置 (配管接続を含む)
J	廊下 アルミ引き違い窓 カバー工法にて改修 ・窓ガラスは強化ガラスとする
○	排水横引きドレン取付部分を示す。

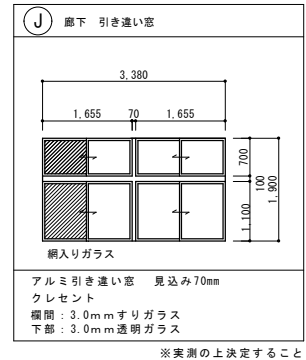
改修前



2階平面図 (改修前) S=1:150

凡例 (改修前)

A	(上層) 塩ビ系シート防水 絶縁工法(撤去) (下層) 合成ゴム系塗膜防水+保護モルタルt40(残置)
B	アルミ製笠木 (一時撤去)
C	エキスパンションジョイント (一時撤去)
D	改修用二重ドレン (計4箇所) (撤去)
E	換気口部分より1Fに雨水侵入
F	理科室(2) 内部解体 (※理科室(2)平面詳細図等参照)
G	図工室 雨漏り部分 天井ボード腐食 (撤去)
H	建具 錠前、使い勝手、ドアクローザー等の不具合 (6箇所)
I	理科室(1) 流し (人造石研ぎ出し仕上) (解体・撤去) (配管類の撤去を含む)
J	廊下 アルミ引き違い窓 雨水侵入
○	排水横引きドレン取付部分を示す。
※ 屋上残置物は撤去・移動すること	



※実測の上決定すること



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

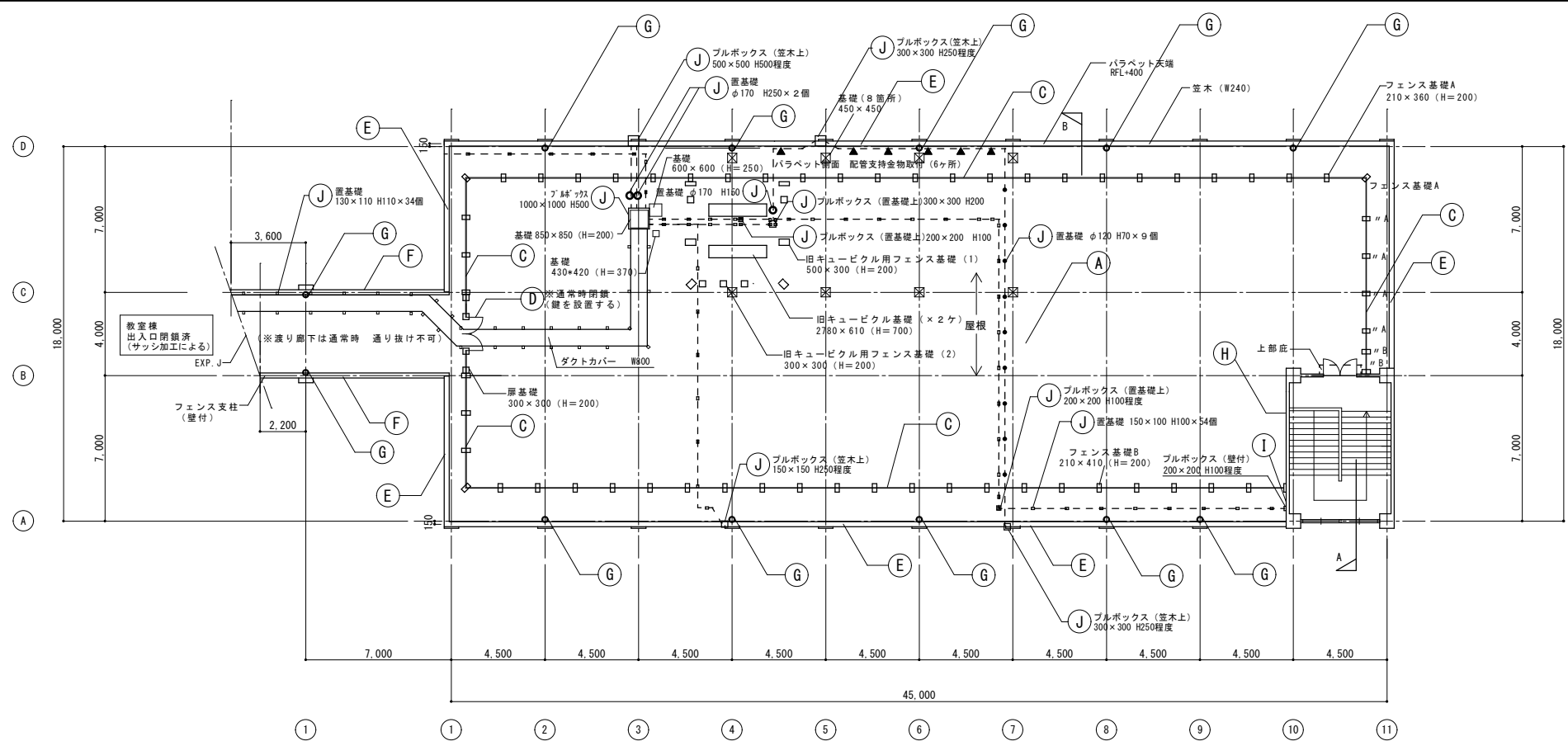
管理棟 2階平面図 (改修前・改修後)

A3 縮尺
1/300

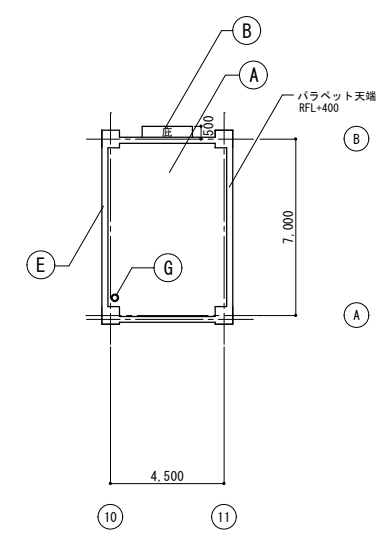
A1 縮尺
1/150

No
A-15
日付
2024年12月

改修後



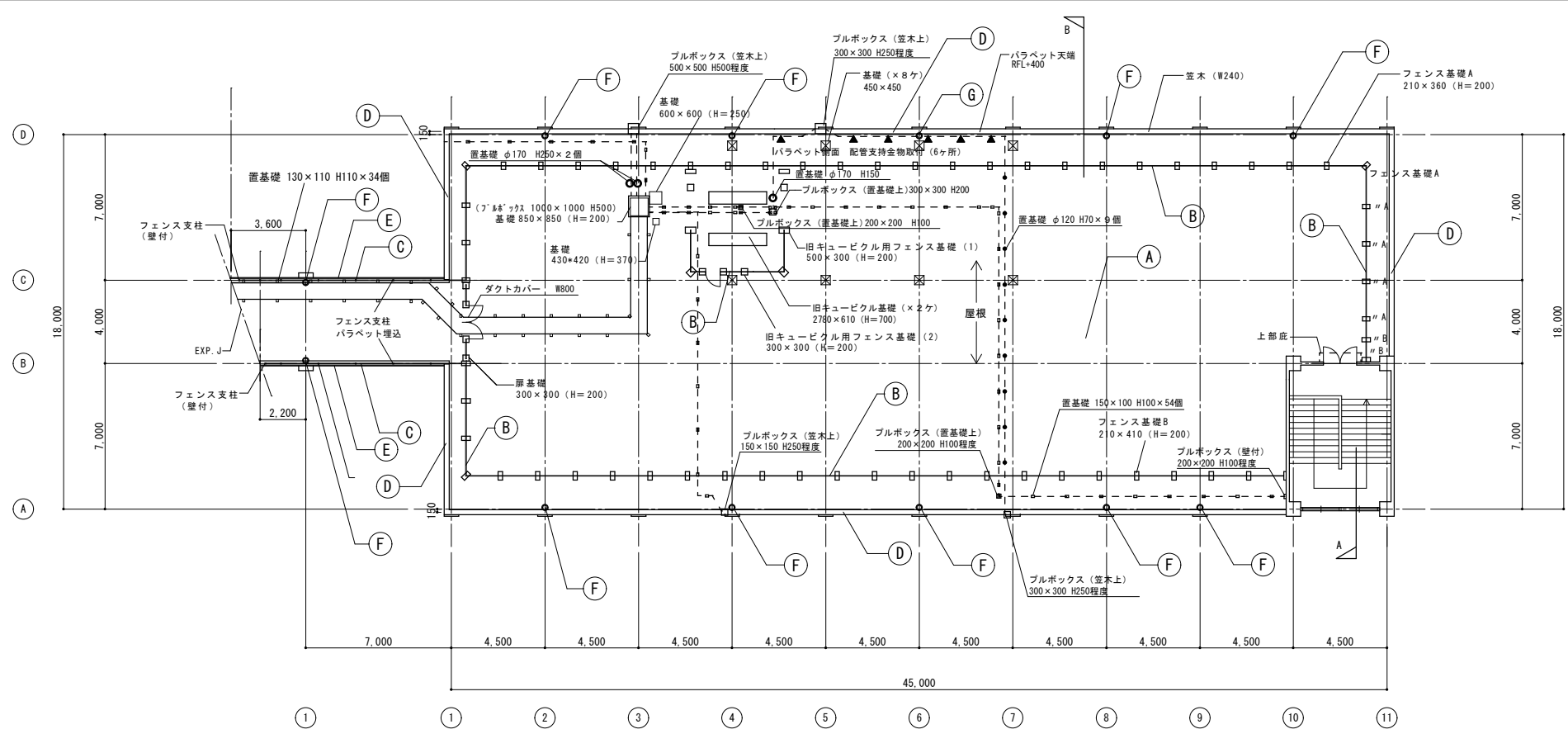
R階平面図（改修後） S=1:150



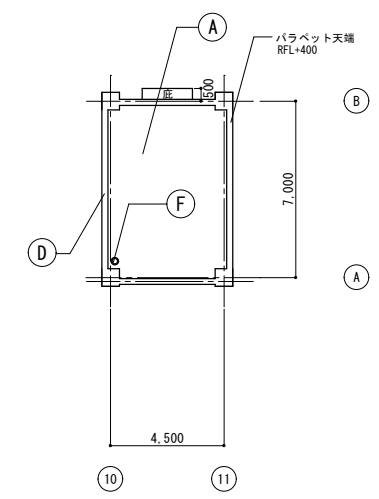
塔屋R階 平面図 (改修後) S=1:150

凡 例 (改 修 後)	(A)	ウレタン塗膜防水層 絶縁工法(X1工法) 新設 (立ち上がり部・基礎類等:密着工法(X2工法)) ・既設防水層は上層を撤去し、最下層の保護モルタルの上から施工 ・ケレン・清掃、必要箇所の下地補修、水勾配調整を行う
	(B)	底 ウレタン塗膜防水(X2工法)
	(C)	スチール製フェンス(H=1200) 新設(フェンス参考図参照) ・既設基礎をコア抜きして使用・支柱は先行設置し、防水施工
	(D)	フェンス用扉 新設(フェンス参考図参照) ・ベースプレート取付 ※通常時着脱できないよう鍵を設置
	(E)	アルミ製笠木 既設再設置
	(F)	アルミ製笠木 新設 (フェンス撤去部分)
	(G)	改修用二重ドレン 新規設置(計13箇所)
	(H)	トラップ取付
	(I)	樋清掃
	(J)	置基礎 設備等 一時持ち上げ 笠木上のブルボックス等は設備・電気立ち合いのもと持上
	(O)	ドレン位置を示す。(計13箇所)

改修前



R階平面図 (改修前) S=1:150

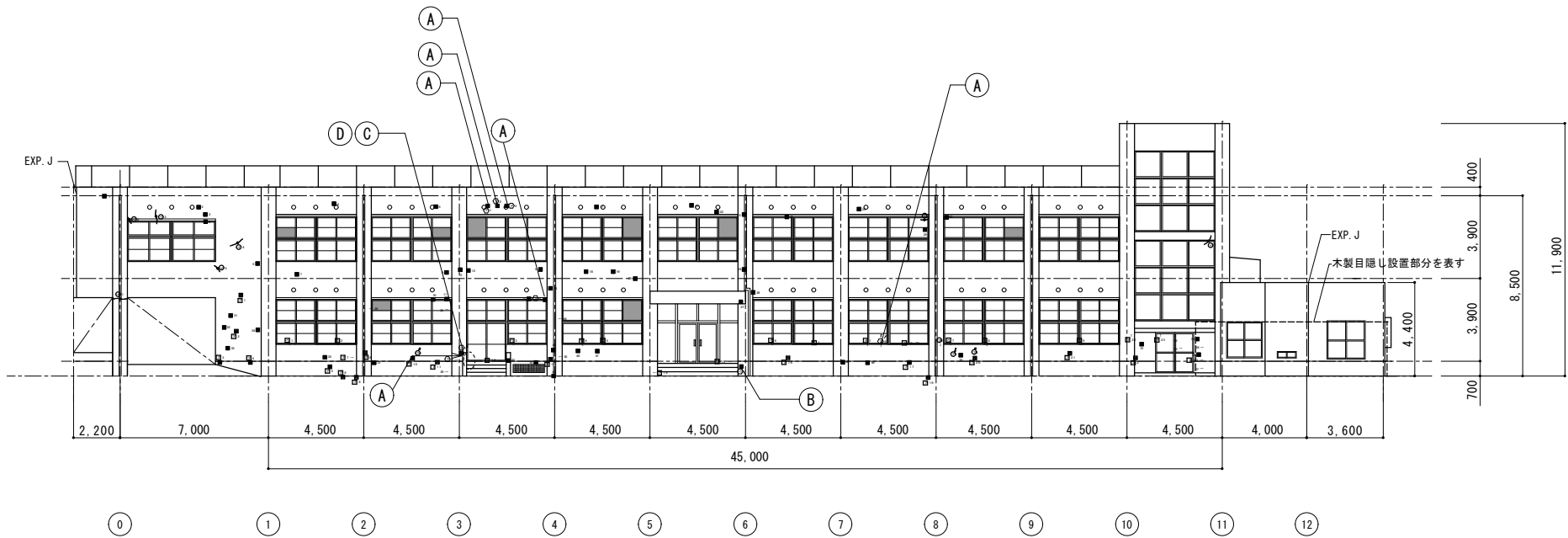
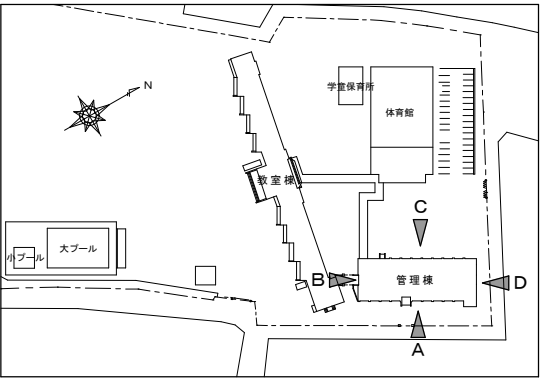


塔屋R階 平面図 (改修前) S=1:150

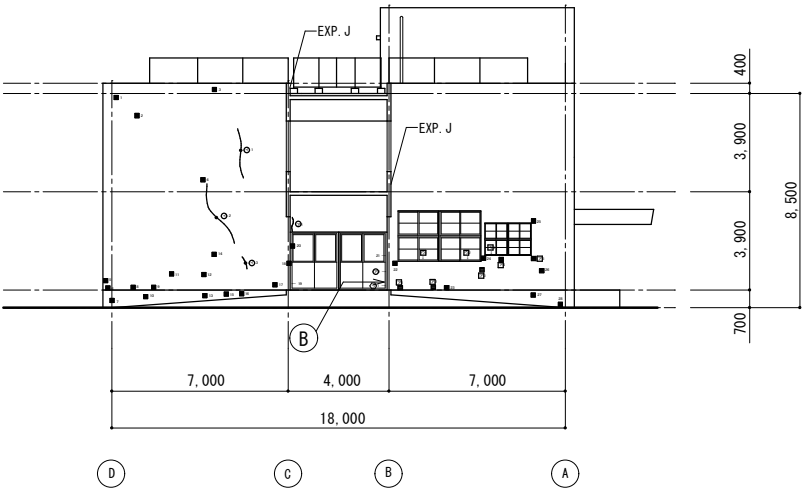
凡 例 (改 修 要 求)	(A)	(上層) 塩ビ系シート防水 t=2.0 絶縁工法 (撤去) (最下層) 合成ゴム系塗膜防水+保護モルタル t=40 (残置)
	(B)	スチール製フェンス(H=1200)、フェンス扉(2箇所) (基礎残し、フェンス撤去)
	(C)	スチール製フェンス H=1200(バラット埋込) (撤去) ・埋込み部分はつり取り樹脂モルタル充填
	(D)	アルミ製笠木 (一時撤去)
	(E)	変形型アルミ製笠木 (撤去)
	(F)	既設改修用二重ドレン(撤去)(計13箇所)
	○	既設ドレン位置を示す。(計13箇所)
※ 屋上残置物は撤去・移動すること		

凡例	符号	部位	既存下地 既存仕上	現況	種別	改修	補修数量
	A	外壁	RC下地 M刷毛引仕上 タイル吹付	爆裂・露筋	一般部 100mm×100mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（一般部）+ 防水型複層塗材E	14箇所
	B	外壁	RC下地 M刷毛引仕上 タイル吹付	爆裂・露筋	一般部 100mm×300mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（一般部）+ 防水型複層塗材E	5箇所
	C	外壁	RC下地 M刷毛引仕上 タイル吹付	爆裂・露筋	一般部 100mm×800mm未満	防錆処理+ポリマーセメントモルタル充填工法（一般部）+ 防水型複層塗材E	3箇所
	D	外壁	RC下地 M刷毛引仕上 タイル吹付	爆裂・露筋	可動するM、RC部分	可動するM、RC部分は撤去して補修(1㎡程度の範囲)	—

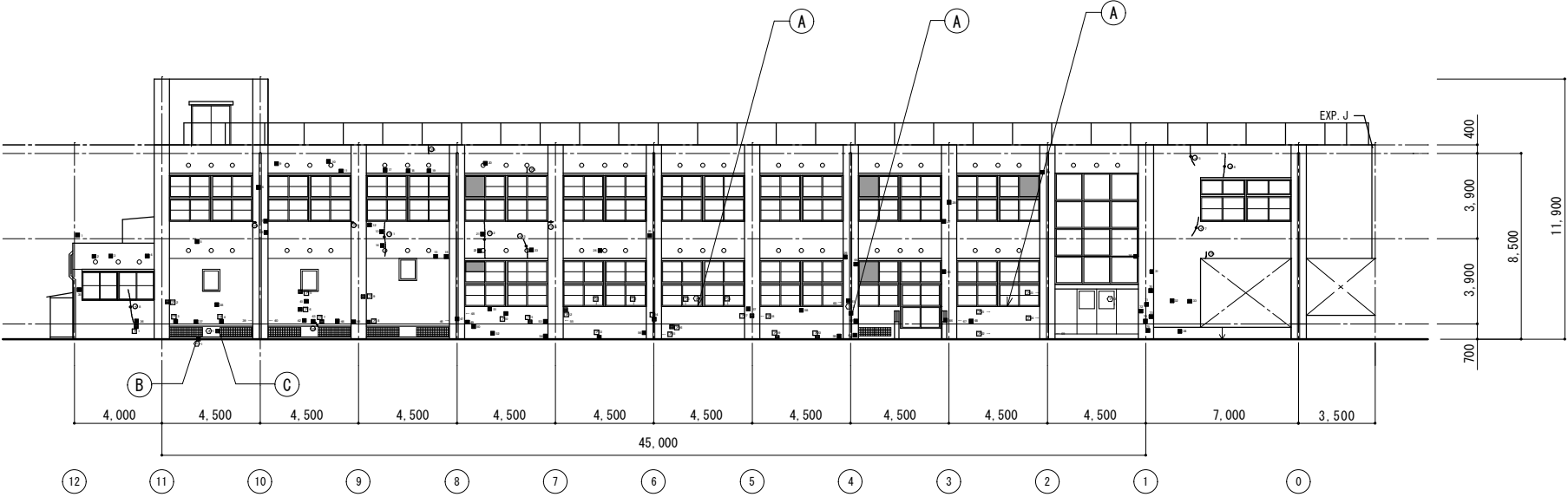
- ・安全性に問題のある箇所の改修とする
- ・施工の数量等は、現地調査の上、監督官と協議し決定する
- ・改修部の塗装は、小さな箇所はタッチアップ程度とするが大きな補修箇所や目立つ箇所は、同一面全面塗装とする等、監督官と協議し決定する



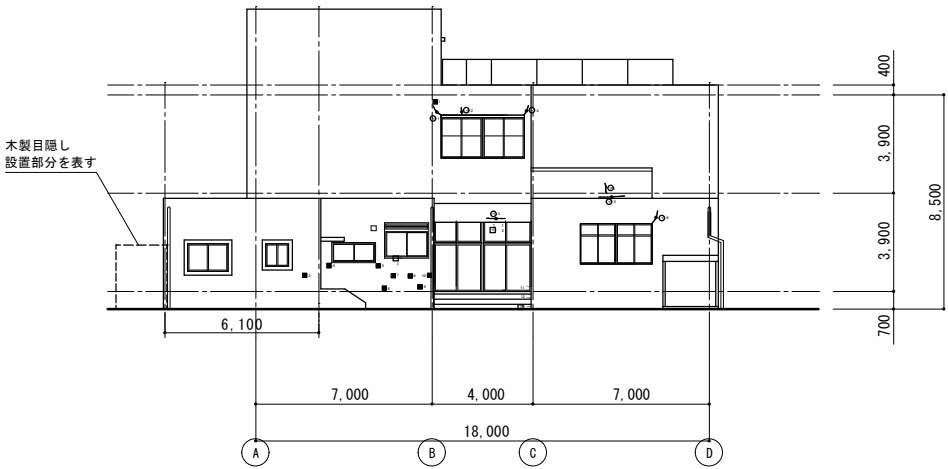
東立面図 S=1:150 (A)



南立面図 S=1:150 (B)



西立面図 S=1:150 (C)



北立面図 S=1:150 (D)



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

管理棟 立面図（外壁改修）

A3 縮尺

1/300

No

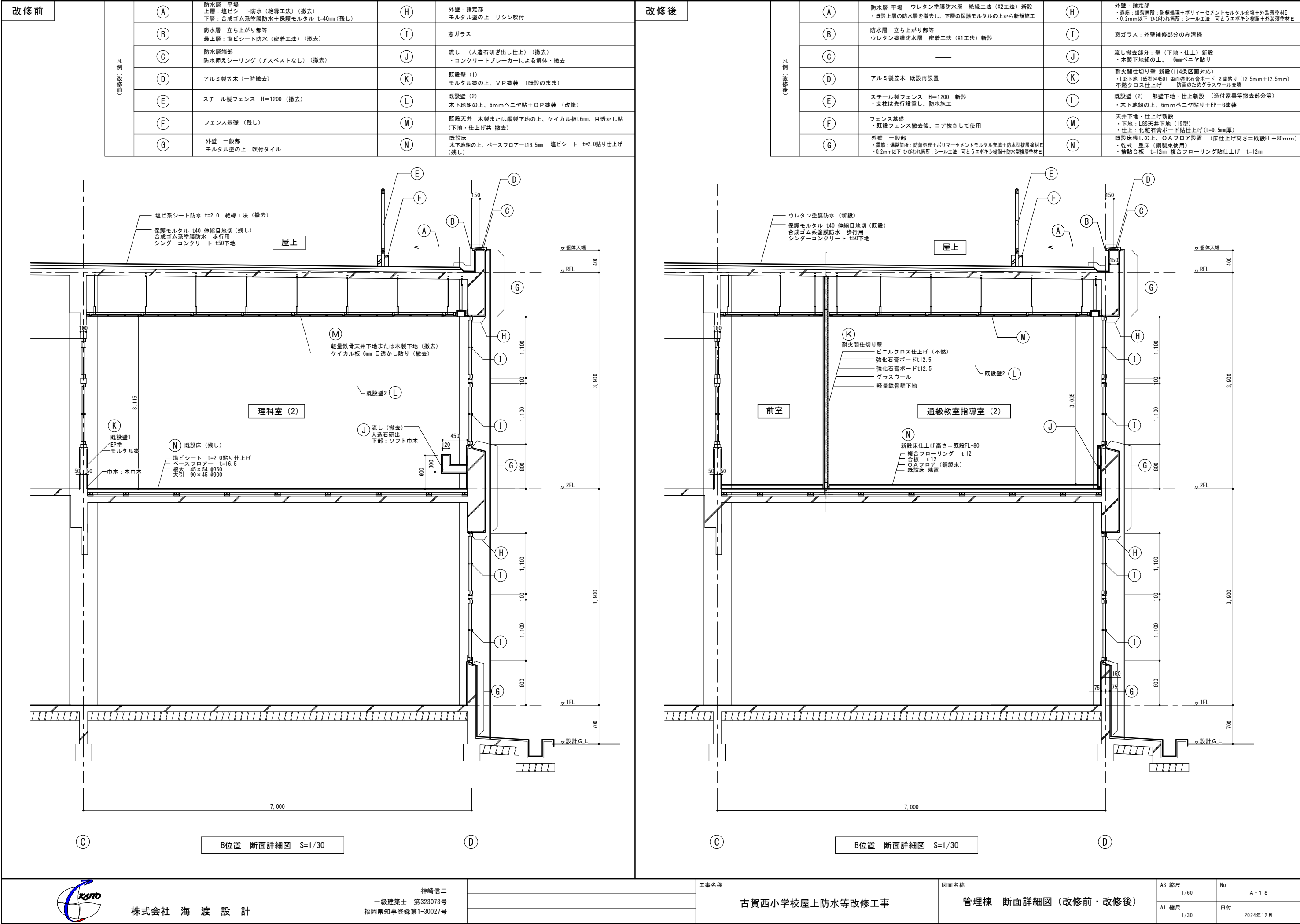
A-17

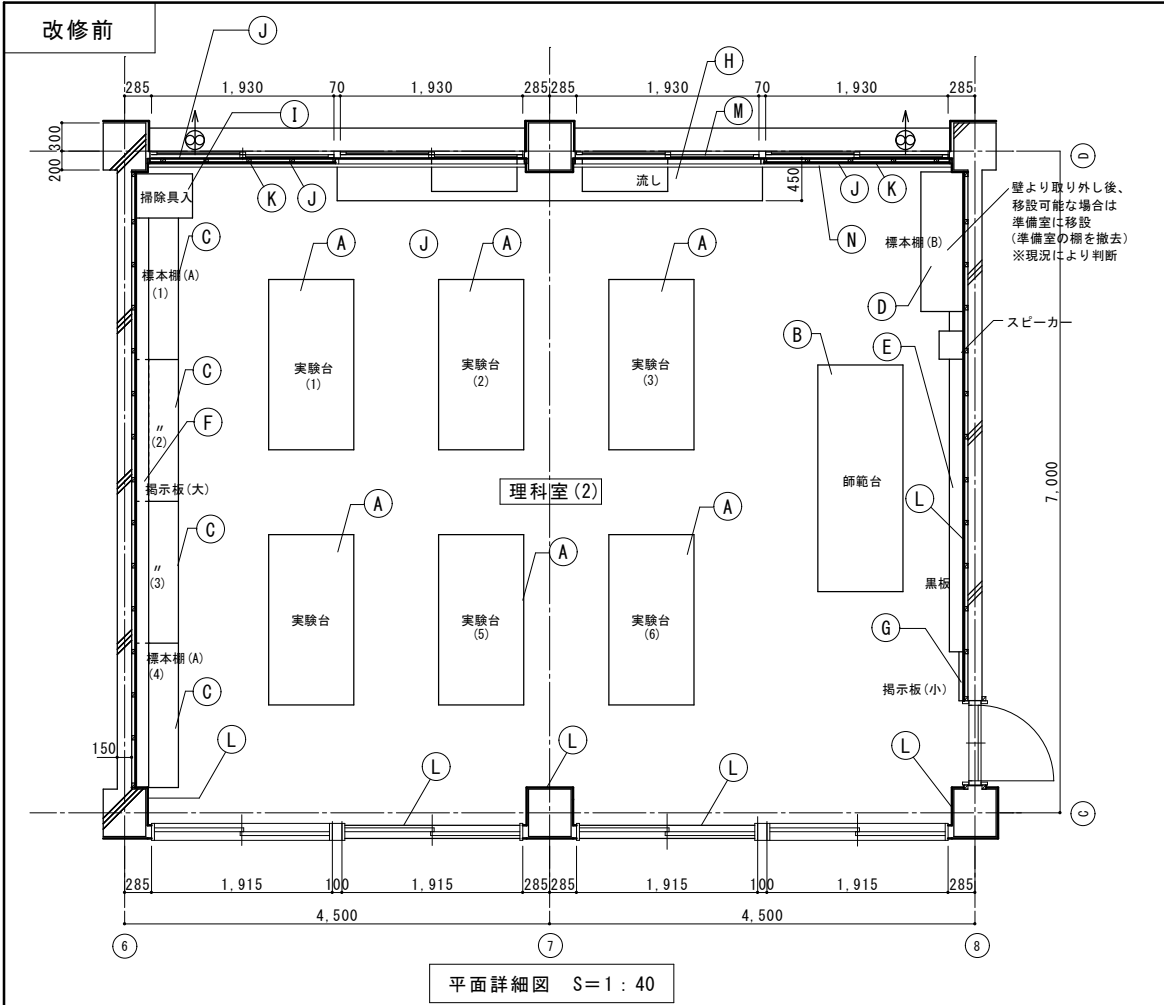
A1 縮尺

1/150

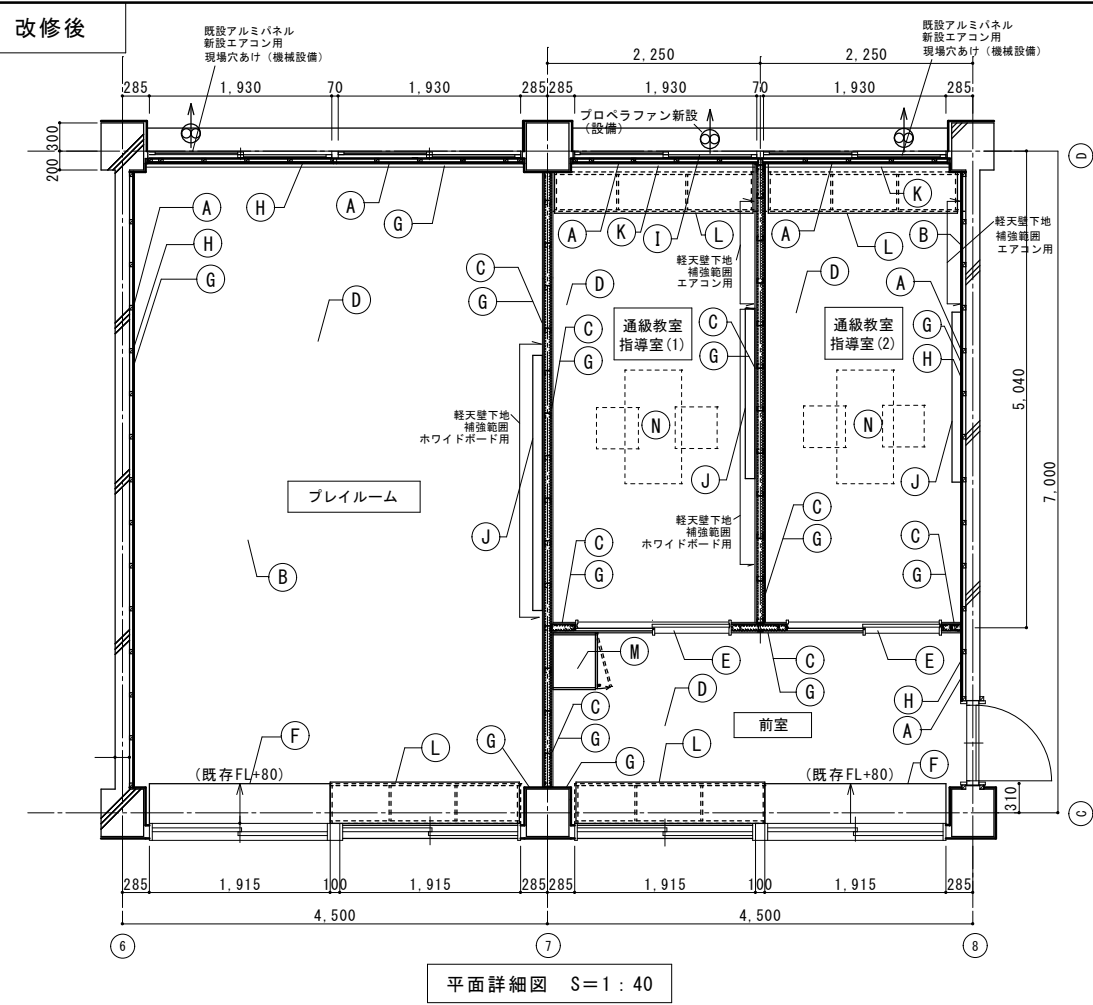
日付

2024年12月

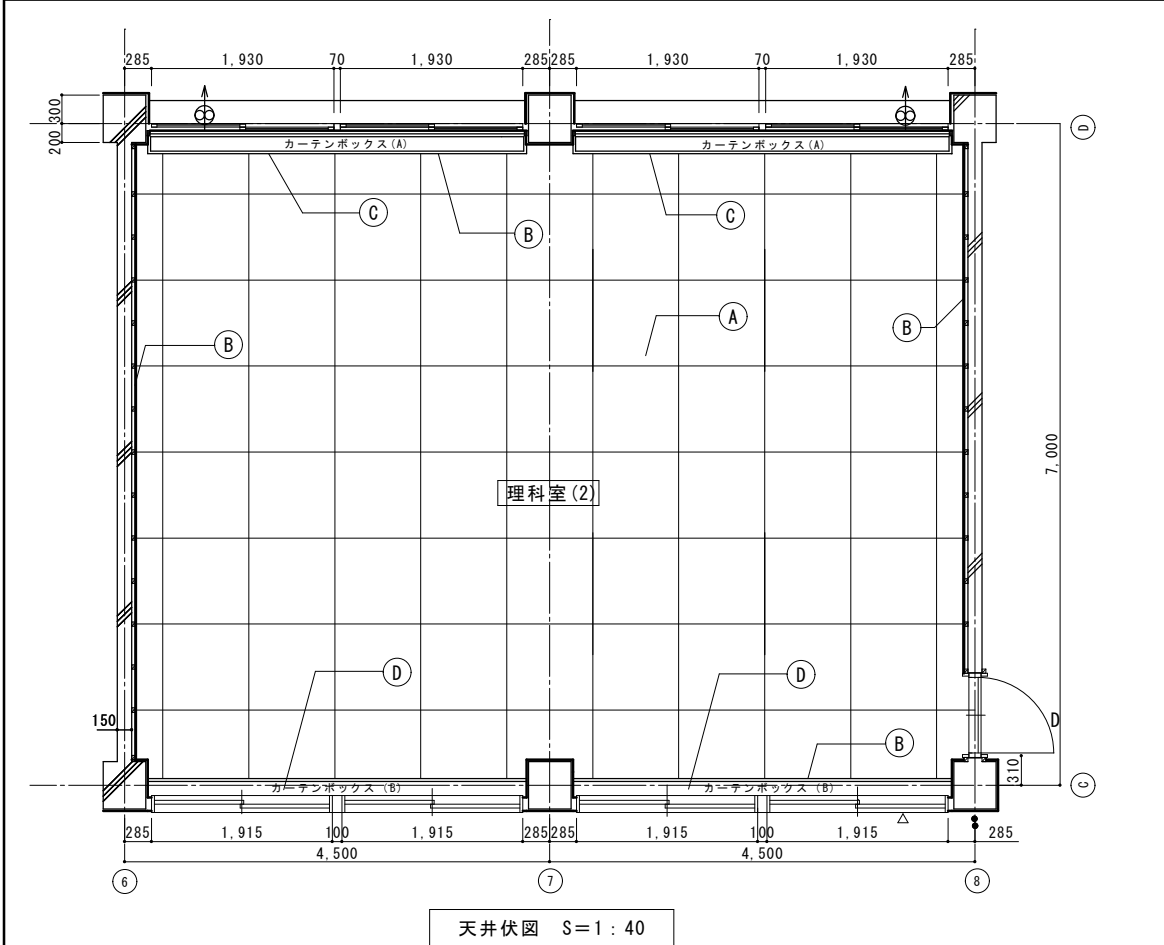




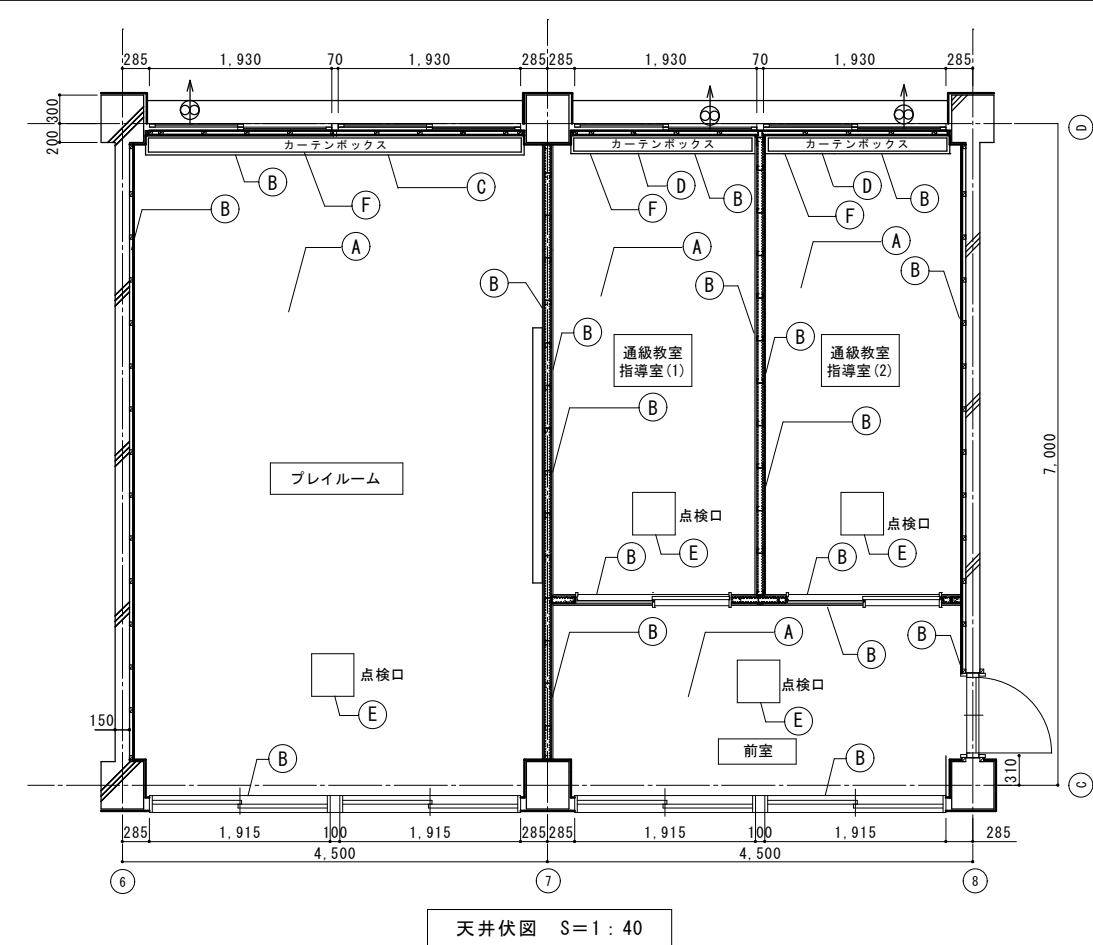
凡 例 (解体・撤去)	
(A)	実験台 撤去 (6台) (900×1800 H700) ※詳細別紙 ・ガス・水道給水・排水の廃止・撤去 (機械設備) ・ガス感知器撤去 (ツバメガス)
(B)	師範台 撤去 (1台) (900×2400 H850) ※詳細別紙 ガス・水道給水・排水の廃止・撤去 (機械設備)
(C)	標本棚 (A) 撤去 (4台) (1500×450×800) ※詳細別紙 ・給排水・ガスコック停止・床下で処理 (機械設備)
(D)	標本棚 (B) 撤去または移設 (※現況による) (1475×450 H=2100) ※詳細別紙
(E)	黒板 撤去 (W3600×H1300) ※詳細別紙
(F)	掲示板 (大) (後方) 撤去 (W6000×H900) ※詳細別紙
(G)	掲示板 (小) (前方) 撤去 (W540×H1300) ※詳細別紙
(H)	流し 撤去 (W4500×D450×H600) ※詳細別紙 流し: 人造石研出仕上 ソフト巾木 屋外給水・屋内給排水・水栓撤去 (機械設備)
(I)	掃除具入れ 撤去 (W500×D450 H1700) ※詳細別紙
(J)	木製 壁仕上・下地 撤去 (木下地組+ベニヤ (t=6mm))
(K)	木製巾木 撤去
(L)	ソフト巾木 撤去
(M)	窓ガラス・横棧撤去
(N)	手すり 撤去 (耐火間仕切り壁新設のため)



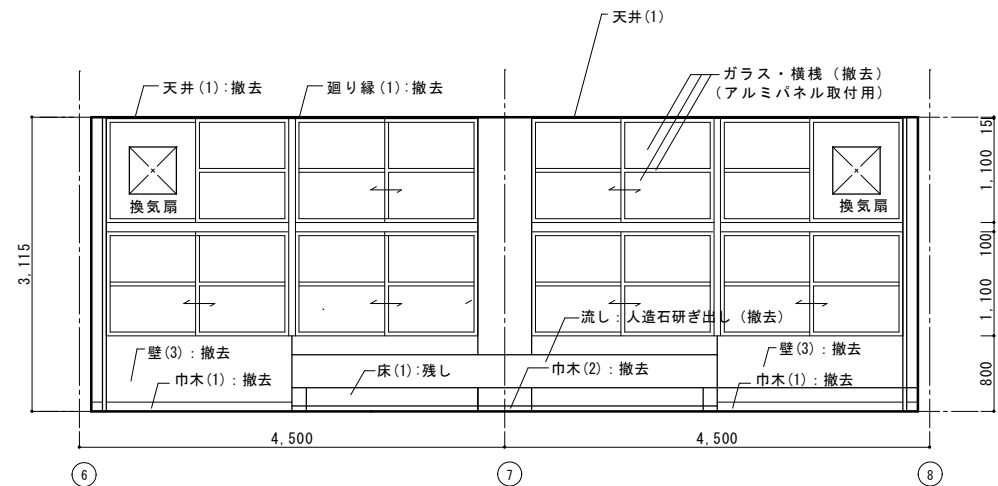
凡 例 (改修後)	
(A)	壁仕上げ 新設 (家具等撤去部分) ・木下地組 (新設) +ベニヤt=6mm (※展開図参照)
(B)	壁仕上げ 新設 (家具等撤去部分) モルタル金網仕上げ (※展開図参照)
(C)	耐火間仕切り壁 新設 (※建築基準法114条2項に対応する防火 主要な間仕切り壁とし、耐火構造とする) ・LGS下地 (65型@450) 張れ止め1.2m以下 ・強化石膏ボード (t12.5+t12.5) 二重張 ・防音のため壁内グラスウール充填 ・不燃クロス仕上げ ※必要に応じ壁取付下地設置
(D)	OAフロア新設 (新設床仕上げ=既設FL+80) ・鋼製束 (遮音性能のあるものとする) ・捨て貼り合板 t=12mm ・仕上: 複合フローリング t12mm
(E)	建具 新設 (2箇所) 片引き戸 上部透明ガラス入り
(F)	床段差処理用スロープ (既設FL+80) (2箇所) ・家具工事に木製スロープ作成
(G)	巾木 新設 ソフト巾木 H=60mm
(H)	E P-G塗装 既設・新設壁部分
(I)	アルミパネル 新設 (※家具等詳細図参照) 新設エアコン配管・換気扇設置用
(J)	ホワイトボード新設 (3箇所) (※2700×900:1台、1800×900:2台)
(K)	手すり (ステンレス製) 新設
(L)	据付家具 新設 (窓下) (4箇所) 壁固定 (※家具等詳細図参照)
(M)	掃除道具入れ 新設 壁固定 (※家具等詳細図参照)
(N)	家具設置 (※家具等詳細図参照) (机2台・椅子4脚)
その他	・エアコン(3台) 換気扇(1台) 新設 (機械設備) ・インターホン移設 (前室) 時計新設 (3箇所) (電気)



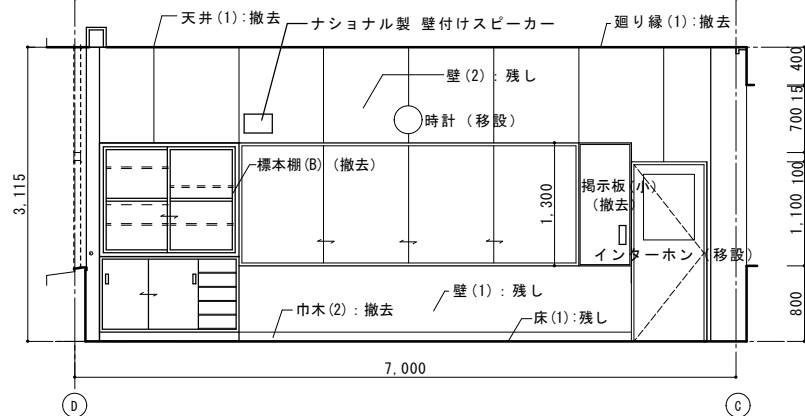
凡 例 (解体・撤去)	
(A)	既設天井 仕上げ・下地共に撤去 下地: 軽量鉄骨下地または 木製下地 仕上: 6mm有孔ケイカル板目選し貼 EP塗装 (外周: 6mmケイカル板目選かし貼 EP塗装)
(B)	廻り縁 撤去
(C)	カーテンボックス (A) 撤去
(D)	カーテンボックス (B) 撤去



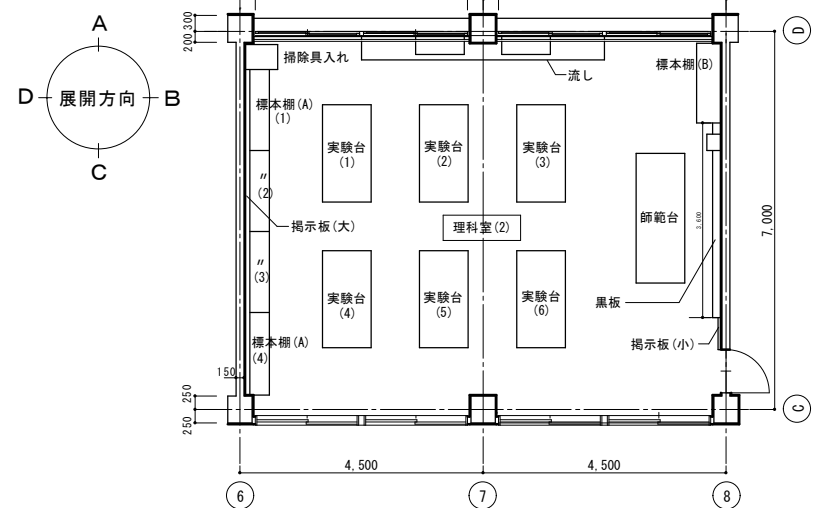
凡 例 (改修後)	
(A)	天井 新設 (4箇所) 軽量鉄骨天井下地 (19型) 化粧石膏ボードt9.5 ※インサート新設
(B)	廻り縁 新設
(C)	カーテンボックス (A) (1箇所) 新設 (木製)
(D)	カーテンボックス (B) (2箇所) 新設 (木製)
(E)	天井点検口 (450×450 アルミ製) 新設 天井裏配線スリップが見やすい位置に現場調整
(F)	E P-G塗装 カーテンボックス 露出部分
その他	・天井付スピーカー 新設 (前室) (電気) ・WiFi 新設天井に移設 (契約会社) ・パッシブセンサー 既設1カ所 新規天井 同位置に移設 (契約会社) ・熱感知器 新規取付 (4台) (電気)



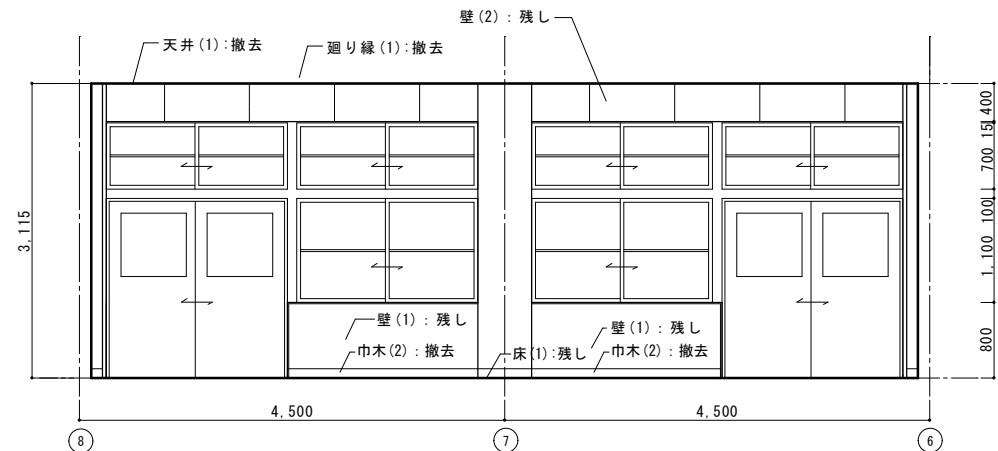
A面展開図 S=1:40



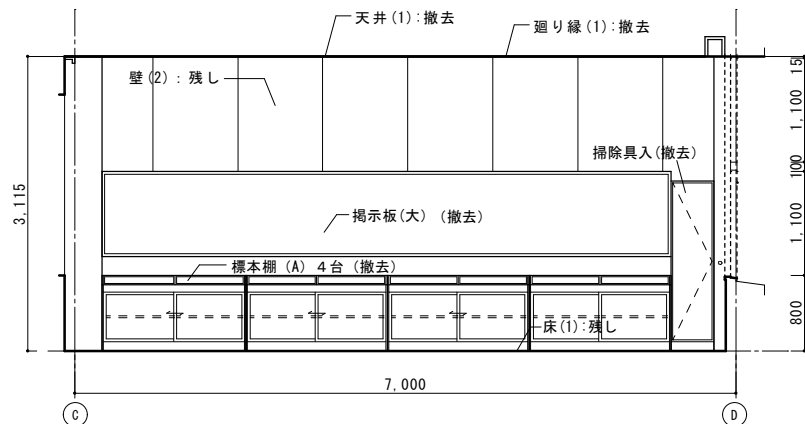
B面展開図 S=1:40



KEY PLAN



C面展開図 S=1:40



D面展開図 S=1:40

理科室(2) (改修前) 内部仕上 凡例		
床(1)	下地 仕上	W床組 ベ-ｽﾌﾟｰ- t=16.5 (残し) 塩ビシート t=2.0貼り (残し)
巾木(1)	仕上 表面仕上	木製巾木 H=100 (撤去) VP塗
巾木(2)	仕上	ソフト巾木 H=60 (撤去)
壁(1)	下地 仕上	R/C下地 (残し) M金ｺｰﾅｰ仕上 VP艶消し仕上げ (残し)
壁(2)	下地 仕上	W製下地組 (残し) ベニヤ t=6 目透かし貼り OPローラー仕上げ (残し)
壁(3)	下地 仕上	W製下地組 (撤去) ベニヤ t=6 目透かし貼り OPローラー仕上げ (撤去)
天井(1)	下地 仕上	木製下地または軽天下地 (撤去) 仕上: 6mm有孔ケイカル板 目透かし貼りEP (撤去) (周囲: 6mmケイカル板 目透かし貼りEP) (撤去)
廻り縁(1)	仕上	塩ビ製 (撤去)

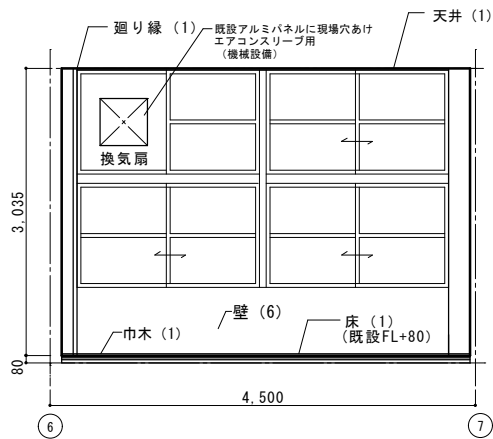
撤去家具等リスト

師範台（1台）		実験台（6台）		標本棚（A）（4台）		標本棚（B）（1台）		掃除具入れ（1台）	
黒板（1台）		掲示板(小)（1台）		掲示板(大)（1台）		流し（1台）		ガラス・横桟	

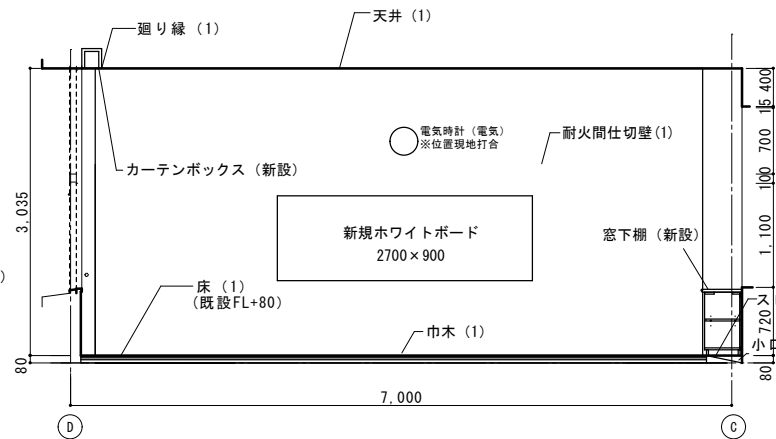


改修後

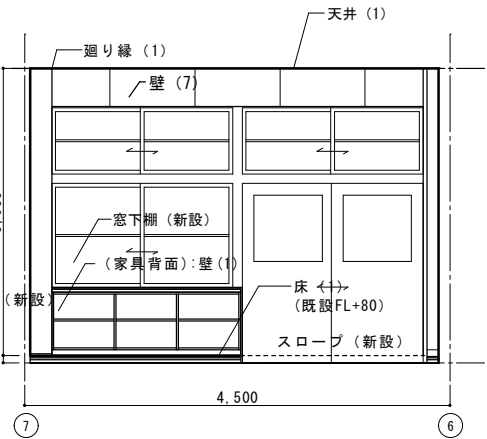
プレイルーム



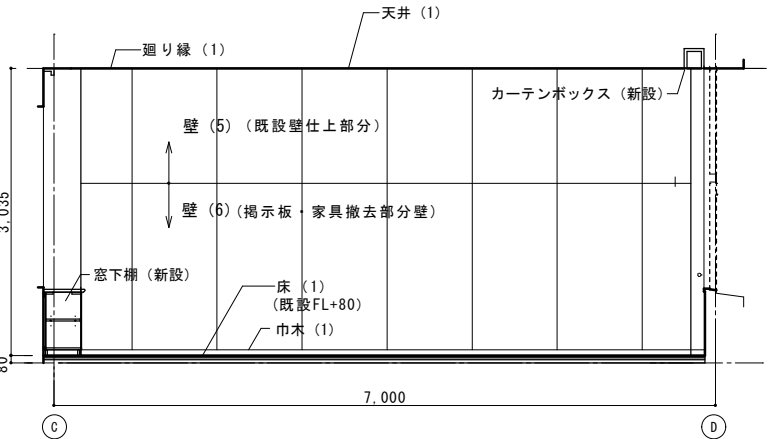
A面展開図 S=1:40



B面展開図 S=1:40

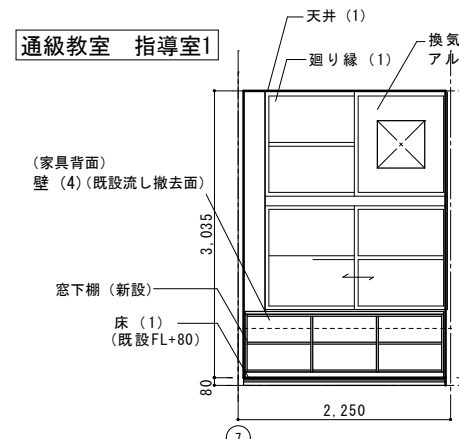


C面展開図 S=1:40

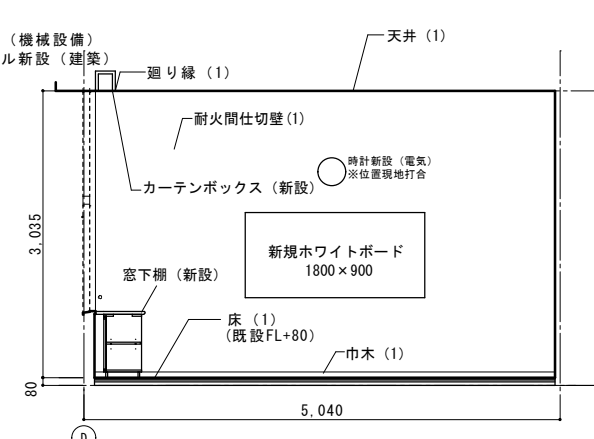


D面展開図 S=1:40

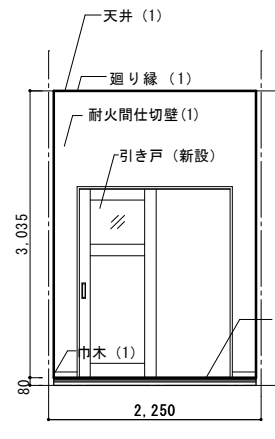
通級教室 指導室1



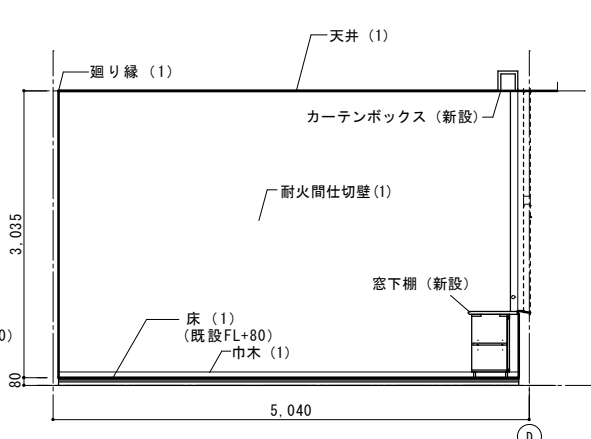
A面展開図 S=1:40



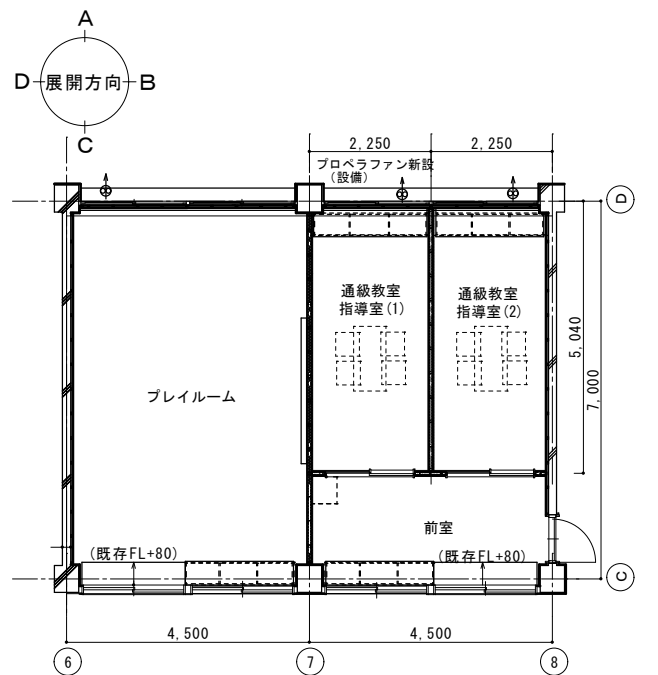
B面展開図 S=1:40



C面展開図 S=1:40

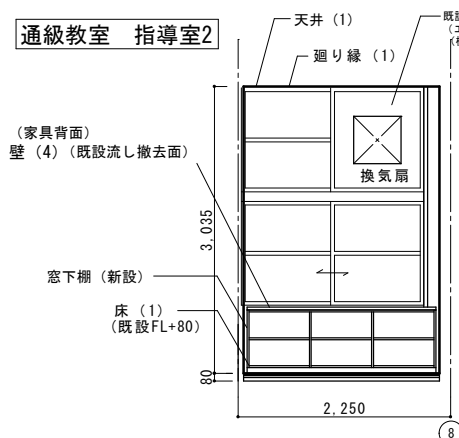


D面展開図 S=1:40

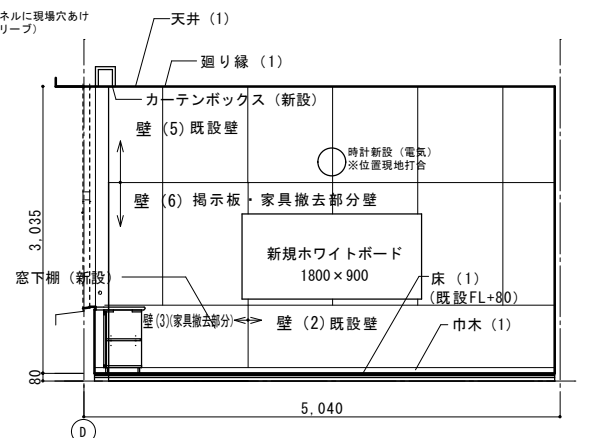


KEYPLAN

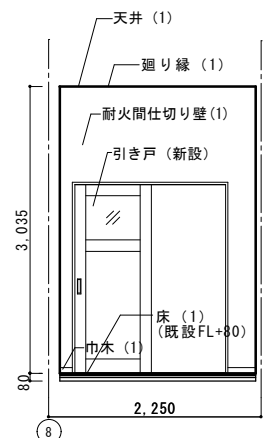
通級教室 指導室2



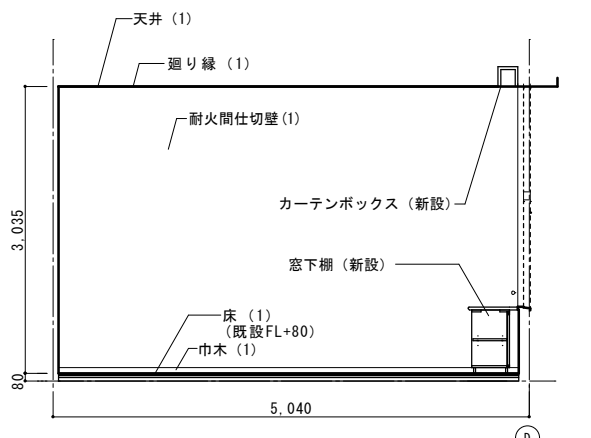
A面展開図 S=1:40



B面展開図 S=1:40

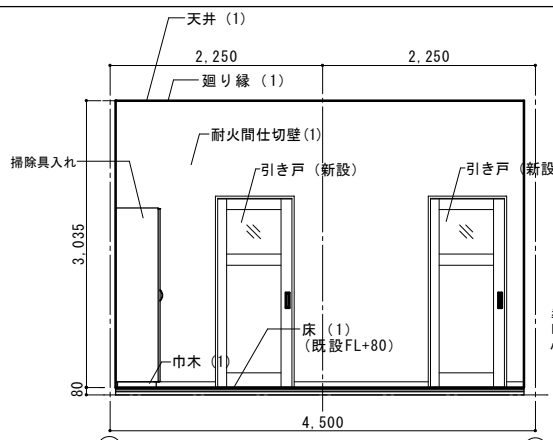


C面展開図 S=1:40

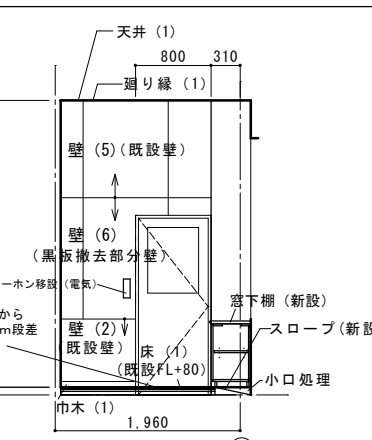


D面展開図 S=1:40

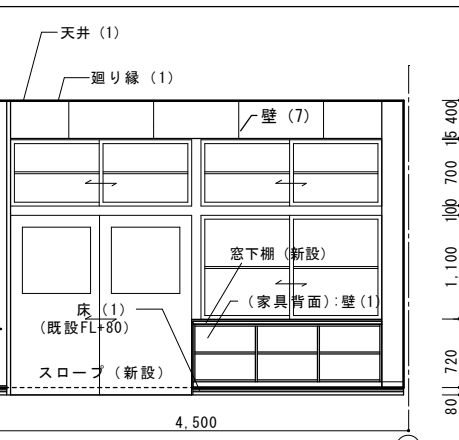
前室



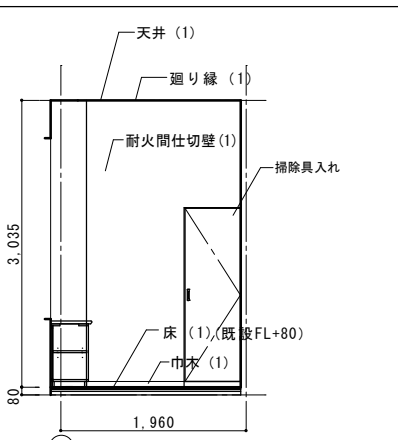
A面展開図 S=1:40



B面展開図 S=1:40



C面展開図 S=1:40



D面展開図 S=1:40

プレイルーム、通級教室 指導室(1)・(2)、前室(改修後)内部仕上 凡例		
床 (1)	下地 仕上	既設床残しの上 OAフロア新設 (鋼製束+捨て貼り合板12mm) 複合フローリング t=12mm貼り (仕上げ高さ 既設FL+80)
巾木 (1)	仕上	ソフト巾木 H=60 (新設)
壁 (1)	下地 仕上	R/C下地 (既設) M金コテ仕上 V/P艶消し (既設のまま)
壁 (2)	下地 仕上	R/C下地 (既設) M金コテ仕上 V/P艶消し (既設)を、下地処理の上、E-P-G塗装 (新設)
壁 (3)	下地 仕上	R/C下地 (既設) M金コテ仕上 (新設)を素地ごしらえの上、E-P-G塗装 (新設)
壁 (4)	下地 仕上	木製下地組 (新設) ベニヤ t=6 目透かし貼り (新設) (塗装なし)
壁 (5)	下地 仕上	木製下地組 (既設) ベニヤ t=6 目透かし貼り (旧ローラー仕上(既設)を、下地処理の上 E-P-G塗装(新設)
壁 (6)	下地 仕上	木製下地組 (新設) シナベニヤ t=6 目透かし貼り(新設)を、素地ごしらえの上 E-P-G塗装(新設)
壁 (7)	下地 仕上	木製下地組 (既設) ベニヤ t=6 目透かし貼り (旧ローラー仕上(既設のまま)
耐火間仕切壁(1)	下地 仕上	軽鋼鉄骨壁下地 (新設) 断熱材充填 (新設) 強化石膏ボードt12.5mm二重貼りの上、不燃クロス貼り (新設)
天井 (1)	下地 仕上	軽鋼鉄骨天井下地 (新設) 化粧石膏ボードT=9.5mm (新設)
廻り縁 (1)	仕上	塩ビ製 (新設)



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

管理棟 理科室(2)
展開図(改修後)

A3 縮尺

1/80

No

A-21

A1 縮尺

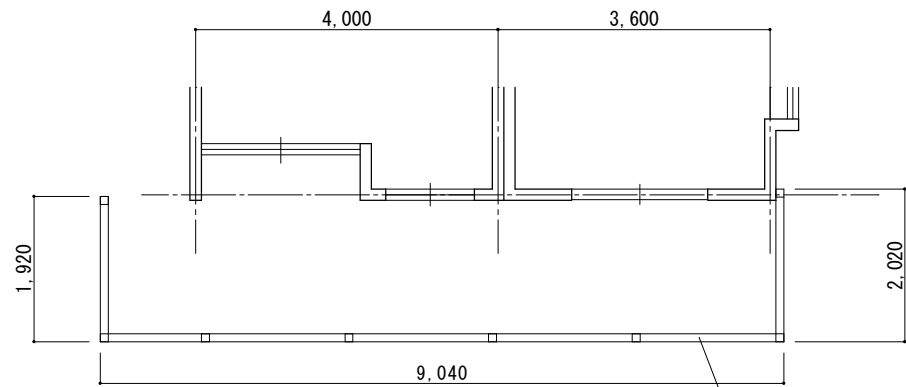
1/40

日付

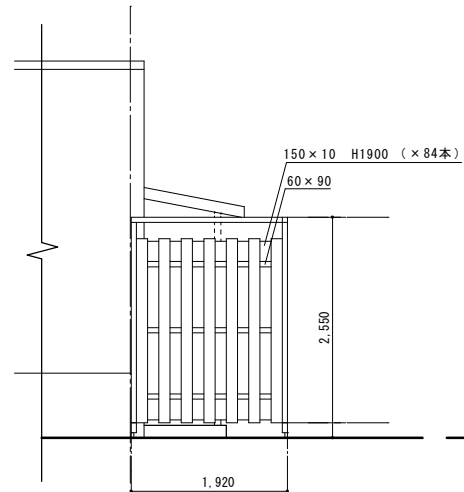
2024年12月

L	窓下棚	通級教室指導室(1)	1箇所	L	窓下棚	通級教室指導室(2)	1箇所	L	窓下棚	前室	1箇所																		
L	窓下棚	ブレイルーム	1箇所	M	掃除用具入れ	前室	1箇所	N	組み合わせテーブル(長方)	通級教室指導室(1)(2)	2台																		
N	チェア(3号)	通級教室指導室(1)(2)	8脚	E	木製建具	通級教室指導室(1)(2)	2箇所	天井D	カーテンボックス	ブレイルーム 通級教室指導室(1)(2)	3箇所																		
<table><tr><td>寸法</td><td>360W×330D×340/630H</td></tr><tr><td>座・背</td><td>積層合板 ウレタン塗装</td></tr><tr><td>脚</td><td>スチール丸パイプ φ22 2</td></tr><tr><td>脚体塗装</td><td>ミストグレー</td></tr><tr><td>脚キャップ</td><td>ポリエチレン</td></tr></table>				寸法	360W×330D×340/630H	座・背	積層合板 ウレタン塗装	脚	スチール丸パイプ φ22 2	脚体塗装	ミストグレー	脚キャップ	ポリエチレン	<table><tr><td>木製片引き戸</td><td>木製フラッシュ戸</td></tr><tr><td>扉仕様</td><td>オレフィンシート貼付</td></tr><tr><td>レール</td><td>レールと戸車で動くものとする (バリアフリー対応)</td></tr><tr><td>扉</td><td>なし</td></tr></table>				木製片引き戸	木製フラッシュ戸	扉仕様	オレフィンシート貼付	レール	レールと戸車で動くものとする (バリアフリー対応)	扉	なし	<p>カーテンボックスは木製とし、以下の寸法を参考に制作 ※表面仕上げはE P-G塗装とする</p>			
寸法	360W×330D×340/630H																												
座・背	積層合板 ウレタン塗装																												
脚	スチール丸パイプ φ22 2																												
脚体塗装	ミストグレー																												
脚キャップ	ポリエチレン																												
木製片引き戸	木製フラッシュ戸																												
扉仕様	オレフィンシート貼付																												
レール	レールと戸車で動くものとする (バリアフリー対応)																												
扉	なし																												
神崎信二 一級建築士 第323073号 福岡県知事登録第1-30027号				古賀西小学校屋上防水等改修工事				家具等詳細図																					
株式会社 海 渡 設 計								A3 縮尺 1/40 A1 縮尺 1/20 No A-22 日付 2024年12月																					

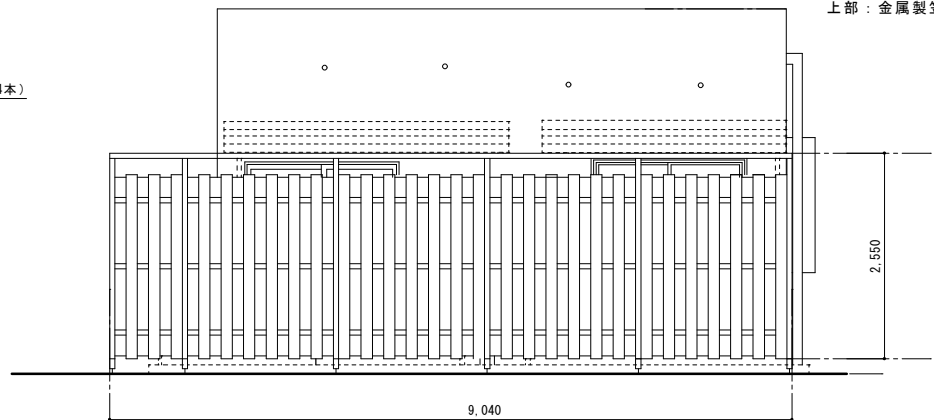
旧用務員室 木製目隠し 撤去



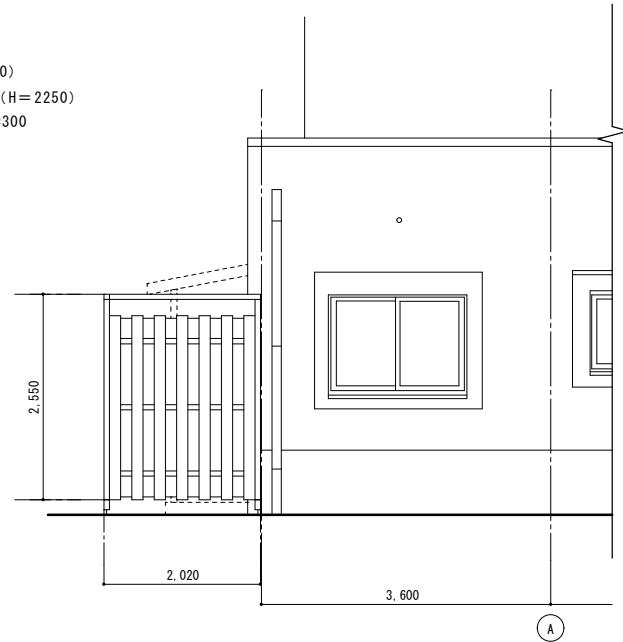
木製目隠し (H=2550)
柱 105×105 8本 (H=2250)
脚部(鉄製)部分 H=300
上部: 金属製笠木



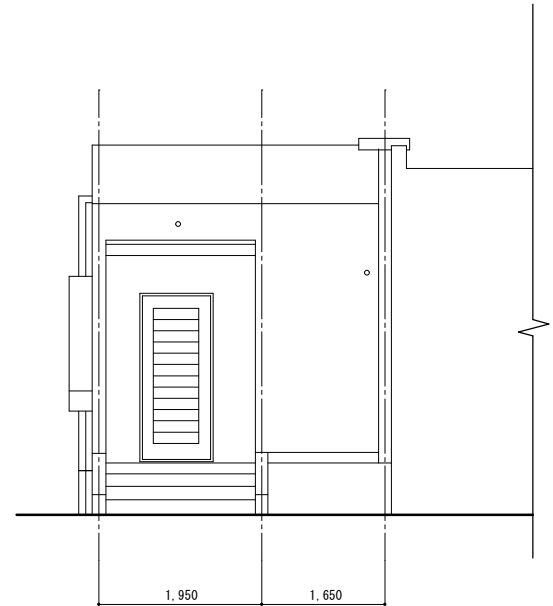
南立面図 (A) (non-scale)



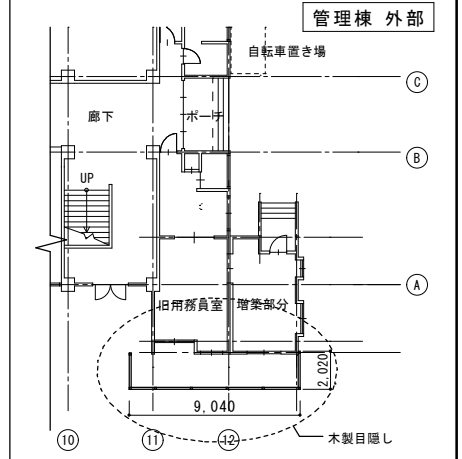
東立面図 (A) (non-scale)



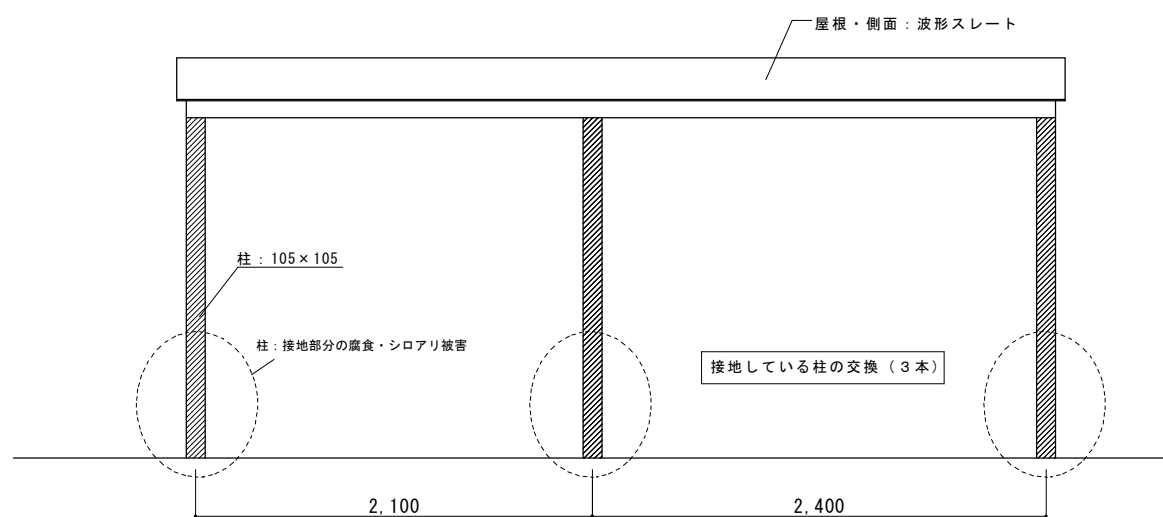
北立面図 (D) (non-scale)



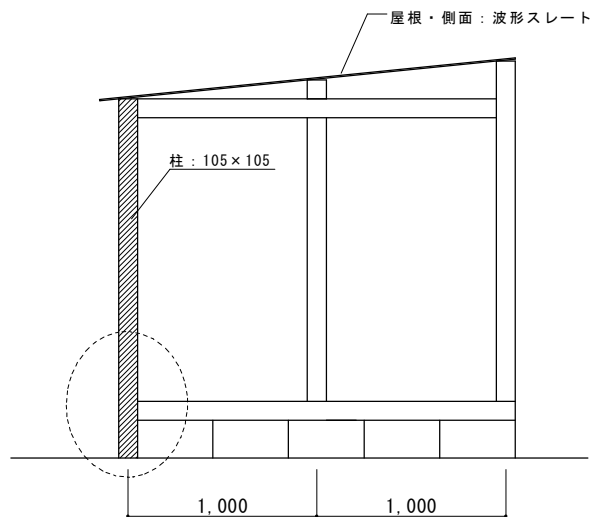
西立面図 (C) (non-scale)



自転車置場 木製支柱脚部 改修

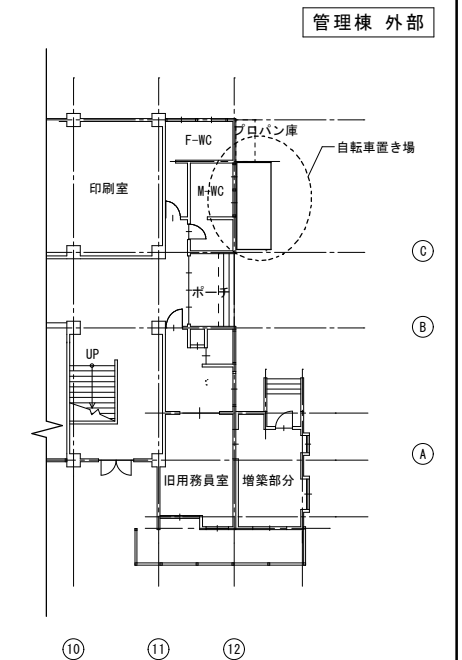
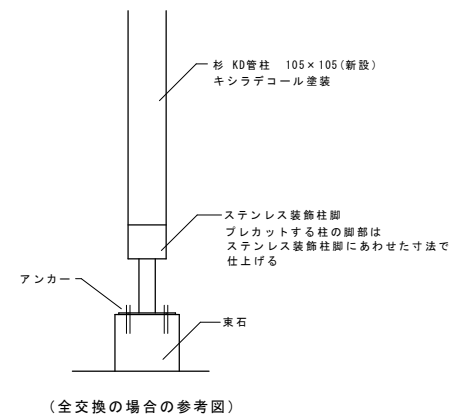


立面図 (A)



断面図

劣化部分のある柱の全交換・部分交換(柱継ぎ)等を行う
改修の方法については、現場確認の上、施工しやすい方法で行って良いものとする



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

外構図

A3 縮尺

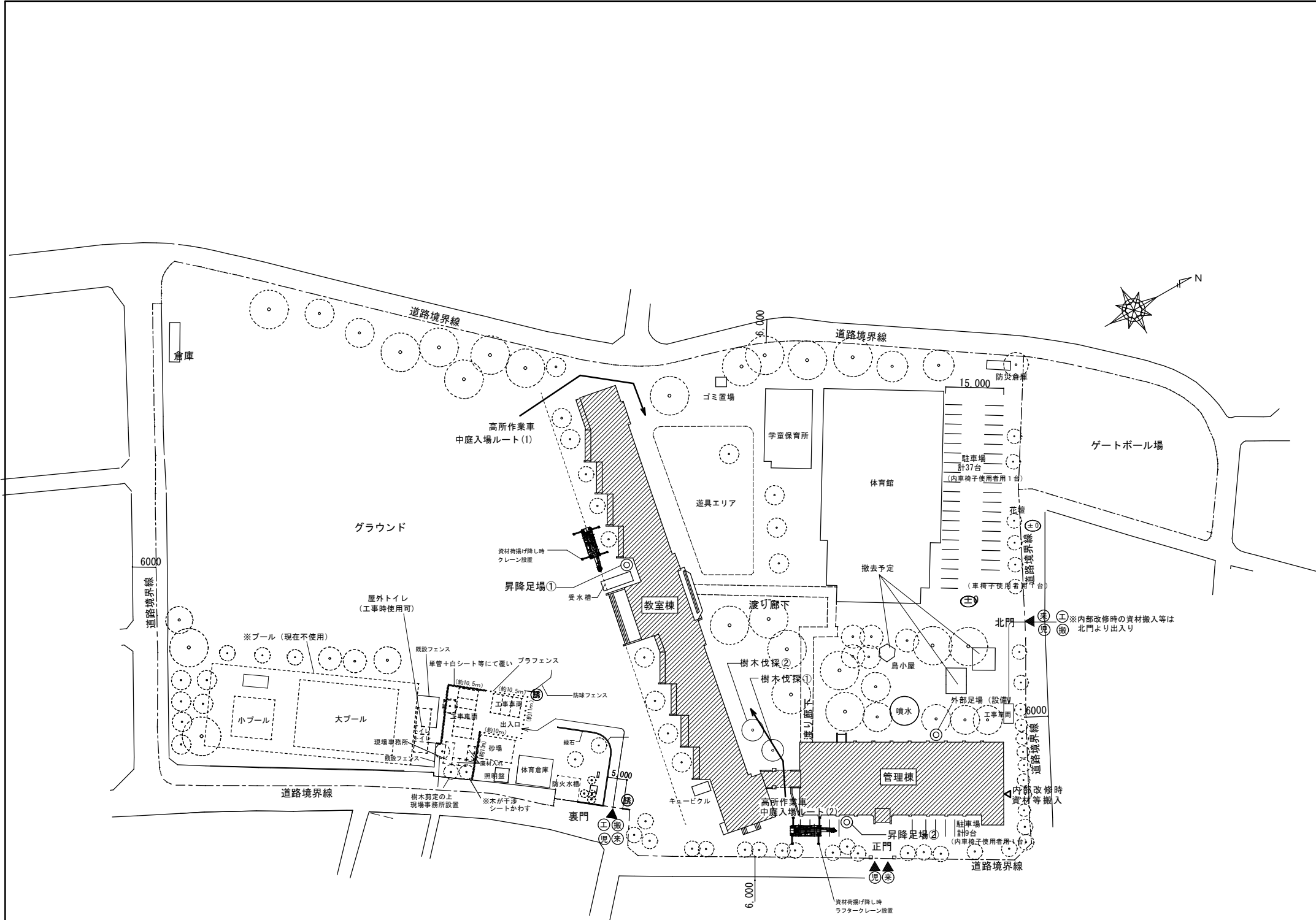
A1 縮尺

No

日付

A-23

2024年05月



配置図 S=1:600

凡 例 (仮設計画)		
昇降用足場①		建枠 W3600×L12800 養生シート張り (全面)
昇降用足場②		建枠 W5400×L11000 養生シート張り (全面)
外部足場 (設備用)		(エアコン設置時使用)
ブラフェンス		H1000程度 (投棄で砂場を使用する際は移動させる)
工所用仮囲い		単管+白シート H=2,000
高所作業車入場ルート		中庭側樹木の伐採・伐根により入場ルート を確保すること (樹木伐採リスト参照)
整地範囲		不陸直し、真砂土散布 (t=50程度)の上、 ローラ転圧 (2t程度)駐車場範囲 (不陸直 し範囲)。利用中はPVCマットt=13の上、 再生クラッシュラン敷きt=15を行うこと。
特記事項 現場事務所は10㎡程度とする 屋上防水工事においては、屋根外周部に安全手すりを設置する		
凡 例		
	工事対象棟を示す。	
	既存建物	
	GLからのレベルを示す。	
	交通誘導警備員 (資材搬出入時等)	
	工事動線を示す。	
	児童及び職員の動線を示す。	
	来客の動線を示す。	
	搬入車輛出入口を示す。	
特記事項 工所用出入口位置及び作業時間、足場設置位置については 学校と十分協議のこと。 工事完了時、作業場及び進入路は原型復旧のこと。		

樹木伐採リスト			
番号	幹周 (cm)	高さ (m)	伐採・伐根等
①	37.6 c m	4m	伐根
②	91.2 c m	4m	一部伐採

※ 伐採樹木の伐採は、高所作業車が作業できる程度とし、
現場打合せにて決定する



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

仮設計画図

A3 縮尺

1/1200

No

A-2 4

A1 縮尺

1/600

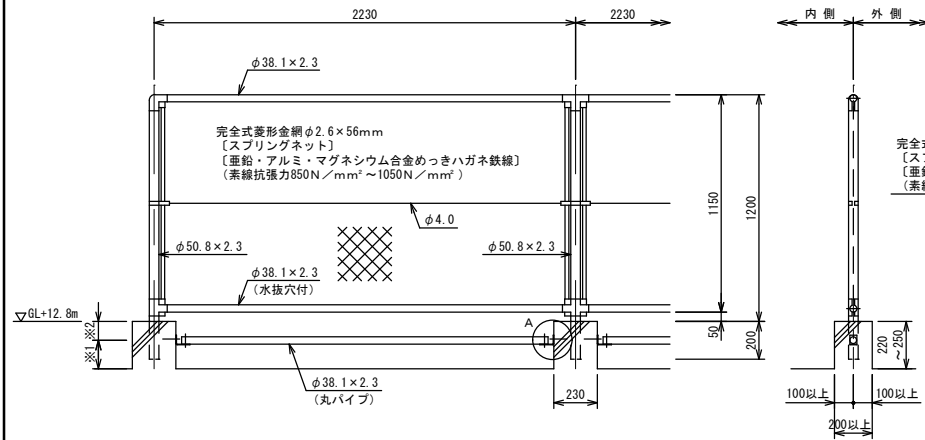
日付

2024年12月

教室棟

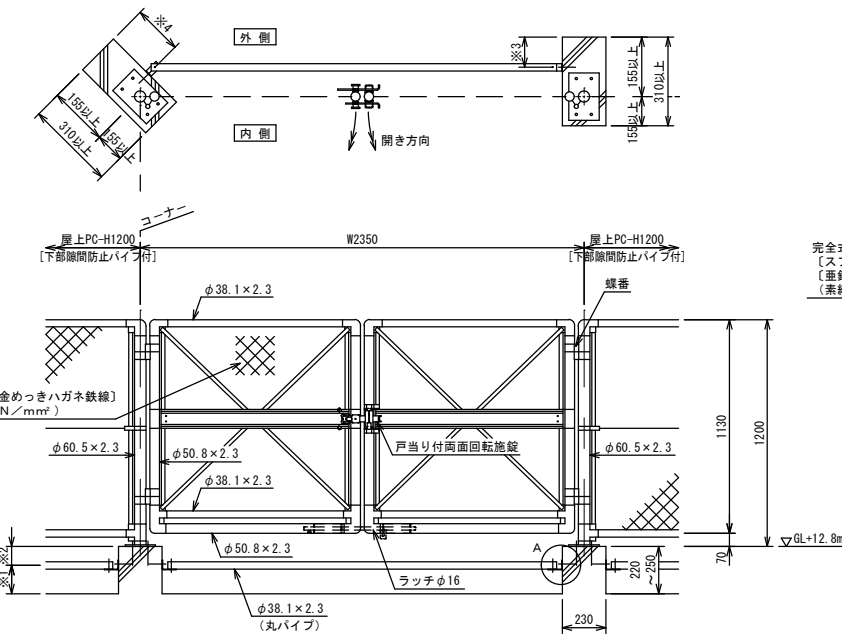
屋上PC-H1200[下部隙間防止パイプ付] S=1:20
(2.23mスパン)

建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る
基準風速 34m/sec 地表面粗度区分 III GL+12.8m



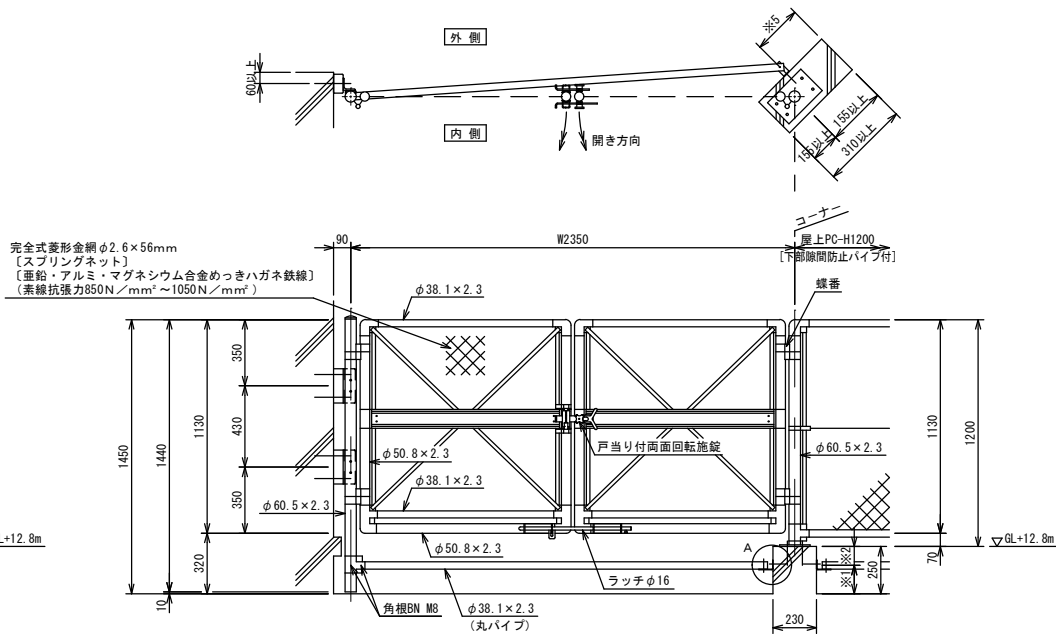
屋上PC両開き門扉 H1200×W2350(下部隙間70) S=1:20
<ベースプレート付>[下部隙間防止パイプ付]

建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る
基準風速 34m/sec 地表面粗度区分 III GL+12.8m

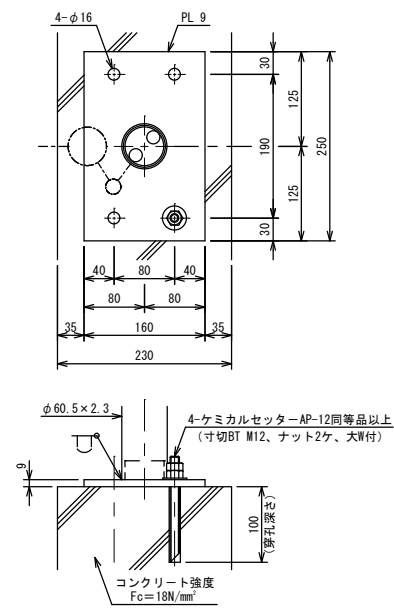


屋上PC両開き門扉 H1200×W2350(下部隙間70) S=1:20
<片側ベースプレート付、片側側壁取付式>
[下部隙間防止パイプ付]

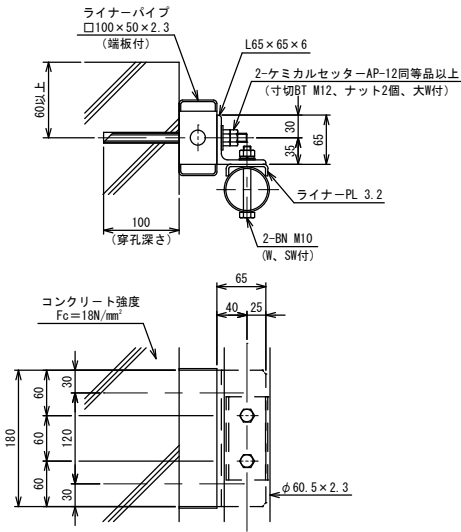
建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る
基準風速 34m/sec 地表面粗度区分 III GL+12.8m



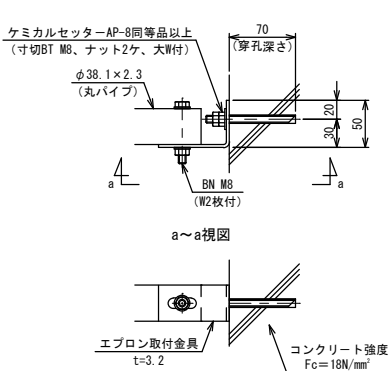
ベースプレート取付図 S=1:5



側壁取付図 S=1:5



A部取付図 S=1:4

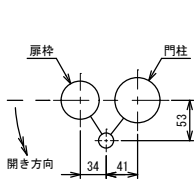


胴縁に金網取付断面図 S=1:3



平面詳細図 S=1/2

門柱・扉枠位置関係図



設計条件
設計荷重・・・建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る。
基準風速・・・34m/sec
地表面粗度区分・・・III

- 備考
1. 外装は金網類を除く他は下記とする。
・主柱、門柱、扉枠、胴縁・・・HDZT77 (HDZ55相当)
下部隙間防止パイプ
・網張りFB、中仕切鉄板・・・HDZT56 (HDZ40相当)
・ブレース平鉄・・・HDZT49 (HDZ35相当)
(キヤップを含む)
 2. 本図門扉は片側開きとする。
 3. ベースプレートの穴径は本図で施工上支障ないか確認のこと。
 4. ※1、※2印寸法は機能上及び施工上支障ない位置で現地状況に依り決定のこと。
 5. コーナー部の※3、※4、※5印寸法は門柱のアンカー位置に留意し機能上及び施工上支障ない位置にて決定とし、下部隙間防止パイプはそれに合わせて現地カット、現地穴あけ付のこと。
 6. 現地加工箇所はシンクリッチペイント補修塗りを施すこと。
 7. 本図寸法で機能上及び施工上支障ないか事前に確認のこと。

⚠ 注意
・柱根入れ部及びアンカー部には雨水等が侵入するため、建物の防水対策上支障ないか事前に確認のこと。

Z111312-01MT
(朝日PCフェンス参考図)



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

フェンス参考図(教室棟)

A3 縮尺

No

A-25

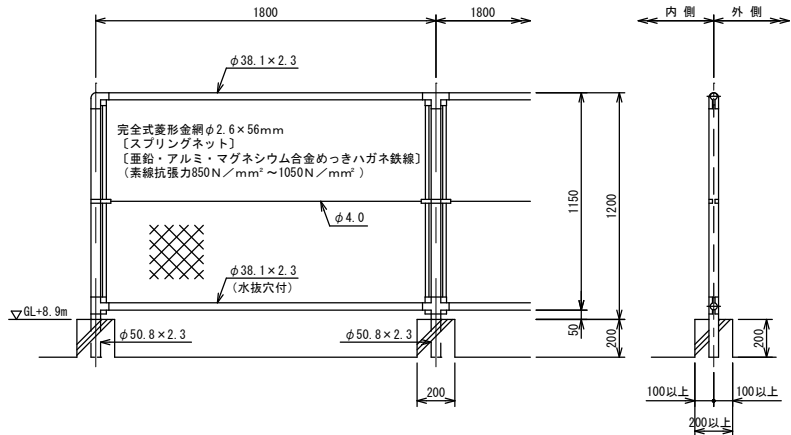
A1 縮尺

日付

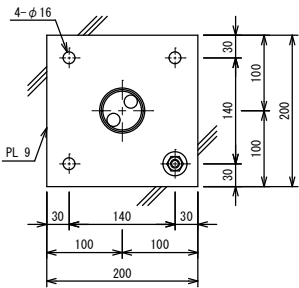
2024年12月

管理棟

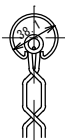
屋上PC-H1200 (1.8mスパン) S=1:20
[建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る
基準風速 34m/sec 地表面粗度区分 III GL+8.9m]



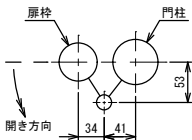
ベースプレート取付図 S=1:5



胴縁に金網取付断面図 S=1:3



門柱・扉枠位置関係図

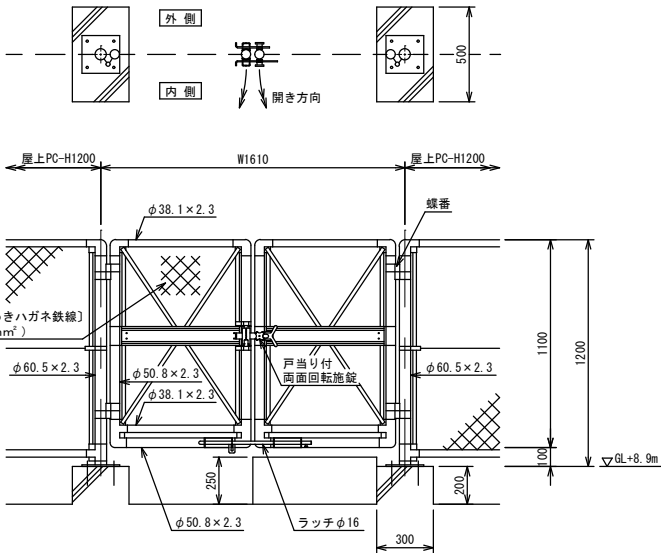


設計条件
設計荷重・・・建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る。
基準風速・・・34m/sec
地表面粗度区分・・・III

- 備考
- 外装は金網類を除く他は下記とする。
 - 主柱、門柱、扉枠、胴縁・・・HDZT77 (HDZ55相当)
 - 網張りFB、中仕切鉄板・・・HDZT56 (HDZ40相当)
 - ベース平鉄・・・HDZT49 (HDZ35相当)
 - 本図門扉は片側開きとする。
 - ベースプレートの穴径は本図で施工上支障ないか確認のこと。
 - 本図構造で機能上支障ないか事前に確認のこと。

⚠ 注意
・柱根入れ部及びアンカー部には雨水等が侵入するため、建物の防水対策上支障ないか事前に確認のこと。

屋上PC両開き門扉 H1200×W1610 S=1:20
(下部隙間100) <ベースプレート付>
[建築基準法・同施行令(平成12年6月)に基づく風圧力に依る
基準風速 34m/sec 地表面粗度区分 III GL+8.9m]



Z111312-01MT
(朝日PCフェンス参考図)



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

フェンス参考図(管理棟)

A3 縮尺

—

No

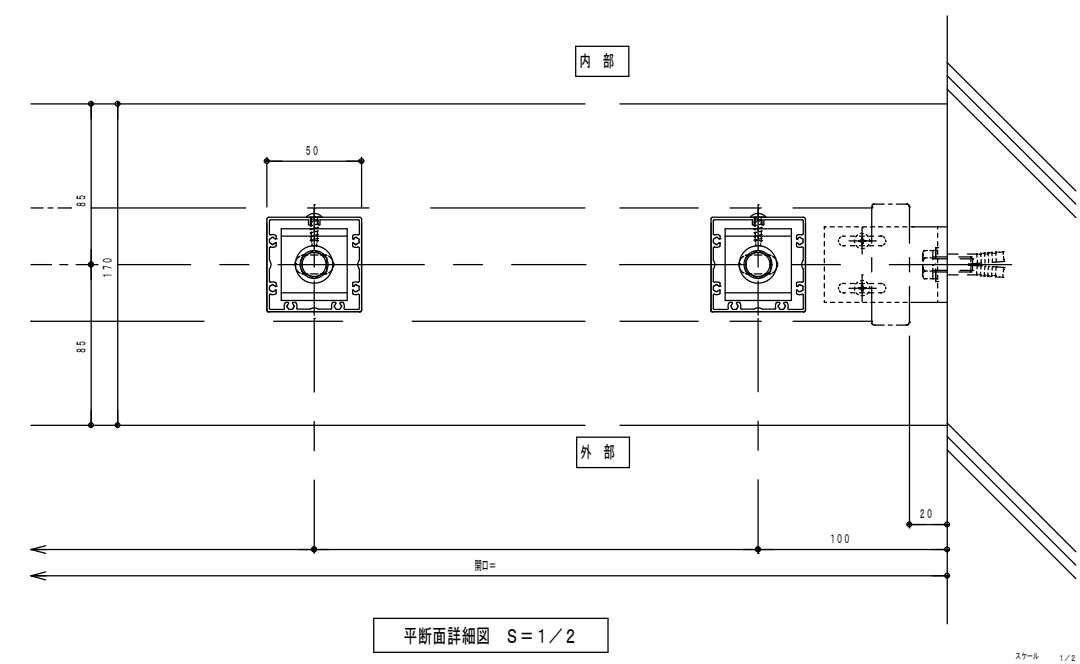
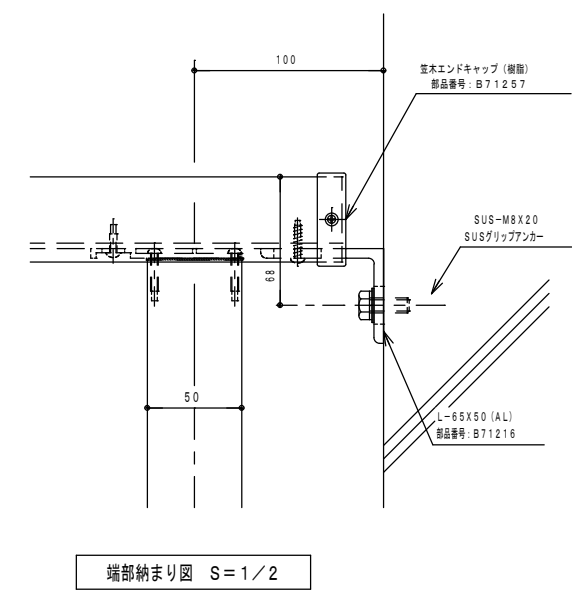
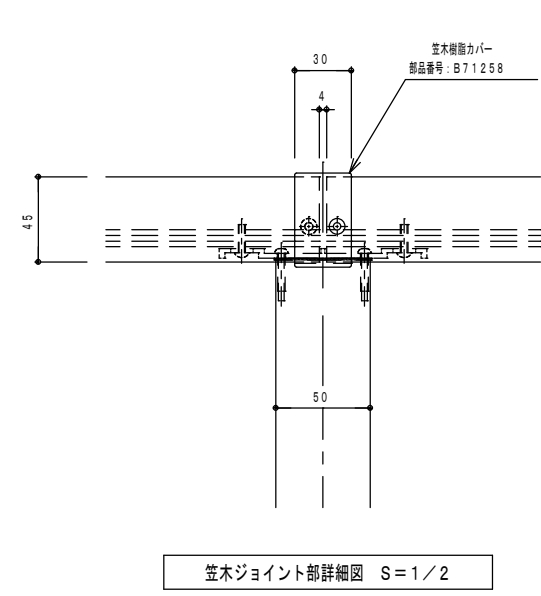
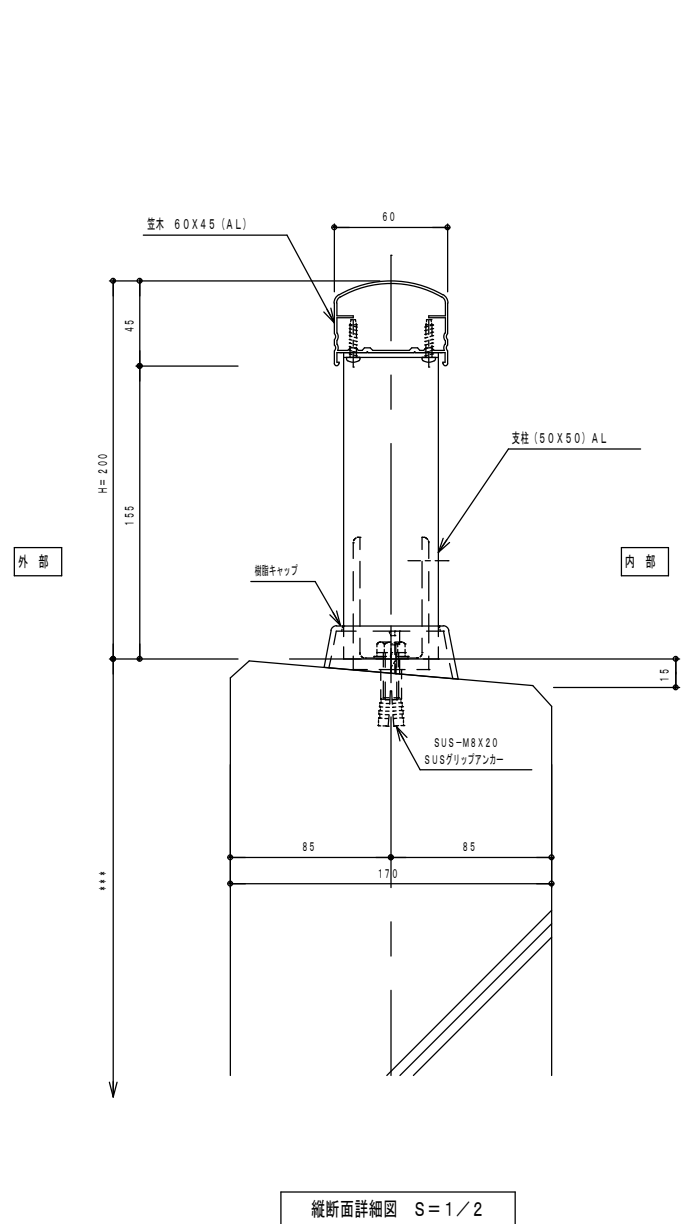
A-26

A1 縮尺

—

日付

2024年12月



スケール 1/2



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称
古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称
手すり参考図

A3 縮尺	—	No	A-27
A1 縮尺	—	日付	2024年12月

[illegible]

2. 補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図等による。

(1) 「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編 令和4年版）」

国土交通省大臣官庁官庁事務部設備・環境課監修

(2) 「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編 令和4年版）」

国土交通省大臣官庁官庁事務部設備・環境課監修

(3) 「建築工事標準詳細図（建築工事編 令和4年版）」

国土交通省大臣官庁官庁事務部設備課監修

(4) 「機械設備工事監理指針（令和元年度）」

国土交通省大臣官庁官庁事務部監修

(5) 「電気設備工事監理指針（令和元年度）」

国土交通省大臣官庁官庁事務部監修

(6) 「建築工事監理指針（令和元年度）」

国土交通省大臣官庁官庁事務部監修

(7) 「建築改修工事監理指針（令和元年度）」

国土交通省大臣官庁官庁事務部監修

(8) 「建築設備前設計・施工指針（2014年版）」

独立行政法人 建築研究所監修

(9) 「建築物工事安全施工技術指針・向陽館」

国土交通省大臣官庁官庁事務部設備課監修

(10) 「施設高実物処理指針」

厚生労働省資源局

(11) 「廃棄物の処分等に係る石砕くま防止及び石砕物搬入防止対策マニュアル」

(厚生労働省関係機関等) 建設部化学物質管理課、環境省 水・大気環境部長官環境課

(12) 「石砕含有廃棄物処理マニュアル（第3版）」

(環境省環境再生・資源課)

(13) 「建築工事の手引き」

福岡県建設都市計画課

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準ずる。

ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生じる場合は、黒田当番と協議すること。

3. 図面に記載する図書等

1. 適用仕様等 及び 2. 補足基準 のうち、当該工事に係る図書等については読務所等に常備し、監督職員の承認を得ること。

4. 特 記 仕 様

(1) 章および項目は番号に○印のものを適用する。

(2) 特記事項のうち選択するものは、原則として※印を選択するが、それ以外を適用する場合は○印をつけて選択する。

(3) 図面に明記なくも関係法規上・機能上・意匠上当然と認められるものは、本工事に併用して施工すること。

章	項 目	特 記 事 項																																																																															
① 一般事項	1. 養生材の処理	※18建設副産物の処理についての項を適用すること。 ※フロンの処理は、19フロン処理についての項を適用のこと。																																																																															
	2. 残土処分	※積り搬出 ・ 積み回数ごとし ・																																																																															
	3. 官公署その他への手続き	この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続は、これに必要な資機材、労務、及び費用を請負者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。																																																																															
	4. 機能試験	工事の内容に応じて、機能試験を行うこと。																																																																															
	5. 他工事との取合い	※施工区分表による ・ 図面詳細による																																																																															
	6. 技能士の適用	住宅においては20戸以上、住宅以外の建物については1,500㎡以上の工事に適用する。 ・ 配管（建築配管作業） ・ 建築金具（タフト板金作業） ・ 熱断絶施工（保温断熱工事作業） ・ 冷凍空調機器施工（冷凍空調機器施工作業）																																																																															
	7. あと施工アンカー	あと施工アンカーの施工は、（一社）日本建築あと施工アンカー協会の有資格者に行うこと。																																																																															
② 仮設工事	1. 監督員事務所	○設けない ・ 設ける（10㎡程度） 備品については監督員の指示による。																																																																															
	2. 工事用電力・水	この工事に必要な工事用電力（仮設及び試運転設置用電力を含む）、水（機械検査、消火用水及びブルの水張りを含む）及び諸手続などの費用は、すべて請負者の負担とする。																																																																															
	3. その他	○要する ・ 要しない																																																																															
	4. 総合仮設計画書	・ 他工事 ○本工事（詳細図による。）																																																																															
	5. 足場・橋台	○他工事 ・ 本工事（詳細図による。）																																																																															
	6. 夜間灯火等危険防止措置	監督員の指示による。																																																																															
	7. 工事表示板等	工事用車両の出入口では、一般通行及び一般乗用の安全確保に努めること。																																																																															
	8. 工事車両の出入り口	交通安全員 ・ 配置する（名以上） ・ 配置しない																																																																															
③ 共通事項	1. 機材	この工事に使用する機材は、監督職員（係員）の承諾を受けること。 なお、材料及び製品については、地域域材の使用に努めること。																																																																															
	2. 容量等の表示	イ）機器類の能力、容量等（電動機出力は除く）は、原則として、表示された数値以上とする。 ロ）電動機出力は、原則として、表示された出力以下の容量とする。 ハ）電動機の周波数は、60Hzとする。																																																																															
	3. 耐震施工	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備前設計・施工指針2014年版」による。 (1) 設計用標準震度(Ks) 機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により以下表より定める																																																																															
		<table><tr><th rowspan="3">設置場所</th><th colspan="8">耐震安全性の分類</th></tr><tr><th colspan="4">一定の施設</th><th colspan="4">一般の施設</th></tr><tr><th>重要機器</th><th>重要水栓</th><th>一般水栓</th><th>一般水櫃</th><th>重要機器</th><th>重要水栓</th><th>一般水栓</th><th>一般水櫃</th></tr><tr><td>上層階、</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td>地下及び埋置</td><td>(2.0)</td><td>(2.0)</td><td>(1.5)</td><td>(1.5)</td><td>(1.5)</td><td>(1.5)</td><td>(1.0)</td><td>(1.0)</td></tr><tr><td>中間階</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td><td>0.6</td></tr><tr><td></td><td>(1.5)</td><td>(1.5)</td><td>(1.0)</td><td>(1.0)</td><td>(1.0)</td><td>(1.0)</td><td>(0.6)</td><td>(0.6)</td></tr><tr><td>地階及び1階</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td><td>0.6</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.4</td><td>0.4</td></tr><tr><td></td><td>(1.0)</td><td>(1.0)</td><td>(0.6)</td><td>(0.6)</td><td>(1.0)</td><td>(1.0)</td><td>(0.4)</td><td>(0.4)</td></tr></table> <p>() 書きの数値は防振機器</p>	設置場所	耐震安全性の分類								一定の施設				一般の施設				重要機器	重要水栓	一般水栓	一般水櫃	重要機器	重要水栓	一般水栓	一般水櫃	上層階、	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	地下及び埋置	(2.0)	(2.0)	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)	(1.0)	中間階	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	0.6	0.6		(1.5)	(1.5)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)	(0.6)	地階及び1階	1.0	1.0	0.6	0.6	1.0	1.0	0.4	0.4		(1.0)	(1.0)	(0.6)	(0.6)	(1.0)	(1.0)	(0.4)	(0.4)
設置場所	耐震安全性の分類																																																																																
	一定の施設				一般の施設																																																																												
	重要機器	重要水栓	一般水栓	一般水櫃	重要機器	重要水栓	一般水栓	一般水櫃																																																																									
上層階、	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0																																																																									
地下及び埋置	(2.0)	(2.0)	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)	(1.0)																																																																									
中間階	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	0.6	0.6																																																																									
	(1.5)	(1.5)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)	(0.6)																																																																									
地階及び1階	1.0	1.0	0.6	0.6	1.0	1.0	0.4	0.4																																																																									
	(1.0)	(1.0)	(0.6)	(0.6)	(1.0)	(1.0)	(0.4)	(0.4)																																																																									
		＊耐震安全性の分類 （一定の施設 一般の施設） ＊次に示す機器を、重要機器、重要水栓とし、それ以外の機器を一般機器、一般水櫃とする。 _____ ＊上層階の定義は、次のとおりとする。 2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階 (2) 地域係数(Z) 地域係数(Z)は、1.0とする。																																																																															
	4. 防火区画等を貫通する配管	給水管その他の管が、建築基準法施行令第112条第15項の耐火構造の防火区画等を貫通する場合の措置は、図1による。																																																																															
	5. 給水管の材質	飲料用の給水・給湯管、給水・弁類、水栓等については、図1に関する演出性能基準を満足すること。																																																																															
	6. ライニング配管の継手	呼び径100以下はねじ結合、125以上はフランジ結合とする。																																																																															
	7. 吊り及び支持等	図2による。 ※鋼材・ボルトナットを屋外又は多湿箇所を使用する場合は、溶融亜鉛メッキ（2種35）又は、ステンレス鋼製（SUS304）とする。 埋設深さは150mm、ケーブル幅は150mm以上とし、色については次による。 上水（青） ガス（緑） 消火管（赤） 中水（黄色） 油（茶） その他については、監督職員（係員）の指示による。																																																																															
	8. 埋設保護ケーブル	※標準仕様書による。 ・ 図示による。 コンクリート内の防食は、防食用ビニルテープ（1/2重ね1回巻）とする。 地中防食は、ベトログラス系ベストを塗布のうえ、ベトログラス系防食テープ1/2重ね1回巻をを行う。さらにプラスチックテープ1/2重ね1回巻をを行う。継手は凹部材にベトログラス系マニテックを貼る。表面を平滑にしたうえで防食シートで包み、プラスチックテープを1/2重ね1回巻とする。 イ）無筋コンクリートの割合は、1：2：4とする。 ロ）鉄筋コンクリートの設計強度は、18N/mm ² とする。 既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴補修は、原則としてダイヤモンドカッターによる。事前に探査機器等を使用し、コンクリート内の配管・配線等を確認すること。																																																																															
	① 電気工事	※電気工事士法に定める「電気工事」「軽微な工事」を自ら行うものは、電気工事業者の登録または届出及び電気工事士資格を要し、「軽微な作業」を自ら行うものは電気工事業者の登録または届出を要する。 ※特記なき電線管は、薄鋼電線管又は同一外径のねじり電線管とする。 ※可とう電線管は、2種金属可とう電線管とする。 ※特記なき電線は、600Vビニル絶縁電線とする。 この工事で設置する管路の仕様については、監督職員（係員）の承諾を受けること。 鋼線深さ（1,500mm以上）の鋼線には矢張を使用すること。																																																																															
	14. 縦断																																																																																
	15. 矢張																																																																																
4 衛生 施設 設備	1. 大便器	・ 和風大便器（※節水型） ・ 一般型 ・ ※耐火力バー（防火区画貫通部） ・ 洋風大便器（※節水型） ・ 一般型 ・ 高面蓋型																																																																															
	2. 大便器洗浄方式	・ フラッシュタンク式 ・ 節水型FV（バキュームブレーカ付） ・ タンク式																																																																															
	3. 小便器	・ 床面型 ・ 壁掛型																																																																															
	4. 小便器洗浄方式	※節水洗浄方式 ・ 洗浄方式																																																																															
	5. 洗面化粧台	※洗面化粧台キャビネット部材は、ホルムアルデヒド放散量が日本森林規格（JAS）で定めるF☆☆☆☆基準のものとする。																																																																															
	6. 水栓	※節水コマ付 ・ 普通コマ付																																																																															
	7. 水栓	・ 普通 ・ 逆流れ防止形 ・ 耐食 ・ 逆流れ防止形耐食 ・ 身体接触警告形																																																																															
	8. 水栓柱	70°・90°1300（※合成樹脂製） ・ 人研製 ・ SUS製																																																																															
	9. 器具配置	トイレブース内の給排水、リモコン排水栓（1/2インチ SUS026に附った配置）とすること。																																																																															

5 給水設備	1. 量水器	※計量法 検定合格品とする。 ・縦メーター（※貸出品 ・買取り）（ ・直読式 ・遠隔式） ・子メーター（ ・貸出品 ※買取り）（ ・直読式 ・遠隔式）
	2. 量水器側	・水道事業者指定品（ ・貸出品 ※買取り）（ ・国土交通省型 ・その他
	3. 弁類	・水道直結部分 JIS（※10K ・ ） ・その他の部分 JIS（ ・5K ・10K ・ ） ・塩化ラニング鋼管及びポリ樹脂鋼管の配管に取り付ける鉄製製の弁はラニング弁とし、青銅製の弁は管端防食層の規定に準じた管端コアを備えたものとする。 ・鉄製製スレーナはラニングを施したものとする。 ・国土交通省型 図4による。
	4. 弁類	一般配管 ・塩化ラニング鋼管（SGP-V A） ・塩化ラニング鋼管（SGP-V B） ・水道用耐衝撃性硬質化ビニル管（H1VP） ・鉄管（ ・型 種） ・ステンレス鋼管（SUS）（ ・圧縮継合 ・溶接継合 ・圧着継合） ・鋼製ポリエチレン管またはポリブデン管（ ・溶着工法） ・金属強化ポリエチレン管
	5. 配管材料	ビット内配管 ・塩化ラニング鋼管（SGP-V D） ・ポリ樹脂鋼管（SGP-P D） 厨洗、浴室等のシンダー内配管 ・塩化ラニング鋼管（SGP-V D） 屋内地中配管 ・塩化ラニング鋼管（SGP-V D） ・ポリ樹脂鋼管（SGP-P D） ・水道用耐衝撃性硬質化ビニル管（H1VP） 屋外配管 ・塩化ラニング鋼管（SGP-V B） ・ポリ樹脂鋼管（SGP-P D） ・水道用耐衝撃性硬質化ビニル管（H1VP） ・水道用硬質化ビニル管（VP） ・ポリエチレン管 1種（PE）（ ・溶着継合 ・金属継手継合）
6 排水設備	6. 引込給付金等	※別途
	7. ポンプ基礎	・標準基礎 ・防振基礎
	8. 他の設備項目の適用	記のもの、空気配管と設備の当該項目を適用する。 イ) 防振継手 ロ) フレキシブルジョイント ハ) 防振吊り金物及び支持金物（ただし排水管のみ） ・標準図（ ・（a） ・（b） ※（c）スリッラッシュン）による。
	9. 建物導入部配管	・一般敷地（ ・300 mm ・ mm） ・標準内通通路（ ・600 mm ・ mm）
	10. 管の埋設深さ	※用いる（図5による。） 塩化ラニング鋼管と給排水・鋼合製配管附属品等との接続
7 給湯設備	11. 器具接続用管端 防食管継手	
	1. 配管材料	・汚 水 管 ・硬質化ビニル管（VP） ・耐火二層管 ・排水用塩化ラニング鋼管 ・耐火硬質ポリ塩化ビニル管（FS-V P） ・硬質塩化ビニル管（RF-V P）：ビット内 ・雑排水管 ・配管用炭素鋼管（白） ・硬質化ビニル管（VP） ・カラーVP ・耐火二層管 ・排水用塩化ラニング鋼管 ・耐熱硬質化ビニル管 ・耐火硬質化ビニル管（FS-V P） ・硬質塩化ビニル管（RF-V P）：ビット内 ・屋外排水管 ・硬質化ビニル管（ ・VP ・V U）※呼び径12.5以上は原則としてV Uとする。 ・小口径立上り管、リサイクル硬質塩化ビニル管（ ・R S-V U） ・通 気 管 ・配管用炭素鋼管（白） ・硬質化ビニル管（VP） ・カラーVP ・耐火二層管 ・硬質塩化ビニル管（RF-V P）：ビット内
	2. 管継合	・鋼 管（ ・ねじ込み式 ・M D継手 ・ ） ・排水用塩化ラニング鋼管（ ・M D継手 ・ ）
	3. 可燃材の区画処理	図1による。
	4. 弁類	特記以外JIS 5K とする。 排水鉄管管系統の床上床下口直下に取付ける管は45° 2面曲りとする。 図面詳細による。 図面詳細による他、下記による。 ミカゲ（未塗装部） 鉄鉄（歩道部） 鋼鉄継手（車道部）（ ・T B ○T-14 ・T-25） ビニル製伸縮継手 空気配管と、衛生工学学会規格S H A S E S 2 1 T（グリーン集束管）によるものとする。 排水流し下のビニル製排水管には差込（V V）ソケットを使用すること。 図示による。
8 消火設備	5. 管類	イ） ・ステンレス鋼管（ ・圧縮継合 ・溶接継合） ・保温付ステンレス鋼管 ・耐熱塩化ラニング鋼管 ・鋼管 ・保温付被覆鋼管 ・被覆耐熱鋼管 ・鋼製ポリエチレン管またはポリブデン管（ ・溶着工法） ・金属強化ポリエチレン管 ロ） 鋼管使用の場合はM管とし、電食防止継手を取付ける ※用いる（図5による。）
	2. 器具接続用管端 防食管継手	
	3. 弁類	JIS 5K とする。ただし、特記部分はJIS 10K とする。
	4. 排気管及び煙突	ガス湯沸器用排気管は、JIS S 3025によるSUS304（厚さ0.3mm以上）とする。 ・排気管の断熱（※要（断熱の箇所のみ） ・不要） イ） 断熱水槽の保温（ ・要 ・不要） ロ） コンクリート埋設部（ ・防水断熱布 ・保温工法） ・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	5. 保温	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
9 ガス設備	6. 湯沸器	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	7. 燃料	・ガス ・灯油 ・電気
	1. 消火ポンプの基礎	・標準基礎 ・防振基礎
	2. フート・水栓箱及びサクションカバー	・要 ・不要
	3. 屋内消火栓弁	※減圧弁付 ・屋内消火栓（ ・要 ※不要） ・屋外露出消火栓（ ※要 ・不要） ・配管用炭素鋼管（白）（屋内） ・外面被覆鋼管（ ・SGP-V S ・SGP-P S） ※要
10 換気設備	4. 保温	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	5. 管類	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	6. 消防設備士	※要
	1. 種類	・都市ガス（ガス種 ※13 A ・12 A） ・液化石油ガス
	2. 管類	一般配管 ・配管用炭素鋼管（白） ・ガス用ステンレス製フレキシブル管 ・硬質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管 ビット内配管 ・硬質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管 屋外埋設配管 ・ポリエチレン管JIS K 6774 イ） ガスメーター 縦メーターはガス供給事業者より借用、子メーターは買取りとする。 イ） ガスメーター（ ・買取り ・借用） ロ） 集合装置（ ・別述工事 ※本工事） ハ） 配管防止用の鎖（ ・別述工事 ※本工事） ニ） ポンプ置場のコンクリート基礎（ ※別述工事 ・本工事） 連動スイッチ（ ・要 ・不要） ・本工事 ・別述工事 ※ガス漏れ警報器工事は、住宅工事においては原則として行わない。 液化石油ガス設備士による施工とする。 （財）日本液化石油ガス機器検査協会、検査合格品とする。 ※要 ・不要 ・標準図（ ・（a） ・（b） ※（c）スリッラッシュン）による。
11 その他	3. 弁類	JIS 5K とする。ただし、特記部分はJIS 10K とする。
	4. 排気管及び煙突	ガス湯沸器用排気管は、JIS S 3025によるSUS304（厚さ0.3mm以上）とする。 ・排気管の断熱（※要（断熱の箇所のみ） ・不要） イ） 断熱水槽の保温（ ・要 ・不要） ロ） コンクリート埋設部（ ・防水断熱布 ・保温工法） ・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	5. 保温	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	6. 湯沸器	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	7. 燃料	・ガス ・灯油 ・電気
12 その他	8. 湯沸器	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	9. 燃料	・ガス ・灯油 ・電気
	1. 消火ポンプの基礎	・標準基礎 ・防振基礎
	2. フート・水栓箱及びサクションカバー	・要 ・不要
	3. 屋内消火栓弁	※減圧弁付 ・屋内消火栓（ ・要 ※不要） ・屋外露出消火栓（ ※要 ・不要） ・配管用炭素鋼管（白）（屋内） ・外面被覆鋼管（ ・SGP-V S ・SGP-P S） ※要
13 その他	4. 保温	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	5. 管類	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	6. 消防設備士	※要
	1. 種類	・都市ガス（ガス種 ※13 A ・12 A） ・液化石油ガス
	2. 管類	一般配管 ・配管用炭素鋼管（白） ・ガス用ステンレス製フレキシブル管 ・硬質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管 ビット内配管 ・硬質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管 屋外埋設配管 ・ポリエチレン管JIS K 6774 イ） ガスメーター 縦メーターはガス供給事業者より借用、子メーターは買取りとする。 イ） ガスメーター（ ・買取り ・借用） ロ） 集合装置（ ・別述工事 ※本工事） ハ） 配管防止用の鎖（ ・別述工事 ※本工事） ニ） ポンプ置場のコンクリート基礎（ ※別述工事 ・本工事） 連動スイッチ（ ・要 ・不要） ・本工事 ・別述工事 ※ガス漏れ警報器工事は、住宅工事においては原則として行わない。 液化石油ガス設備士による施工とする。 （財）日本液化石油ガス機器検査協会、検査合格品とする。 ※要 ・不要 ・標準図（ ・（a） ・（b） ※（c）スリッラッシュン）による。
14 その他	3. 弁類	JIS 5K とする。ただし、特記部分はJIS 10K とする。
	4. 排気管及び煙突	ガス湯沸器用排気管は、JIS S 3025によるSUS304（厚さ0.3mm以上）とする。 ・排気管の断熱（※要（断熱の箇所のみ） ・不要） イ） 断熱水槽の保温（ ・要 ・不要） ロ） コンクリート埋設部（ ・防水断熱布 ・保温工法） ・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	5. 保温	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	6. 湯沸器	・簡易式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	7. 燃料	・ガス ・灯油 ・電気</

1	ダクトの材質	・亜鉛板塗装 ・普通鋼板塗装
2	排気口	イ) 形状　・スリット形　・パネル形　・ダンパ形 ロ) 開放装置　・手動　・手動及び遠隔操作可能なもの
1	中央監視制御	・要　・不要 別紙による。
2	中央監視制御装置の構成・機能	
3	電源装置	・要(・本工事　・別途電気工事)　・不要
1	温度湿度調整目標値	(※冷・暖期前着しくは指定日に給送運転試験を行い、試運転成績表を提出すること)
1	外　　気	室　　内
		○学校(一般系統)　・学校(宿舎)
	温　度 (℃)	温　度 (℃)
	湿　度 (%)	湿　度 (%)
	夏　季	冬　季
	14.8℃ 27.5℃	17.1℃ 59.2℃
	1.8℃ -0.7℃	19.0℃ %
2	電気工事の範囲	※施工区分表による。　・図面詳細による。 イ) 冷暖 ※HFC系(R407C、R410A、R134a、R32等) ロ) 冷暖管(※断熱材被覆銅管、断熱厚さ:液管10mm(液管の管径φ5.2mm以下は厚さ8mm)、ガス管20mm)) ハ) 冷暖管及びドレン管の區画処理(・有(※国土交通大臣認定工法　・その他)無) ニ) ドレン管の材質　・配管用炭素鋼管(白)　◎硬化ビニル管(VP) ホ) 結露防止層付強化ビニル管　・硬化塩化ビニル管(RF-VVP) ヘ) 室外機の基礎(・標準架台　・防振架台) ホ ※2015年省エネルギー対応品とする。(各メーカー最高APF仕様)
4	配管材料 (パッケージエアコンを除く)	イ) 給水管　・塩化ビニル樹脂管(・SGP-VB　・SGP-VA) ロ) 冷卻水管　・配管用炭素鋼管(白)　・耐熱塩化ビニル樹脂管 ハ) 一般配管用ステンレス鋼管 ヘ) 排水管　・配管用炭素鋼管(白)　・硬化塩化ビニル管(VP)　・カラーVP ・結露防止層付強化ビニル管　・硬化塩化ビニル管(RF-VVP) ニ) 冷卻水管　※塩化ビニル樹脂管(※SGP-VB　・　) ホ) 高圧及び油配管は配管用炭素鋼管(黒)とする。 ハ) 冷暖管(・銅管　・断熱材被覆銅管(製造者標準品)) ト) 冷暖管の區画処理(・有(※国土交通大臣認定工法、その他)　・無) チ) 断接箱、安全管及び漏洩水槽よりポリホへの給水管の配管材料は、水道用亜鉛メッキ鋼管とする。
5	冷暖	※HFC系(R407C、R410A、R134a、R32等)　・自然冷凍(CO2、NH3) JIS 5K とする。ただし特記部分ではJIS 10K とする。
6	弁類	・ベローズ型　・合成ゴム製(・合成ゴム製　・山ベローズ部) ※異質は標準仕様書による。
7	防振緩衝手	・ベローズ形ステンレス製　・合成ゴム製
8	フレキシブルジョイント	・ベローズ形ステンレス製　・合成ゴム製
9	ダクト	イ) 種類(※低圧ダクト　・高圧ダクト) ロ) 工法・種別(・アングル工法　・コーナーボルト工法(・共振　・スライドオン) ・スライダルト工法(・スタンプレフトダクト) ハ) 分岐方式(※割込式方式　・垂付け方式) 構造仕様書によるほか、取付を図示された部分に取付ける。 イ) シーリングディフューザーには、下記の接続チャムパーを設ける。 a) ネットワークが200φ以下　400×400×250H b) ネットワークが200φを超えるもの　800×800×300H c) プラスチックインフラッシュ出口には、下記の接続チャムパーを設ける。 a) シングル形　200X(L+100)×300H b) ダブル形　250X(L+100)×300H ハ) 外壁に面するガリに直接取り付けずチャムパー、ホッパには排水弁を設ける。 イ) ユニバーサル形状吹出　・銅板製　※アルミ製 ロ) シーリングディフューザー　・銅板製　※アルミ製 ハ) 吸込口　・銅板製　※アルミ製(空気吸込口には防虫網付とする。)の下記のものは本体仕様による。 イ) 操作方式　・電気式　・空気式 ロ) 復帰方式　※返開式(※電気式　・空気式)　・手動式 ハ) 復帰ヒューズ(・取り付ける　・取り付けない) ニ) 表示用端子(・設ける　・設けられない) 14. 構造 銅板厚(・4.5mm　※3.2mm)
10	風速測定口	
11	チャンパー等	
12	吐出口・吸込口の材質 (シャッター式)	
13	防煙ダンパー	
14	構造	
15	保温	下記のものとは仕様による。 イ) 建築物内の空調設備の保温は、空調機を併せてとし、仕様が温水管の項による。 ロ) 空調設備と機械・ファンコイルユニット等の排水管の保温は、給排水衛生設備の排水管の項による。 ハ) 通り風道の保温(・要　・不要)　ニ) 漏洩水槽の保温(・要　・不要) ホ) 内張りチャムパー等の保温(・要　・不要) ロ) 階べり風道の保温でフランジ部は保温材2枚敷きとする。 ハ) 内張りでの材料及び施工方法は、標準仕様書の当該事項による。 ロ) 施工箇所は、図示した風道並びにチャムパー類とする。 ハ) 内張りチャムパー類の寸法表示は、外形寸法とする。
16	消費内装り	
17	機器類の架台	イ) パッケージ型空調設備(・防振バット　※本台　※転倒防止処理) ロ) ユニット型空調設備(・標準架台　・防振架台) ハ) 床基礎(・標準架台　・防振架台)　二) ポンプ(・標準架台　・防振架台) ホ) 冷水機(・標準架台　・防振架台) ヘ) チャーユニット(・標準架台　・防振架台)
18	機械室(配管・風道)のつり金物	・防振つり金物(・シングル　・ダブル)(・中央機械室　・各階機械室)
19	温度計	※標準仕様書による。
20	圧力計及び通算計	※標準仕様書による。
21	瞬間流量計	※要(※標準仕様書による。　・図示による。　・不要)
22	ファンコイルユニット用調節弁	・流量調節弁　・定流量弁(流量設定が可能なもの)
23	油サービスタンク	イ) 防油堤(コンクリート製)　※別途工事　・本工事 ロ) フロートスイッチの機能は、下記による。 ・給油ポンプの起動、停止　・満油警報　・減油警報 ハ) 油面計(・フロート式　・ゲージ式) イ) タンク室　・設けられない　・設ける(・別途工事　・本工事) ロ) 計量器(・計量器　・直読式(防水差スプリング付、プロテクター付)　・遠隔読み) ハ) 土工事　・オープンカット　・矢板(・有　・無)　・特殊基礎(・有　・無)
24	地下貯油槽	
25	予備品	※ファンコイルユニット付属品　イ) 運転表示ランプ　台数の1/2以上 ロ) フィルター　各型式台数の1/2以上 ※自動巻取形空気通過用フィルター(各台1巻) ※ユニット形空気通過用　巻
26	アフターマーケット	※要(指定機種)　・不要
27	点検計	※要(指定機種)　・不要
28	修理費	・設ける
29	ばいじん測量測孔	・設ける(従前の最端部に直径80φ以上のラング付とする。　・設けられない)
工 事 名 称		古賀西小学校屋上防水等改修工事
工 事 場 所		福岡県古賀市天神7丁目4番1号
設計者氏名		一級建築士 第323073号 神崎信二
事務所名称		株式会社 海渡設計
所在地		福岡県福岡市東区名島二丁目2番8号
		令和 年 月 日
		特記仕様書(1)
		図 番 M / 01 号

14
受水
管

15
浄化
槽

16
管
類
保
温
仕
様

※加圧給水ポンプ（住宅物件）の仕様については、加圧給水ポンプユニット仕様書（国土交通省仕様）による。

※浄化槽仕様書による。

給排水衛生設備
管類

空調設備等（冷熱）
管

一般風道

排煙風道

煙道

※ ポリスチレンフォーム保温筒及びロックウール保温筒又は、保温板の使用が困難な箇所は、ロックウールフェルトを使用してもよい。
※ ストレーナー・弁の保温は、屋内屋外ともビスなどにより容易に着脱できる構造とすること。
※ 防火区画を貫通する管の保温は、その貫通する部分をロックウール保温材とする。
※ 蒸気管、温水管の保温は、ポリエチレンフィルムを除く。
※ スパイラルダクト（フランジ部を除く。）の保温は、グラスウール保温板32 K使用してもよい。
※ O Aダクトが室内空調空間を経由する場合は保温すること。
※ 全熱交換器の一次側O A、E Aダクトは保温工事を実施すること。
※ ドレン管の保温は、排水管の項による。

施工箇所

保 温 種 別

区 分

給水管

排水管

給湯管

ガス管

屋内露出（住宅内）黒管

屋内露出（住宅内）白管

屋内露出（住宅外）

機械室内

メーターボックス内黒管

メーターボックス内白管

メーターボックス内

床下・暗渠内

床下・暗渠内

天井内・PS内

スラブ上床板間転がし

スラブ上床板間転がし

洗面台内

屋外露出

屋外露出

屋外露出黒管

屋外露出白管

コンクリート内

木造壁内

土中埋設

※ 硬質塩化ビニル管及び鉄鋼管のコンクリート、地中埋設部は防食施工しない。
※ サニタリーバンド及び通気管の屋内露出部分は塗装する。
※ 屋内露出（便所）の通気管は塗装する。
※ コンクリート貫通部には、防食処理を行う。
※ 間仕切壁（PL板除く）貫通の場合は両側にプラスチックプレート取付のこと。
※ 支持金物仕様PS内（鋼製）、屋外（SUS製）、その他（樹脂製）とする。
※ さや管ヘッダー工法におけるヘッダー管は保温を行うこと。
※ 給湯器接続用フレキは保温チューブにて保温すること。

17
住
宅
保
温
仕
様
（管類については○印を塗りつぶしたものを適用する）

18
建
設
副
産
物
の
処
理
に
つ
い
て

資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。
現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。
また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。
工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）

その他の副産物

・がれき類
（コンクリート塊）
（アスファルト塊）
・木くず
・汚泥

・廃プラスチック
・ガラス、陶磁器くず
・廃石こうボード
・金属くず
・繊維くず

特別管理産業廃棄物

・廃石綿等
1. 除去処理
アスベスト含有保温材等（煙突用断熱材は除く）の除去は可能なかぎり粉じん飛散抑制剤で十分に湿潤化した後、手ばらしで行う事。手ばらし以外の除去（グループバック方式による除去は除く）の場合は、「改修仕様」9. 1. 3および「改修指針」9. 1. 3による。
2. 汚染物処分
（1）除去したアスベスト含有保温材等の処理方法は、「改修仕様」9. 1. 3（b）（2）及び「改修指針」9. 1. 3（b）（2）により、密封処理する。
（2）施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、掛搬機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させない事。なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分等については、「改修仕様」9. 1. 3（c）及び「改修指針」9. 1. 3（c）による。

・廃PCB等
「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

※参考受入場所は現場説明書による

建設副産物の処理内容

処 理 内 容

備 考

現場内における分別

現場内分別保管場所の設置

現場内分別保管場所までの運搬

分別保管場所からの積込み・運搬・処分

「建設副産物の処置計画書」の作成

「建設副産物の処理結果報告書」の作成

「再生資源利用計画書」の作成

「再生資源利用実施書」の作成

下請工事の場合は不要

下請工事の場合は不要

下請工事の場合は不要

下請工事の場合は不要

19
フ
ロ
ン
処
理
に
つ
い
て

「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。

発注者（施設管理者）

業務用冷凍空調機器の有無の事前確認への協力

受託確認書

工事請負業者

フロン類引渡
回収・運搬・破壊費用支払
委託確認書

引取証明書

引取証明書、実者登録書のコピー

第1種フロン類充てん回収業者

・・・フロン類回収・運搬

フロン類破壊・再生業者

・・・フロン類破壊処理、一部再生利用

※ 工事請負業者は、第1種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第1種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図書に添付のこと。
※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（ルームエアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図書に添付すること。

1. 水源

2. 配管材料

3. 接続の防止対策

4. 試験

・雨水
・雑用水処理水
・井水
一般配管
・塩ビライニング鋼管（SGP-V A）
・塩ビライニング鋼管（SGP-V B）
・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）（屋内）
・鉄鋼管（型）
・ステンレス鋼管（SUS）（・圧縮接合・溶接接合・拡管接合）
・塩ビライニング鋼管（SGP-V D）
・ポリ粉体鋼管（SGP-P D）
・塩ビライニング鋼管（SGP-V D）
・ポリ粉体鋼管（SGP-P D）
・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）
・水道用硬質塩化ビニル管（VP）
※ プチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。
※ プチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。
※ ポリエチレン管 1種（PE）（・溶着接合・金属継手接合）

ビッド内配管
塩ビライニング鋼管（SGP-V D）
ポリ粉体鋼管（SGP-P D）
屋内地中配管
塩ビライニング鋼管（SGP-V D）
ポリ粉体鋼管（SGP-P D）
※ プチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。
※ プチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。
※ ポリエチレン管 1種（PE）（・溶着接合・金属継手接合）

屋外地中配管
塩ビライニング鋼管（SGP-V D）
ポリ粉体鋼管（SGP-P D）
・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）
・水道用硬質塩化ビニル管（VP）
※ プチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。
※ プチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。
※ ポリエチレン管 1種（PE）（・溶着接合・金属継手接合）

配 管 等
※ 塗装できない管種にはテープ巻きを施すこと
屋内隠ぺい配管
1. 保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。
2. 保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。
屋内・屋外露出配管
1. 保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。
2. 保温後の要所には「処理水」と表示する。
地中埋設部
1. 埋設前の裸管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。
2. 「処理水」の文入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地中埋設部）
コンクリート内埋設部の配管
1. 埋設前の裸管に若草色の着色塗装を行うこと。
2. 埋設後の要所には「処理水」と表示する。
メーター
1. メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。
2. メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。
バルブ等
1. バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。
2. バルブ等で誤操作する恐れのある箇所は、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。
3. 地中埋設バルブの鉄蓋は「処理水」入りを使用すること。

注）若草色とは黄緑色をいう。
処理水用の若草色表示テープ、黄色の埋設標識テープは福岡市管工事組合に常備。
井戸水を雑用水として使用する場合は、上表において「若草色を紫色に」、
「処理水を雑用水」と読みかえる。
接続がないことを確認するため衛生器具等の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験等を行う。

20
中
水
道
配
管
設
備

図1 防火区画等貫通部措置

給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合の措置は、建築基準法施行令第129条の2の4第1項第7号に規定されており、次のいずれかに該当すること。
1. 防火区画等の貫通部分及び両側1m以内を不燃材料で造ること。（右参考図参照）
※ 耐火二層管は不燃材料に該当せず、後述の3.に従う。
2. 平成12年建設省告示第1422号に適合すること。（下表）
（難燃材料又は硬質塩化ビニル管（VP）を用いる場合）

用途

覆いの有無

肉厚

給水管等の外径

防火構造

30分耐火構造

1時間耐火構造

2時間耐火構造

給水管

排水管及び排水管に付属する通気管

※表中の（ ）内は適合可能な硬質塩化ビニル管（JIS K 6741のVU管を除く）の呼び径寸法を示す。
※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質塩化ビニル管であれば、表中の肉厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

例1）硬質塩ビサイクル管（RF-V P）に防火区画貫通用テープを用いる場合（右参考図参照）

例2）耐火二層管を認定条件に従って施工する場合
（立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から1mまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質塩化ビニル管とした場合など）

図2 機器の吊り施工例

吊り長さが700mm以上、かつ重量10kg以上の設備機器については四隅を鉛直吊りボルトで支持し、隣り合う2本毎にX状斜材を締め具で堅固に取り付けて、天井との相関変位を抑制すること
対象 吊り長さL ≥ 700 mm
機器重量W ≤ 10 kg
※ ただし、
・天井吊形のファンコイル
・天井吊形又はカセット形の空調調和室内機
・天井隠ぺい形全熱交換ユニット
の設置は、上記にかかわらず全て吊り用ボルトで行い、振れ止めを施したものとす

図3 配管埋設参考

埋設深さH
1 300以上
2 600以上
3 以上
※ 図4 井筒
VC-1~VC-5
VC-P
注（イ）本表のB及びH寸法は、5K仕切弁を対象とする。
（ロ）コンクリート部には、必要に応じ鉄筋を入れる。
（ハ）樹底部では、必要ある場合は、水接管を設ける。

図5 異種金属接続部

異種金属接続部は、屋外埋設配管を除き電食防止のため、異種金属接続用絶縁継手を使用すること。使用箇所を下記に示す。

1. 砲金製バルブと塩ビライニング鋼管接続部（コア入りバルブは除く。）
2. 衛生器具（水栓類、便器、洗面器等）接続管と塩ビライニング鋼管接続部
3. マイクロエアバンド及びエアセパレーターと塩ビライニング鋼管接続部
4. 水道メーター（砲金）、伸縮管（砲金）、伸縮メーターユニオン（砲金）と塩ビライニング鋼管接続部
5. 水抜きテスト弁と塩ビライニング鋼管接続部
6. 上記以外の異種金属接続部

表1 厨房排気ダクトの板厚
厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚については、以下による
〔単位：mm〕
ダクトの長辺 板厚
重鉛鉄板 ステンレス鋼板
450以下 0.6以上 0.5以上
450を超え1,200以下 0.8以上 0.6以上
1,200を超え1,800以下 1.0以上 0.8以上
1,800を超えるもの 1.2以上
※ 原則、アングルフランジ工法にてシールを施すこと

参考図
参考図1 水槽埋設
参考図2 ドロップ側参考図
（※副管サイズは主管サイズより1サイズ下でも可。）
参考図3 小口径樹取付要領図
（1）重荷重
（2）軽荷重

令和 年 月 日

工事名称 古賀西小学校屋上防水等改修工事

特記仕様書（2）

工事場所 福岡県古賀市天神7丁目4番1号

設計者 一級建築士 第323073号 神崎信二

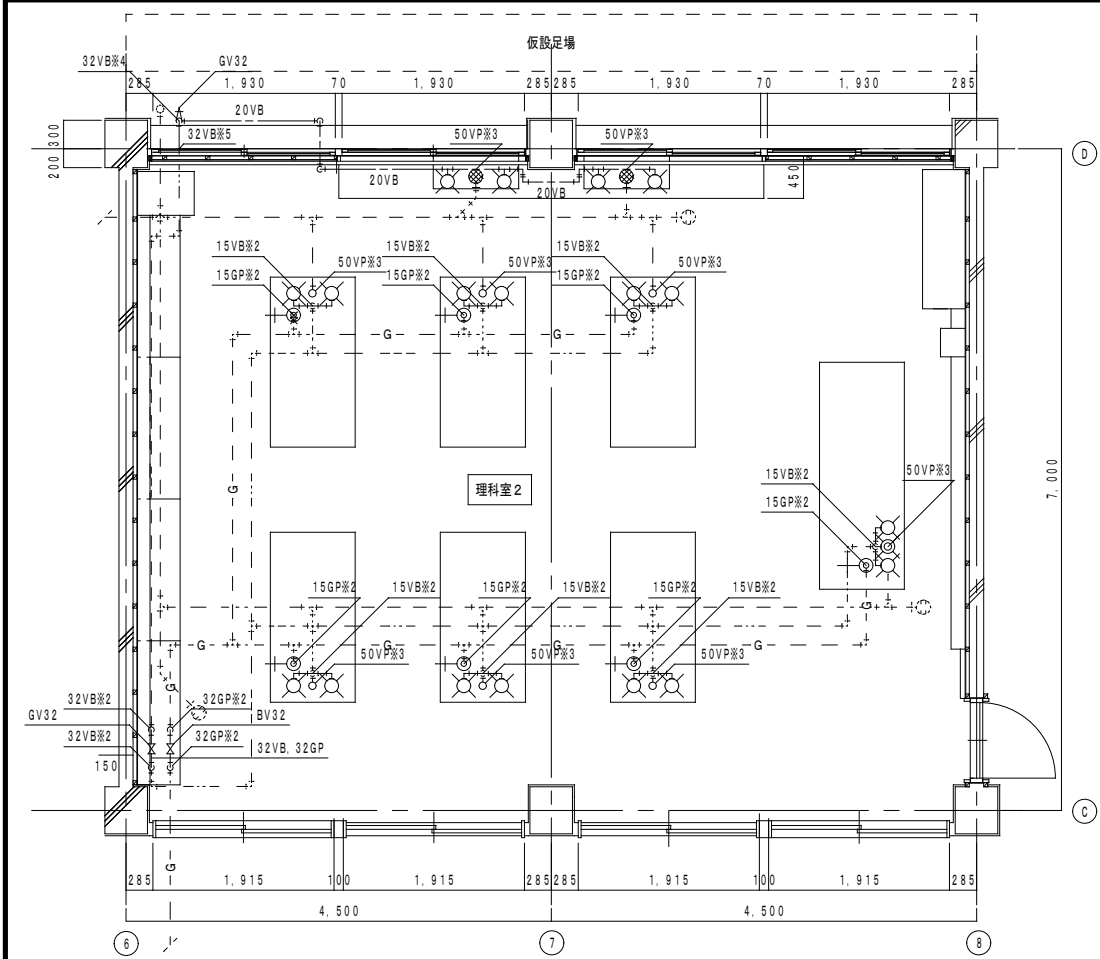
事務所名 株式会社 海渡設計

及び所在地 福岡県福岡市東区鳥島二丁目2番8号

塗りつぶした所を適用する

施工区分表（営繕工事）															
工 事 内 容				建築	外構	植栽	電気	電話	昇降	給衛	空調	ガス	別途	備 考	
機 器 の 基 礎	電 気 関 係	配電盤・制御盤の基礎 （アンカーボルト除く）	屋 内	○											
			屋 外	○											
			屋 上	○											
		自家発電機の基礎（アンカーボルト除く）			○										
		テレビアンテナの基礎（アンカーボルト除く）			○										
	避雷針の基礎（アンカーボルト除く）			○											
	機 械 関 係	屋内設置（アンカーボルト除く）			○										
		屋外設置（架台・アンカーボルト含む）			○										
屋上設置（架台・アンカーボルト除く）			○												
特記した基礎															
開 口 部 （設備工事で 必要な開口部）	梁・床・壁 貫通スリーブ	補強を要するもの					○	○	○	○	○	○			
		補強を要しないもの					○	○	○	○	○	○			
	梁・床・壁 貫通部型枠	補強を要するもの		○											
		補強を要しないもの		○											
	軽量鉄骨下地 壁・天井板 ¹⁾ 類の切込み	補強を要するもの		○											
		補強を要しないもの		○											
	埋込型分電盤 端子盤等の型枠	補強を要するもの		○											
		補強を要しないもの		○											
	上記開口部の補強				○										
	上記開口部の墨出し							○	○	○	○	○	○		
	スリーブの穴埋め（型枠の穴埋めを含む）							○	○	○	○	○	○		
	OAフロア器具取付用				○										
点 検 口	床・壁・天井			○											
ガ ラ リ	外壁面（ダクト・チャンバーの接続用含む）			○											
	建具取付			○											
	空調用リターン											○			
排 気 フ ード	厨房									○	○	○			
	上記以外			○						○	○	○			
換気扇の取付枠及びアルミパネル				●											
換 気 扇	壁換気扇（ウェザーカバー含む）											●			
	天井換気扇（ベントキャップ含む）											○			
流 し 台	排水トラップを含む			○											
防 油 堤	オイルサーピスタンの防油堤			自家発電用	○										
				空 調 用	○										
床下水槽のマンホール蓋				○											
屋 外 排 水 管	雨水			○											
	汚水・雑排水管									○					
雨水堅樋				○											
身障者用便所手すり				○											
はめ込み形洗面器用カウンター（前板共）				○											
ガスボンベ転倒防止用の鎖													○		
機 器 の 配 管 配 線	機械設備機器所属の制御盤以降の配管配線（接地共）										○				
	機械設備機器所属の制御盤の電源供給及び配管配線							○							
	機械設備自動制御部と電気設備制御盤との電源供給							○							
	機械設備自動制御部と電気設備制御盤との操作回路の渡り配管配線										○				
	天井吊り型FCU・個別パッケージ・全熱交換器と操作スイッチとの渡り配管							○							
	天井吊り型FCU・個別パッケージ・全熱交換器と操作スイッチとの渡り配線											○			
	天井吊り型FCU・個別パッケージ・全熱交換器の操作スイッチ											○			
	天井吊り型FCU・個別パッケージ・全熱交換器の操作スイッチ埋込ボックス							○							
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る配管配線							○							
	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線										○				
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部への電源供給							○							
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部						○								
	自動ドア及び電動シャッターなどの操作スイッチ側の配管配線及び操作スイッチ							○							
	防火扉リリース							○							
	電極棒							○							
	配線ピット及び蓋						○								
パ ッケージエアコン の 配 管 配 線	別途機器などへの接続							○			○	○			
	室外機・室内機間の伝送線												○		
	室外機・室内機間の電源渡り線												●		
	室内機・リモコン間の配線												●		
	室内機・リモコン間の配管							○					●		
	リモコン埋込ボックス							○					●		
	室内機・集中リモコン間の渡り伝送線												○		
ガス漏れ検知器（遮断弁連動）													○		
OAフロア用配線器具							○								
電 気 錠	電気錠及び通電器具			○											
	T E Nキー及び制御盤						○								
エレベーター出入口三方枠（金属製）									○						
シャワーユニット（バスユニット）				○											
ガス給湯器リモコン用ケーブル										○			○		
ガス給湯器電線管及びボックス							○								

工 事 名 称			古賀西小学校屋上防水等改修工事			施 工 区 分 表		
工 事 場 所			福岡県古賀市天神7丁目4番1号			図 番	M	／ 03号
設 計 者	設 計 者 名	一級建築士 第323073号 神崎信二						
	事 務 所 名 及 び 所 在 地	株式会社 海渡設計 福岡県福岡市東区名島二丁目2番8号						

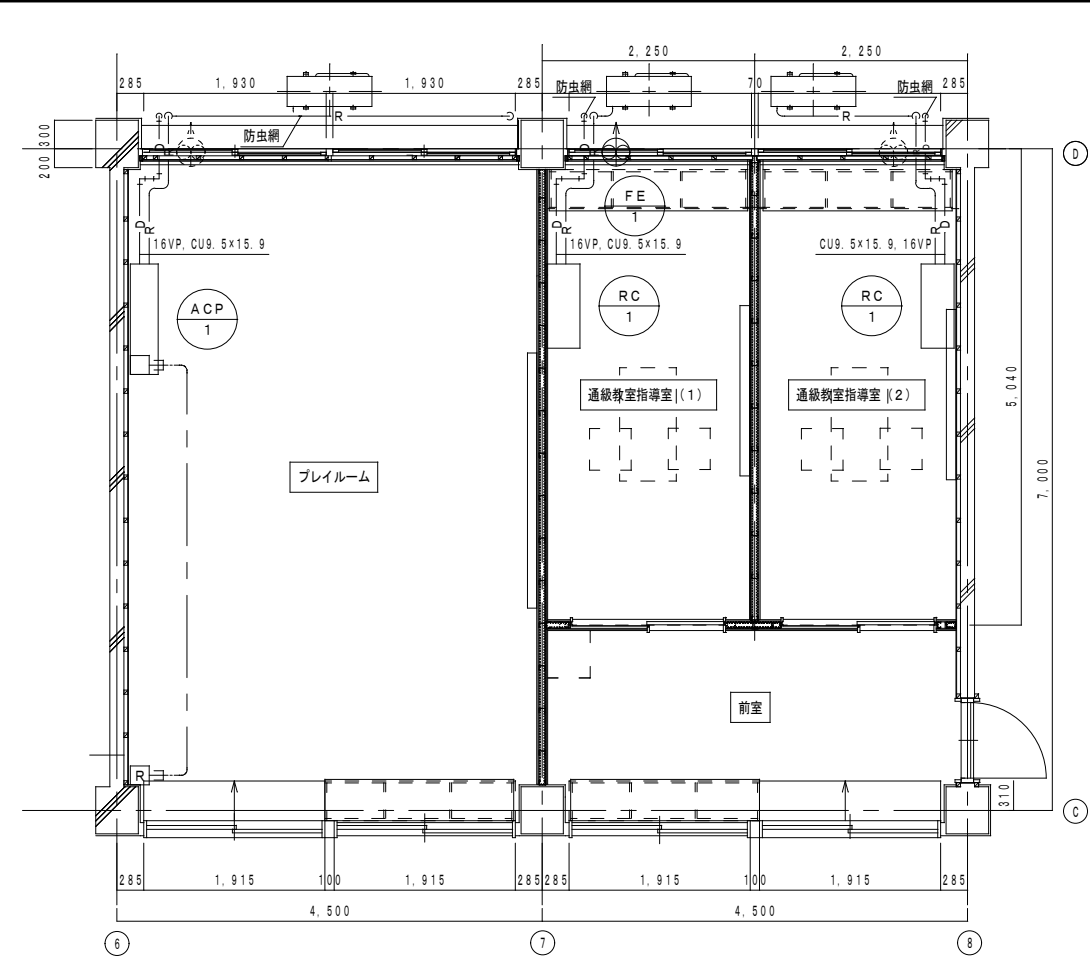


改修前 平面詳細図

- 注1) 太実線の器具及び配管を撤去すること。
注2) ※2は2FLOORにて既設配管切断後、プラグ止とすること。
注3) ※3は2FLOORにて既設配管切断後、キャップ止とすること。
注4) ※4はGL-0にて既設配管切断後、プラグ止とすること。
注5) ※5は外壁面にて既設配管切断後、プラグ止とすること。
注6) 外壁開口箇所はモルタル穴埋め補修を行うこと。
注7) 仮設足場は本工事とする。

凡例 (改修前)

記 号	名 称	仕 様
---	給水管	水道用硬質塩化ビニルライニング管 (VB)
---	雑排水管	排水用硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)
G	ガス管	配管用炭素鋼鋼管 (白) (GP)
○	単水栓	
○	仕切弁	
○	目皿	
+	ガス栓 (単口)	
○	ボール弁	



改修後 平面詳細図

- 注1) 太実線の機器及び配管を設置すること。
注2) 既設アルミパネルの開口は本工事とする。

機器表 (改修後)

記 号	名 称	仕 様	電 気 仕 様			設 置 場 所	台 数	備 考
			φ	V	kW			
ACP 1	空冷ヒートポンプ式	壁掛形 JRA耐塩害仕様	1	200	2.30	プレイルーム	1	
	パッケージエアコン	冷房能力 7.1kW 暖房能力 8.0kW	1	200	2.22			
		屋外機用コンクリートブロック基礎、防振ゴムパット、ロングライフフィルター						
		屋外機保護ガード、転倒防止金物 (SUS)、ワイヤードリモコン						
RC 1	ルームエアコン	壁掛形 JRA耐塩害仕様	1	200	0.82	通級指導室 (1)	1	
		冷房能力 3.6kW 暖房能力 4.0kW	1	200	0.91			
		屋外機用コンクリートブロック基礎、防振ゴムパット、ロングライフフィルター						
		屋外機保護ガード、転倒防止金物 (SUS)、ワイヤーレスリモコン、リモコンホルダー、鎖						
FE 1	換気扇	窓枠据付格子タイプ 電気シャッター・遠調付・電源コード (プラグ付)	1	100	0.02	通級指導室 (1)	1	コントロールスイッチは 電気工事へ支給すること
		20cm x 120cm3/h						
		ステンレス製ウエザーカー (防虫網付)、コントロールスイッチ、化粧板アタッチメント						
		1. 電気容量は参考容量とする。						
		2. パッケージエアコンの能力表示は、JIS条件値とする。表記は定格値とする。						
		3. 空調機器は、インバータ制御・高効率機器とする。						
		4. 2015年度省エネ基準適合品とする。						

凡例 (改修後)

記 号	名 称	仕 様
R	冷媒用断熱材被覆銅管	冷媒用断熱材被覆銅管 (CU) ※露出配管は化粧カバーを施すこと (屋内外共)
D	ドレン管	排水用硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ※屋内配管は保温を施すこと
---	渡り配線	EM-CEES2.0° -2C
---	リモコン配線	EM-CEES1.25° -2C
≡	立下り配管	1種金属製線び (MMA)
R	リモコン	



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

管理棟 平面詳細図 機器表 凡例
(改修前・改修後)

A3 用紙

1/40

No

M-04

A1 用紙

1/80

日付

2024年12月

古賀西小学校屋上防水等改修工事設計

Ⅰ 工事概要

1. 工事場所

福岡県古賀市天神7-4-1

2. 建物概要

建物名称	構 造	階 数	延面積 (㎡)	消防法施行令	備 考
学校	RC造	2	建築基準法	別表第一	改修

3. 工事種目及び工料科目

工 事 科 目	校舎					
○電灯コンセント設備	改修	一式	一式	一式	一式	一式
幹線動力設備		一式	一式	一式	一式	一式
電熱設備		一式	一式	一式	一式	一式
雷保護設備		一式	一式	一式	一式	一式
受変電設備		一式	一式	一式	一式	一式
静止形電源設備		一式	一式	一式	一式	一式
発電設備		一式	一式	一式	一式	一式
○構内情報通信網設備	新築	一式	一式	一式	一式	一式
構内交換設備		一式	一式	一式	一式	一式
○電気時計設備	改修	一式	一式	一式	一式	一式
○インターホン設備	改修	一式	一式	一式	一式	一式
○拡声設備	改修	一式	一式	一式	一式	一式
ナースコール設備		一式	一式	一式	一式	一式
テレビ共同受信設備		一式	一式	一式	一式	一式
テレビ電波障害防除設備		一式	一式	一式	一式	一式
監視カメラ設備		一式	一式	一式	一式	一式
駐車場管制設備		一式	一式	一式	一式	一式
防火・入退室管理設備		一式	一式	一式	一式	一式
○自動火災報知設備	改修	一式	一式	一式	一式	一式
トイレス呼出表示設備		一式	一式	一式	一式	一式
構内配電幹路		一式	一式	一式	一式	一式
構内通信幹路		一式	一式	一式	一式	一式
電気錠設備		一式	一式	一式	一式	一式
撤去工事		一式	一式	一式	一式	一式

4. 指定部分

無 (対象部分：)

Ⅱ 工事仕様

1 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁標準の下記仕様書等のうち、○印がついたものによる。

- 公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事情) (令和4年版) (以下「標準仕様書」という。)
- 公共建築改修工事標準仕様書 (電気設備工事情) (令和4年版) (以下「改修標準仕様書」という。)
- 公共建築工事標準図 (電気設備工事情) (令和4年版) (以下「標準図」という。)

(2) 機械設備工事及び建築工事を含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、機械設備工事の工事仕様は(/)図、建築工事の工事仕様は(/)図による。

2 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。

(2) 特記事項のうち選択する事項は、・に○印の付いたものを適用する。

項 目	特 記 事 項																									
1 発生材の処理等について	<div><div>・ 本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号)の対象建設工事であり、分別解体、特定建設資材の再資源化等について適切な処置を行う。ただし、工事实績後にやむを得ない事情により予定した条件により難しい場合は監督職員と協議する。分別解体・再資源化等の完了時に、以下の事項を書面に監督職員に報告する。<ul style="list-style-type: none">1 再資源化等が完了した年月日2 再資源化等をした施設の名称及び所在地3 再資源化等にした費用</div><div>(1) 分別解体の方法</div><table><tr><th>工 程 作 業 内 容</th><th>分 別 解 体 の 方 法</th></tr><tr><td>・ 新築</td><td>・ 手作業</td></tr><tr><td>・ 増築</td><td>・ 有</td></tr><tr><td>・ 修繕</td><td>・ 無</td></tr><tr><td>・ 模様替</td><td></td></tr></table><div>(2) 特定建設資材廃棄物の種類と再生資源化等をする施設</div><table><tr><th>特定建設資材廃棄物の種類</th><th>再生資源化等をする施設の名称</th><th>所 在 地</th></tr><tr><td>・ コンクリート</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ コンクリート及び鉄からなる建設資材</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 木 材</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ アスファルト・コンクリート</td><td></td><td></td></tr></table><div>○ 特定建設資材廃棄物以外の発生材の処理等</div><div><div>・ 引渡しを受けるもの (・ 金属類)</div><div>・ 特別管理産業廃棄物 (・ PCB使用機器)</div><div>・ PCB使用機器の有無については、調査を行い結果を監督員に報告する。PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。</div><div>・ 再生資源化を図るもの (・ ランプ類)</div><div>・ 引渡しを要するもの及び再生資源化を図るもの又は、構外搬出適切処理とし搬出処理費は別途とする</div></div><div>・ 発生材一時保管、集積場所 ・ 構内に有り ・ 構内になし</div><div>1) 本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承認を受ける。</div><div>2) 化学物質を放散させる建築材料等</div><div>本工事の建物内部に使用する建築材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の(1)から(5)を満たすものとする。<div>(1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリノ樹脂板、仕上げ塗材及び紙張は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</div><div>(2) 保温材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</div><div>(3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難燃発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、アトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</div><div>(4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</div></div></div>	工 程 作 業 内 容	分 別 解 体 の 方 法	・ 新築	・ 手作業	・ 増築	・ 有	・ 修繕	・ 無	・ 模様替		特定建設資材廃棄物の種類	再生資源化等をする施設の名称	所 在 地	・ コンクリート			・ コンクリート及び鉄からなる建設資材			・ 木 材			・ アスファルト・コンクリート		
工 程 作 業 内 容	分 別 解 体 の 方 法																									
・ 新築	・ 手作業																									
・ 増築	・ 有																									
・ 修繕	・ 無																									
・ 模様替																										
特定建設資材廃棄物の種類	再生資源化等をする施設の名称	所 在 地																								
・ コンクリート																										
・ コンクリート及び鉄からなる建設資材																										
・ 木 材																										
・ アスファルト・コンクリート																										

(5) 上記(1)・(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、架設台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。なお、ホルムアルデヒドを放散させないものとは放散量が規制対象外のものも、ホルムアルデヒドの放散が極めて少ないものとは放散量が第三種のものをい、原則として規制対象外のものを使用する。ただし、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用する。「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。

ホルムアルデヒドの放散量	該当する建築材料
規 制 対 象 外	1 JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 2 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 3 下記表示のあるJIS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤不使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
第 三 種	1 JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 2 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 3 IBJISのE 規格品 4 IBJASのF 規格品

室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、監督職員に報告すること。
測定はバッチ型採取機器により行う。
測定時期 ・ 工事着工前 ・ 施工終了時
測定対象室 ・ 図示
測定箇所 ・ 図示

設備機材は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承認を受ける。
なお、標準仕様書に規定される製作図、試験成績表を含む。
最大電力500kw以上の場合においても、第1種電気工事士により施工を行う。
本工事に必要な工事用電力、水、及び官公署その他への諸手続などの費用は、すべて請負業者の負担とする。
構内につくことが ・ できる ・ できない
・ 設けない ・ 設ける
○ 関係請負者が定置したものは無償で使用できる。
・ 本工事で設置する。(改修標準仕様書第1編2.1.2によるほか下記による。)
・ 内部足場等 (・ 種 ・ 種)
・ 外部足場等 (・ 種 ・ 種)
下記によるほか、改修標準仕様書による。
事前調査 ○ 本工事 ・ 別途工事)
調査項目 (・ 図示)
調査範囲 (・ 図示 ・ 説明)
調査方法 (・ 図示 ・ 説明)
仮設設備項目 (・ 受変電 ・ 発電)
仮設期間 (・ 図示)
養生範囲 (・ 養生方法)
壁付け器具、床置き機器、天井付け機器の撤去後の取付ボルト孔、壁面、天井面の変色等は補修を行う。
工事が完成(指定部分に係わる完成を除く)したときは、本工事で作成する施工図等のうち、下記の原因及び撤写図(1部)を監督職員に提出する。ただし、製作図等と原因として提出が出来ないものは、原因に代わるものとしてよい。
なお、施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲する。

施工図等 機器製作図 制御システム図 試験成績表 機器、配管固定の施工図 耐震固定の計算書

電子データ ・ 提出要 ・ 提出不要 ・ 既設施工図の修正
施工図等を電子データにより作成する場合は、下記によるほか監督職員の指示による。

提出様式	提出図	提出データ	部数
電子データ	C D-R 制御システム図 機器、配管固定の施工図	C A D	2部

・ 構内指示の場所に数ならし ・ 構内指示の場所にたい横 ・ 構外搬出(約 k m)
・ 再利用を図る

分類	受け入れ施設名	受け入れ場所	搬出距離
建設発生土			

上記に示す受け入れ場所・距離は参考であり、実施にあたっては監督職員と協議のうえ決定する。

15 建設発生土の処理

別紙 竣工提出書類等仕様一覧による。

16 完成図等

工事実績情報として(カルテ)を作成し、監督員に提出。承認を受けた後に(財)日本建設情報センターにフロッピーディスクにより登録するとともに登録結果を監督員に提出すること。

17 工事カルテの作成及び登録

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2005年版」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)による。
1) 設計用水平地震力
機器の重量[kgf]に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。なお、特記なき場合、設計用標準水平震度は、次による。
設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	・ 特定の施設	○ 一般の施設
		重要機器	一般機器
上層階	機器	2.0	1.5
	防振支持の機器	2.0	2.0
屋上及び塔屋	水槽類	2.0	1.5
	機器	1.5	1.0
	防振支持の機器	1.5	1.5
	水槽類	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0
	防振支持の機器	1.0	1.0
	水槽類	1.0	0.6
地下・1階	機器	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.0	1.0
	水槽類	1.5	1.0

重要機器 ・ 配電盤 ・ 発電装置 (防災用) ・ 直流電源装置 ・ 交流無停電電源装置
・ 交換機 ・ 自動火災報知受信機 ・ 中央監視装置
上層階の定義は次による。
2～6階建の場合は上層階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階
2) 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。
3) 軽量機器等の耐震施工
100kg以下の一般機器、一般水槽の据付け、取付けについては、取付け下地を入念に施工し、機器メーカーの指定する方法で確実に取付け、据付けを行えばよいものとし、特に本基準で示した方法によらずともよい。
4) 地中配線によって建物へ引込む場合の処理
建物への配線引込部の耐震処理は、地中箱独立方式とする。
想定沈下量 (・ 小規模 ・ 中規模 ・ 大規模)
・ 既存のコンクリート床、壁などの貫通部の穴開けは、図面に特記なき場合、原則としてダイヤモンドカッターによる。
・ 非破壊検査等による埋設物の調査 (・ 要 ・ 不要)とする。
なお、範囲は監督職員の指示によるものとし、費用は別途とする。
分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は、図面と相違しても差しつかえない。ただし、相違する場合は監督職員の承認を受ける。
変図の形状寸法等は、図面表示と多少相違してもよい。
調査ポイント2回遡り (・ 屋内 ・ 屋外 (外面被覆調査を除く))
屋外の支持金物、ボルト及びナットなどは、溶融亜鉛めっき仕上げ又はステンレス製とする。
屋外に使用するプルボックスは、図面に特記なき場合は、ステンレス製とする。
長さ1m以上の入線しない電線管には1.2mm以上のビニル被覆鉄線を挿入する。
フラッシュプレートは、図面に特記なき場合は (・ 金属製 (ステンレス、新金属も含む) ・ 樹脂製)とする。
・ 鉛金製
・ 水平高低調節付 (空転防止リフト付)
スイッチ・コンセント・ブランクプレート及びプルボックスなどで用途の判別し難いものは、表示する。
ハンドホール・マンホールのふたは、用途別に「電力」「通信」と表示する。

18 耐震施工

別紙 竣工提出書類等仕様一覧による。

19 地盤変位への対応

20 は

21 非破壊調査等

22 電線本数、管路等

23 形状・寸法等

24 高出金属配管の塗装

25 及びプルボックス

26 呼び線

27 フラッシュプレート

28 フロアプレート・ベース

29 表 示

30 再 使 用 機 器

31 電路の保護

32 蛍光灯安定器、ランプ

33 照明器具の接地

34 二重床用アウトレット

35 ハイテンション

36 コンセント

37 接地棒付きコンセント

38 インバーター装置の規約効率

39 予 備 配 管

40 壁 類 の 塗 装

41 電線管への配線

42 ローテーション

43 身障者のための

44 外 灯 ポ ー ル

45 地中埋設機

46 構造シート

47 基 本 料 金

48 接地極

49 電 線 類

取外し再使用機器は、性能確認のため絶縁抵抗測定を行う。
特記のない引き下げ部分及び露出部分の配線はMM1(A型)にて保護する。貫通部分の配線は、金属管などにて保護する。
図面に特記なき場合は、下表による。

蛍 光 灯 の 種 類				安定器の種類
直管形	H f 形	Hf16形		P X
		Hf32形		P K
コンパクト形	H f 形	P32形, P45形, H16形, H24形, H32形, H42形		P N
	一般形	D18形, D27形		E L
		高精度誘導灯		E L

コードペンダント以外の放電器具及び水気のある場所の白熱灯器具は、接地する。なお、金属管配線の場合は、配管を利用してよい。(乾燥した場所のコンパクト形器具(27W以下)を除く)
・ 電力用 ・ 通信用 ・ 電力、通信用
・ 上下動形 ・ 内部固定形 ・ 外部固定形
発電機回路に接続されるコンセントは、原則として赤色とする。
接地棒付きコンセントは、プラグ無しとする。
三相可変速運転用インバーター装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電機出力 (kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45
パワ効率 (%)	85.0	87.0	88.5	89.5	90.0	90.5	91.0	91.5	92.0	92.5	93.0	93.5	94.0	94.5

備考) (1) 電動機の供給電圧は200V又は400Vとする。
(2) インバーター効率は、100%負荷時の値とする。
埋込形分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器4個以下の場合(PF22)を1本、5個以上の場合(PF22)を2本、天井まで立上げ、アウトレットボックスを設ける。なお、スラブ天井の場合は、天井又は梁下200mmまで立上げ、アウトレットボックスを取付ける。
二重天井の場合は、天井内まで立上げ、アウトレットボックスを取付ける。
分電盤キャビネットの塗装は、標準色仕上げとする。
・ 電話機1台につき次のものを見込む ・ 図示による
・ EM-TIEE 0.65-2C (・ 20m ・ m)
・ EM-BTIEE 0.4-2P (・ 20m ・ m)
・ 2号ワイヤープロテクタ 1.5m
一般用 個
合成樹脂製とし、寸法 5×150×150で白地に青とする。
外灯ポールは、亜鉛付着量350g/m²(JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」に規定するHDZ35)以上の溶融亜鉛めっきを施したものとする。
エッジングプライマー、指定色仕上。
電力用 ・ 鉄製 個ふ設する。 ・ コンクリート製 個ふ設する。
通信用 ・ 鉄製 個ふ設する。 ・ コンクリート製 個ふ設する。
低圧地中幹線路及び通信地中幹線路にも設ける。
本受電後の基本料金を下記ののとおり負担する。
契約種別― 契約電力― 期 間―
接地極の材料は、下表による。
(Eは、D=14、W=40、L=1,500)

接 地 の 種 類				記 号	接 地 極
電 力	共 同	EA-B-C	EP-0.9	1枚以上	
	A 種 (第1種)	EA	EB	2枚以上	
	B 種 (第2種)	EB		6本以上	
	C 種 (第3種)	ED	EB	2本以上	
	D 種 (特別第3種)(10V以下)	EC		1本以上	
	構 内 交 換 機 用	Et	EP-0.9	1枚以上	
通 信 情 報	保 安 用 (10V以下)	EaT	EB	2枚以上	
	保 安 用 (100V以下)	EbT		6本以上	
	拡声用増幅器(100V以下)	EbA	EB	1本以上	
	電話引込口の保安器用(100V以下)	ELt	EB	1本以上	
	保 護 設 備	ELA	EP-0.6	2枚	
	高 圧 避 雷 器	ELE	EB	6本以上	
雷 保 護	低 圧 避 雷 器 (300V種)	ELLC	EB	6本以上	
	低 圧 避 雷 器 (300V以下)	ELLD	EB	1本以上	
	測 定 用	EO	EB	1本以上	

本工事においては、次の電線類(EMケーブル)の規格及び記号を追加する。

呼 称	記 号	規 格
UT Pケーブル	EM-UT P	JIS X 5150「構内情報配線システム」に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
塩化ビニル被覆マイクケーブル	(例) EM-4 E6	塩化ビニル被覆マイクケーブルに準拠し、耐燃性ポリエチレン樹脂を主体としたコンパウンドでシースを施したもの
耐火ケーブル	EM-F P EM-F P-C	消防庁告示第500V、660V耐火ケーブルに準拠し、耐燃性「HFL」樹脂を主体としたコンパウンドでシースを施したもの
耐熱ケーブル	EM-H P	消防庁告示第500V、660V耐熱ケーブルに準拠し、耐燃性「HFL」樹脂を主体としたコンパウンドでシースを施したもの

共通：1. 電線・ケーブルは、ハロゲン及び鉛を含まない材料により構成されているものとする。
2. 難燃は電線またはケーブルについて行い、JIS C 3005の2(難燃)による。
3. 発煙濃度及び発煙時発生ガスの酸性度は、JCS第397号Aの5(発煙濃度)、同号Aの7(燃焼時発生ガスの酸性度)による。
4. 上記2.3の特性は、電力用エコ電線類の規格を準用する。
ビニル電線等を使用する旨の記載があるものは、EMケーブルの規格を含むものとする。
EMケーブルの電線の色別は、原則として標準仕様書による。

3 他工事との取合い事項は、別表-1による。
別表-1 工事区分表(一般的な工事区分を示す)

工 事 内 容	建 築	電 気 設 備	機 械 設 備	
機 器 の 基 礎	配電盤・制御盤の基礎			
	自家発電機の基礎、太陽光パネルの基礎			
	テレビアンテナ基礎			
	避雷針の基礎			
機 械 関 係	床台・アンカーボルト			
	屋内設置			
	屋上設置(防水立上りき設ける部分)			
	屋上設置(上記以外)			
開 口 部	屋外設置			
	床台・アンカーボルト			
	梁、床、壁貫通スリーブ			
	梁、床、壁貫通部留め			
	軽量鉄骨下地、壁天井ボード間の切込			
	埋込形床頭及び、箱頭の留め			
	上記開口部の補強			
	上記開口部の差し			
	スリーブの穴埋め(空枠の穴埋めを含む)			
	フリーアクセスフロアの複合アウトレット用開口(工増加工)			
フリーアクセスフロアの予備開口(工増加工)及びプレート				
点 検 口	床、壁、天井			
外部取付ガリ	ダクト、チャンバーの接続用フランジを含む			
漏洩室のフード				
換気扇の取付枠				
流 し 台	排水トラップ共			
防 油 堤	オイルサービスタンクの防油堤	自家発電		
	タンク基礎	空 調 用		
床下水槽のマンホールふた				
屋 外 排 水 管	雨 水			
	汚水、雑排水			
雨 水 立 管	(たてどい)			
便所手すり				
はめ込形洗面器用カウンター(前板共)				
鏡				
ガスボンベ転倒防止用の鎖				
電 気 配 管 配 線	機器などへの1次側配管配線及び接続			
	機器などから操作スイッチ等への2次側配管及び埋込ボックス			
	機器などから操作スイッチ等への2次側配線及び接続			
	自動制御盤と動力盤との通り配管配線			
	個別パッケージの室内機、室外機の通り配線(接地機)			
	煙感知器から運動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線			
ガス漏れ検知器	小便器用節水装置の制御盤以降の2次側の配管配線			
	フリーアクセスフロアの複合アウトレット取付及び配線			
	防火扉レリーズ			
	電 極 棒			
電 気 錠	電気錠及び通電金具			
	T E Nキー及び制御盤			
	エレベーター出入口三方枠(金属製)			
	エレベーター出入口三方枠(石製)			
シャワーユニット、バスユニット、洗濯機パン				
システム天井	ボード・カバー			
	照明ライン設備プレート			
	空調ライン設備プレート			
提出書類等	監督職員の指示により、提出すること。			

2 機 材 等

1 発生材の処理等について

2 機 材 等

神崎信二

一級建築士 第323073号

福岡県知事登録第1-30027号

株式会社 海 渡 設 計

古賀西小学校屋上防水等改修工事

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

特記仕様書

A3 縮尺

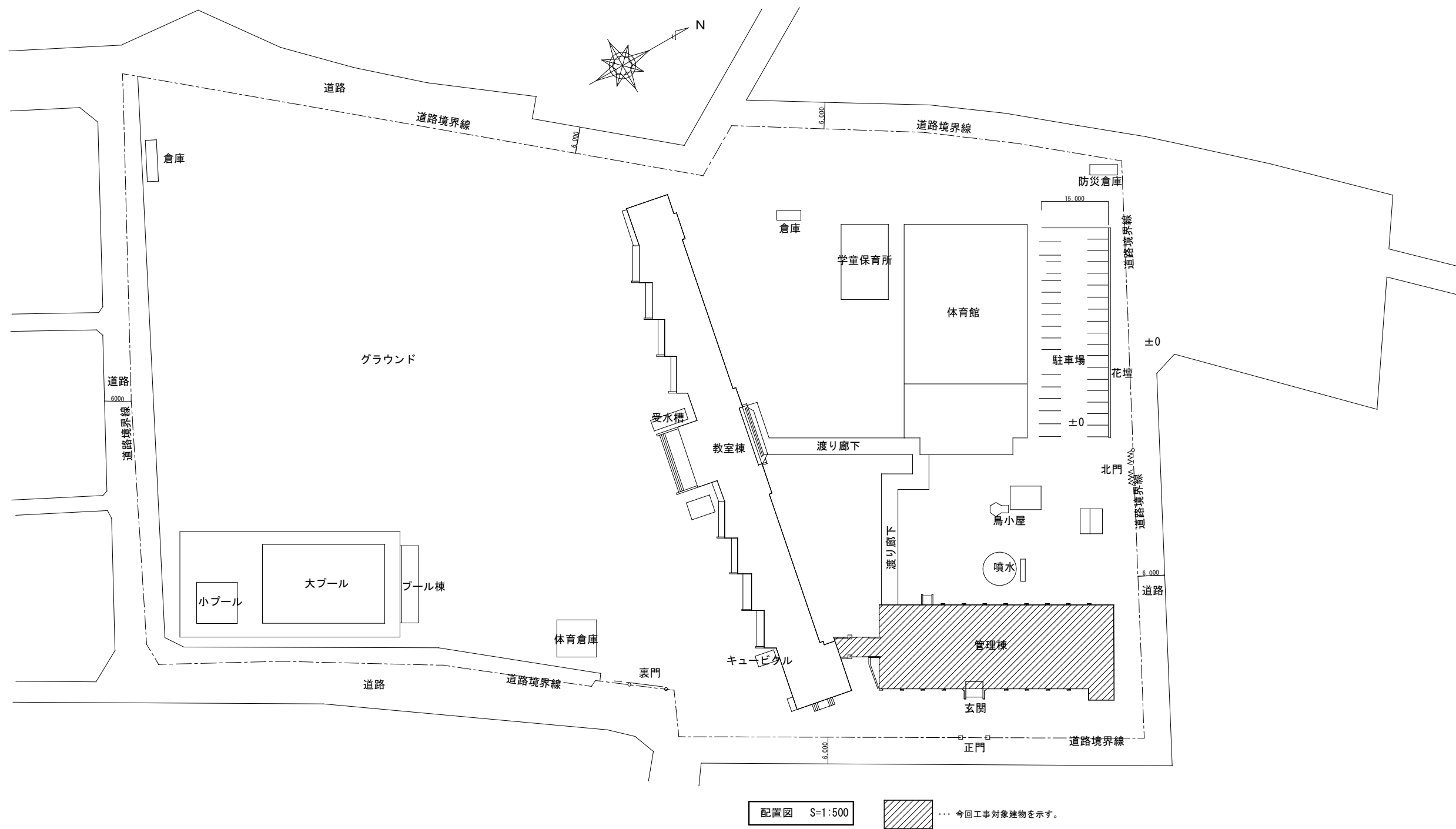
No

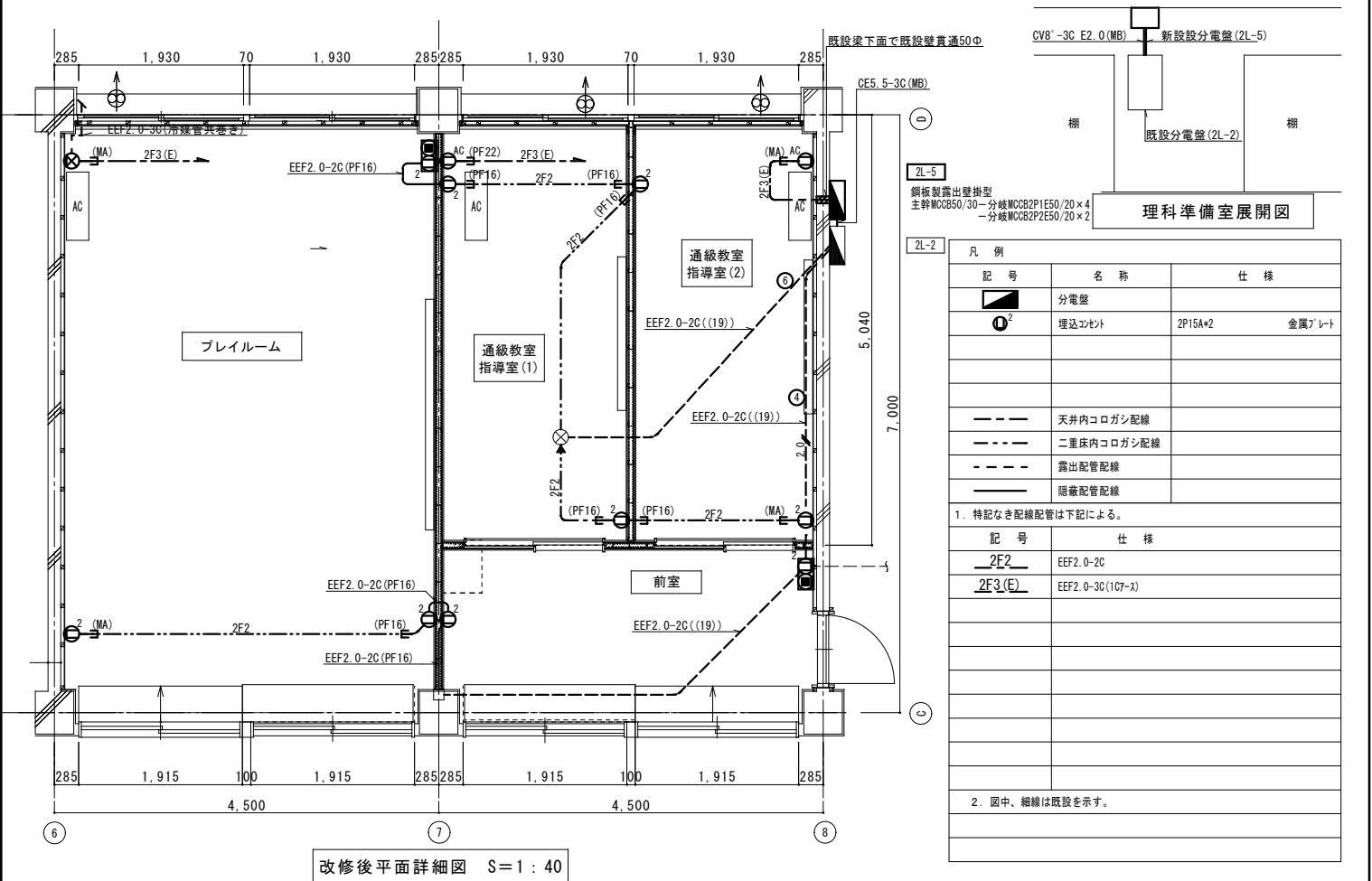
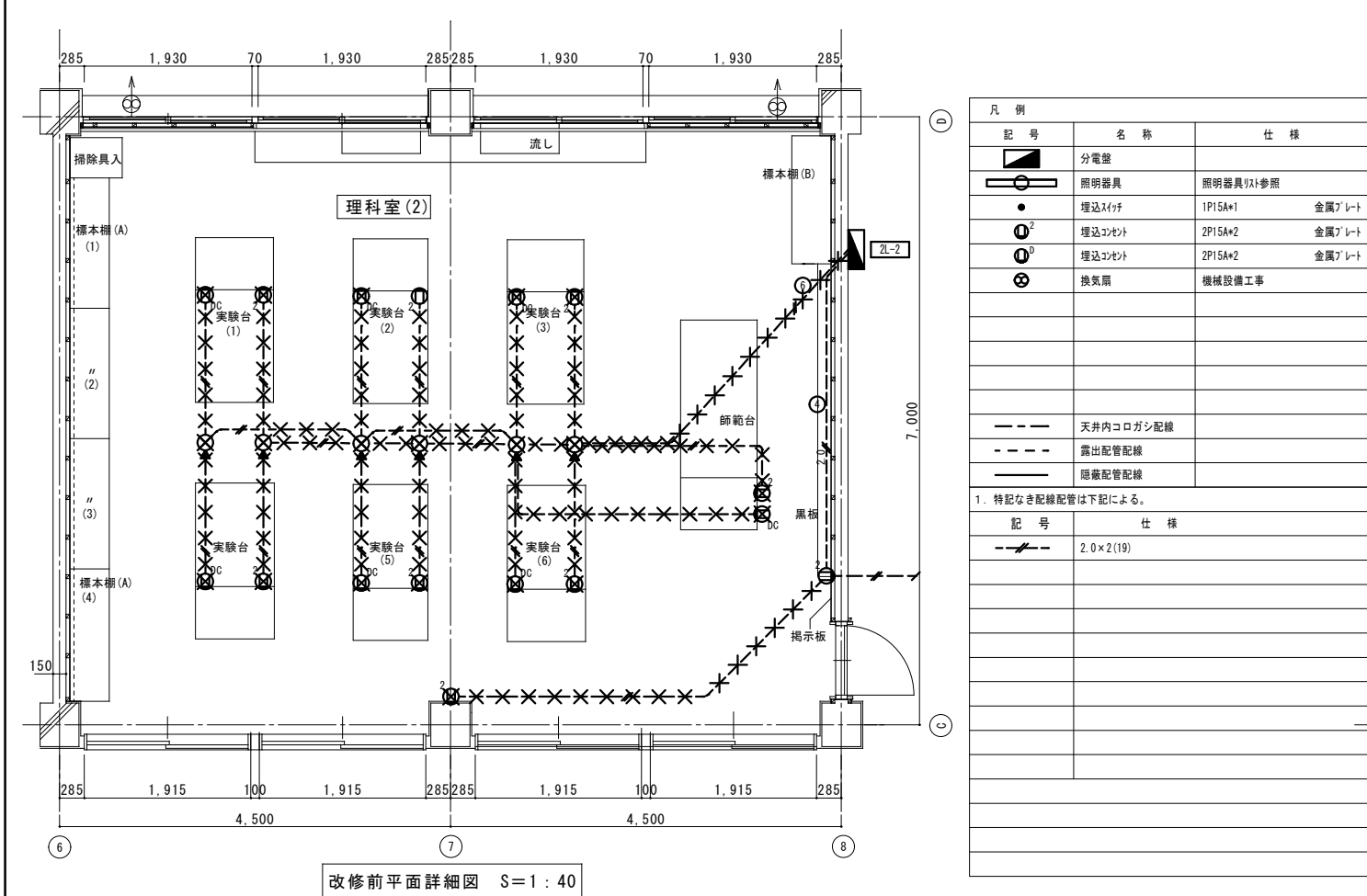
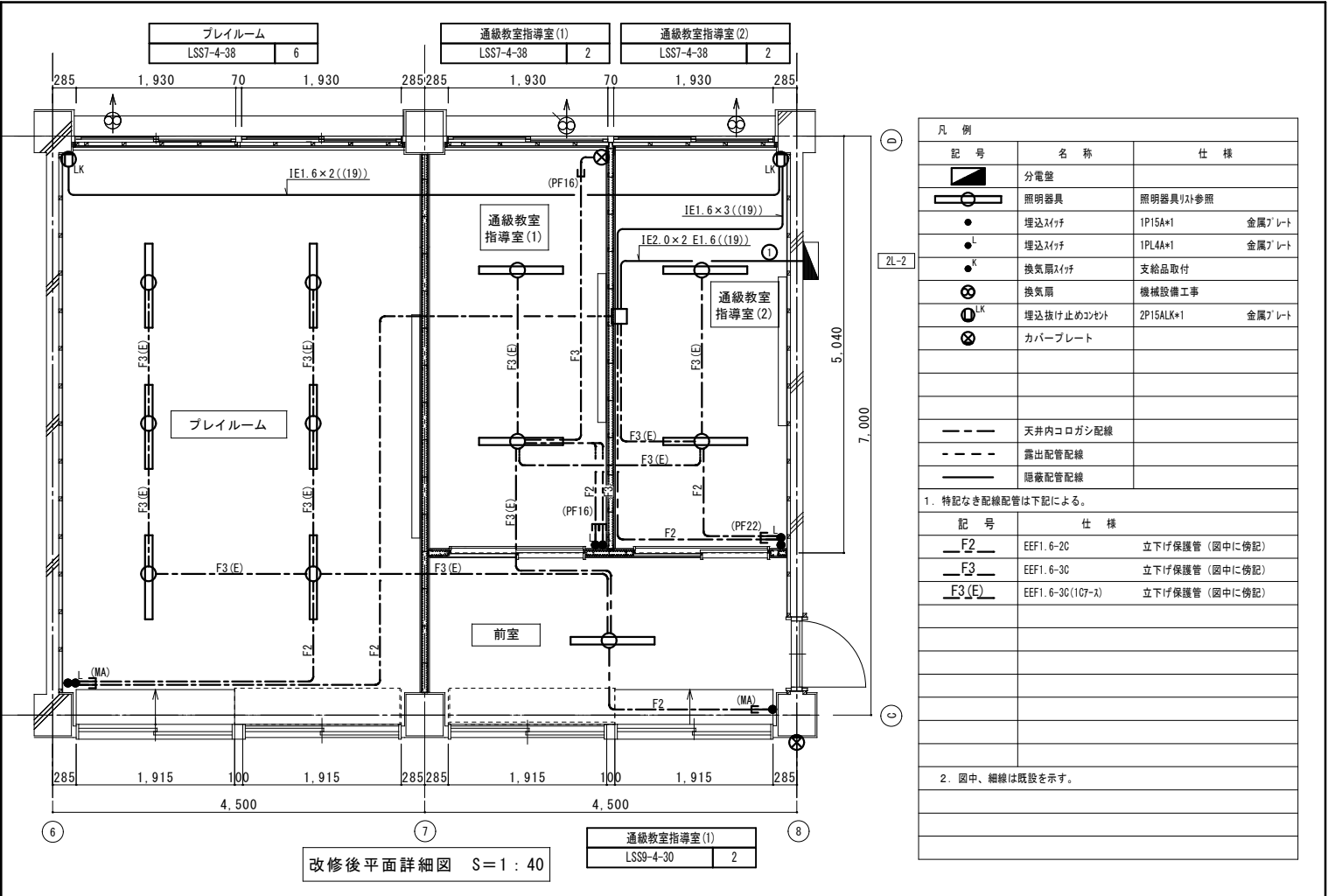
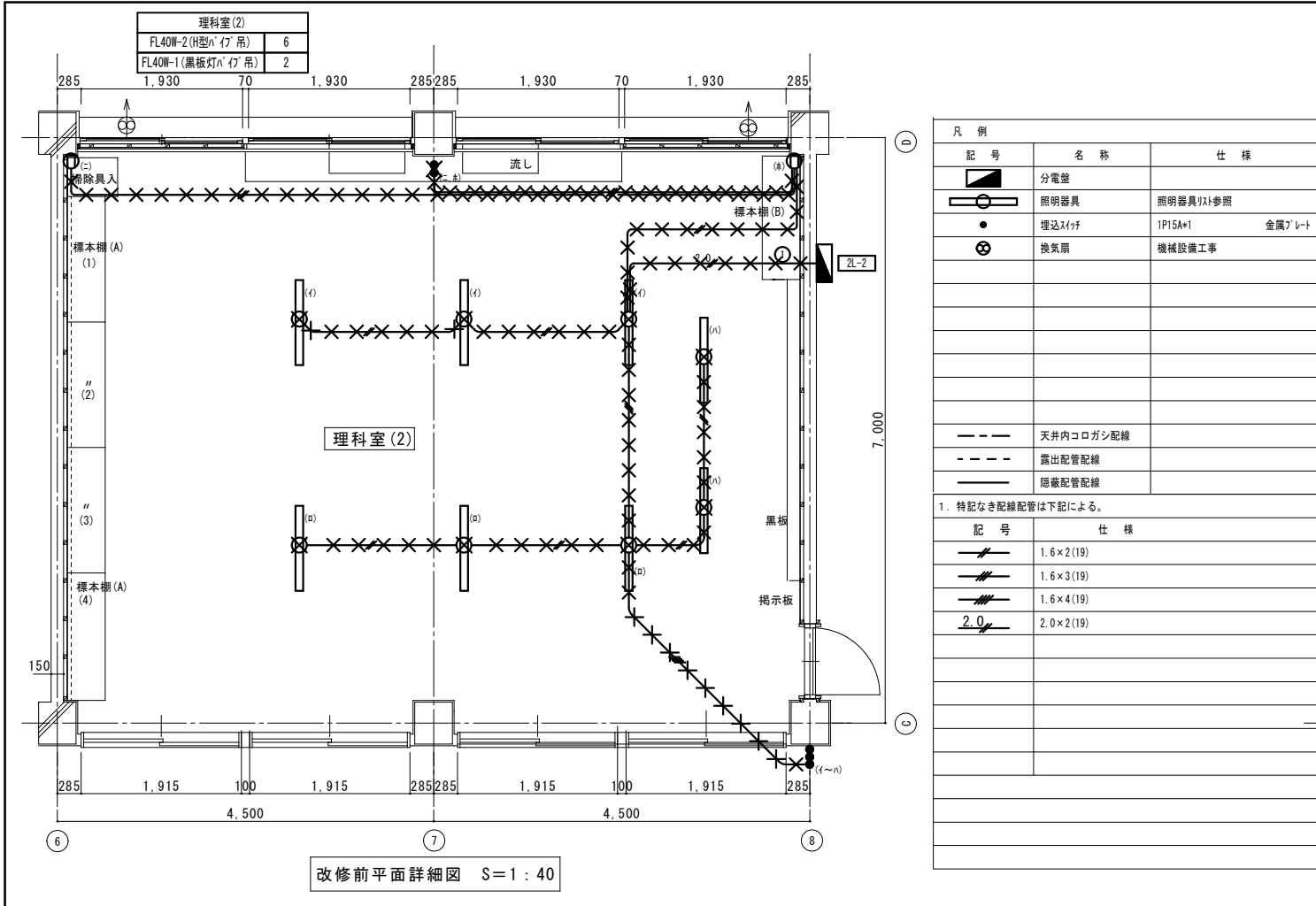
A1 縮尺

日付

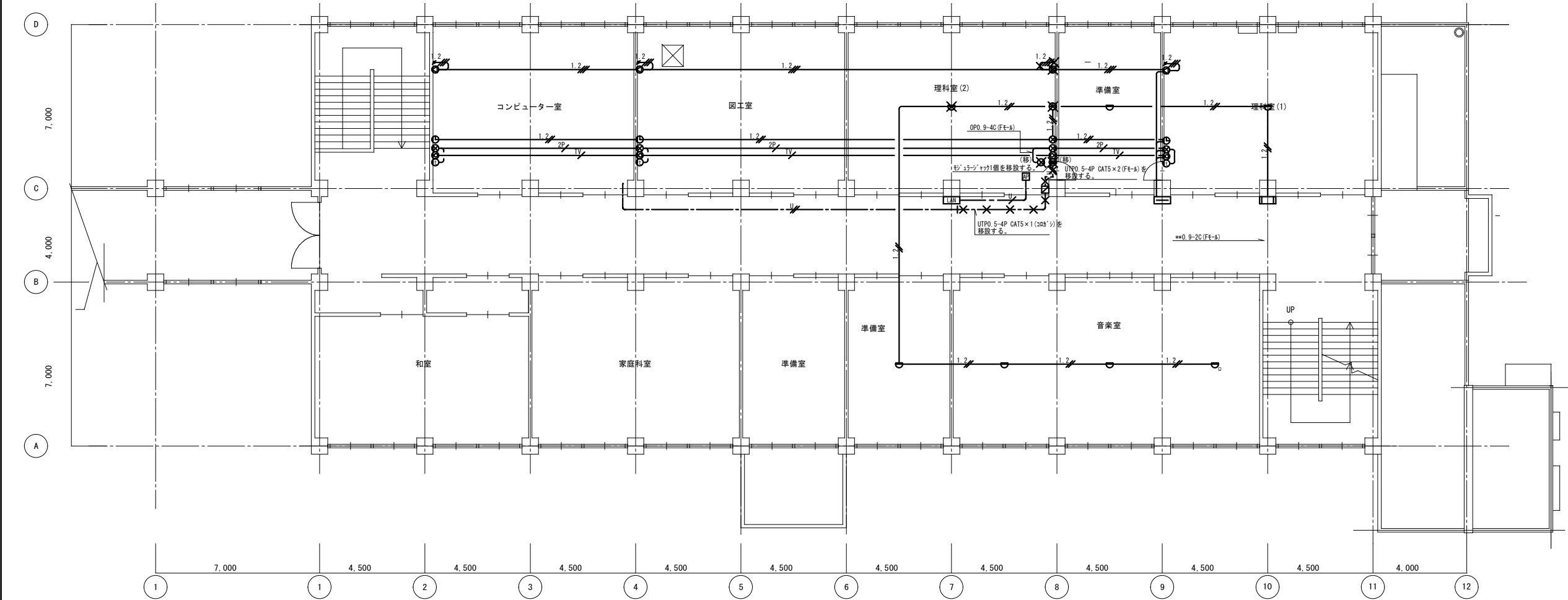
E-01

2024年12月





管理棟 2階平面図 (改修前)

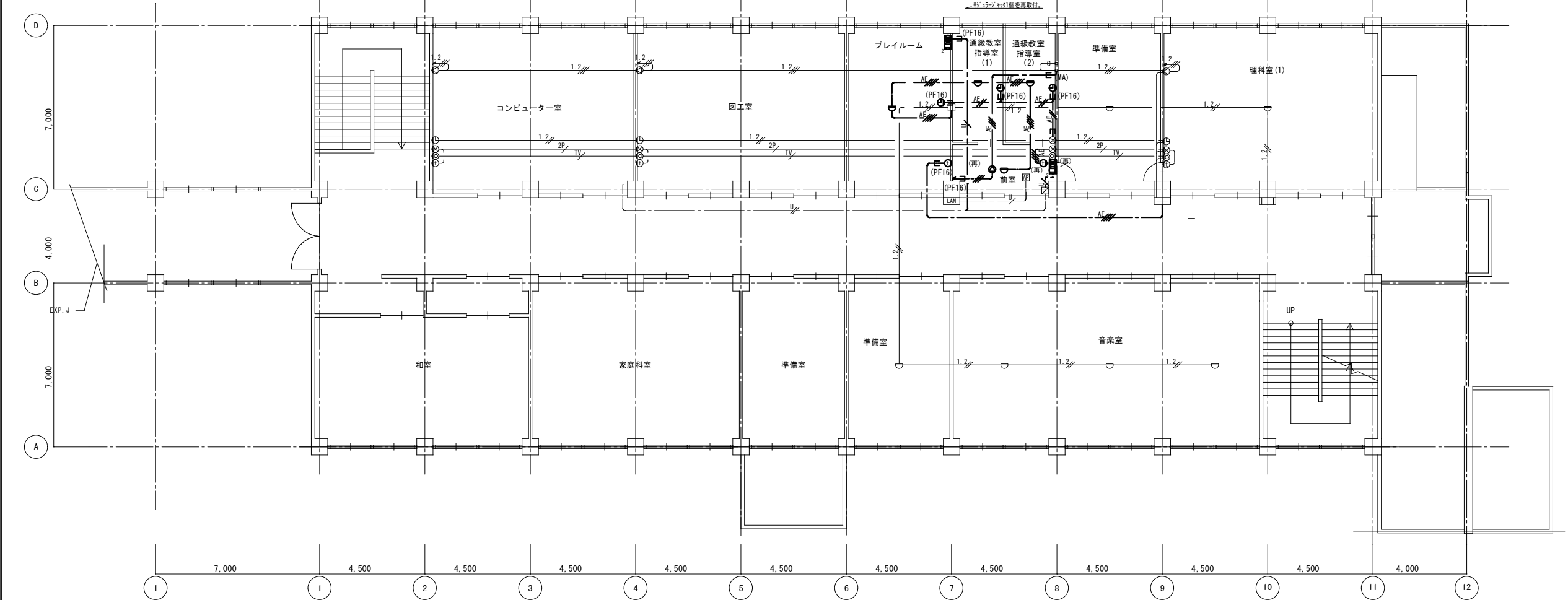


凡 例		
記 号	名 称	仕 様
	弱端子壁	露出壁掛型
	弱端子壁 (LAN)	露出壁掛型
	スピーカー	壁掛型
	アッテネーター	3W 金属プレート
	電気時計	壁掛型
	ノズルプレート	2ヶ用 金属プレート
	直列ユニット	中間 金属プレート
	インターホン	子機
	モジュージャック	8極8芯 CAT5E ×2 金属プレート
	アクセスポイント	無線LAN
	機器収容箱	消火栓箱込
	差動式スポット型感知器	2種 露出型
	隠蔽配管配線	
	露出配管配線	
	天井ころがし配線	

1. 特記なき配線配管は下記による。	
記 号	仕 様
	1.2×2 (19)
	1.2×3 (19)
	1.2×2 (3コア)
	**2P (31)
	TZ-9C33A (25)
	UTPO. 5-4P CAT5 (MA)
	UTPO. 5-4P CAT5

注 記	
1.	図中、×印は撤去を示す。
2.	図中、(移)は仮撤去移動を示す。

管理棟 2階平面図 (改修後)



凡 例		
記 号	名 称	仕 様
	弱端子壁	露出壁掛型
	弱端子壁 (LAN)	露出壁掛型
	スピーカー	天井埋込型 75W/100V ATT無し
	アッテネーター	3W 金属プレート
	電気時計	壁掛型
	ノズルプレート	2ヶ用 金属プレート
	直列ユニット	中間 金属プレート
	インターホン	子機
	モジュージャック	8極8芯 CAT5E ×2 金属プレート
	アクセスポイント	無線LAN
	機器収容箱	消火栓箱込
	差動式スポット型感知器	2種 露出型
	隠蔽配管配線	
	露出配管配線	
	天井ころがし配線	

1. 特記なき配線配管は下記による。	
記 号	仕 様
	EM-AE1. 2-2C
	EM-AE1. 2-3C
	EM-AE1. 2-4C
	1.2×2 (19)
	1.2×3 (19)
	AE1. 2-2P (FE-R)
	TZ-9C33A (25)
	UTPO. 5-4P CAT5 (MA)
	UTPO. 5-4P CAT5

注 記	
1.	図中、×印は撤去を示す。
2.	図中、(再)は再取付を示す。



株式会社 海 渡 設 計

神崎信二
一級建築士 第323073号
福岡県知事登録第1-30027号

工事名称

古賀西小学校屋上防水等改修工事

図面名称

弱电設備 (改修前・改修後)

A3 縮尺
S=1:200
A1 縮尺
S=1:100

No
E-04
日付
2024年12月